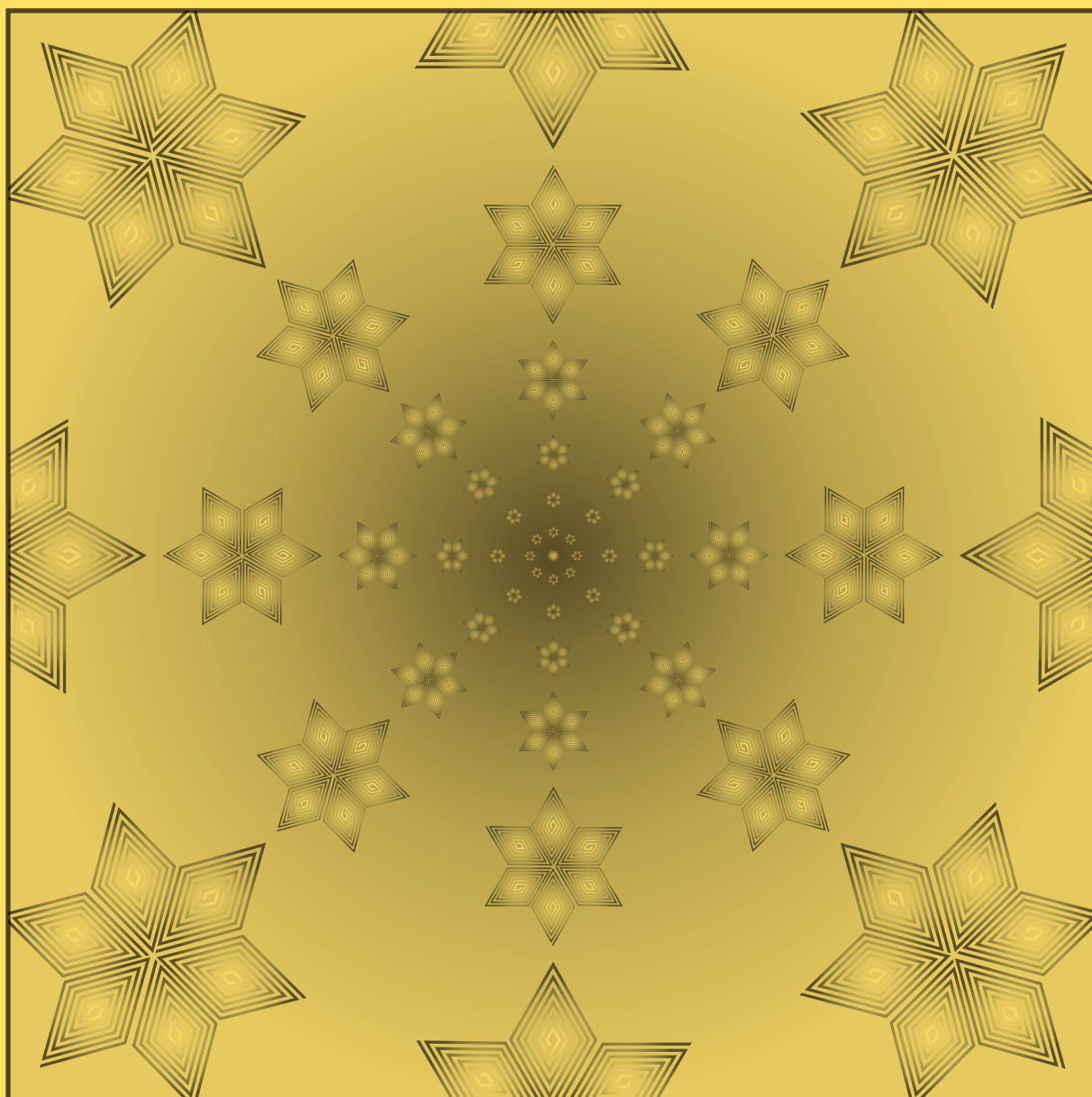

2013年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

環：国際環境経済学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①適用学生

13年度：2013年度入学者対象科目

12年度以前：2007年度～2012年度入学者対象科目

※2006年度以前の入学者は全て履修できません。

②科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献が記載されています。

⑥評価方法について記載されています。

⑦原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		⑦
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		⑦
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』で確認した上で、履修登録をしてください。

②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。

各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2013年度入学者用)

目次 学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	言語文化論	安井 一郎	月4	2	1	全	1
	春	哲学Ⅰ	川口 茂雄	金4	2	1	全	2
		哲学Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4		

「外国語科目基盤科目」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	4
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	5
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	6
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	4
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	5
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	6
		英語Ⅲ(IE)	2014年度以降開講予定		1	2		
		英語Ⅲ(W)	2014年度以降開講予定		1	2		
		英語Ⅳ(IE)	2014年度以降開講予定		1	2		
		英語Ⅳ(W)	2014年度以降開講予定		1	2		
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	21
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
		スペイン語Ⅲ(総合)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅲ(講読)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅲ(会話1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅲ(会話2)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅳ(総合)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅳ(講読)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅳ(会話1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		スペイン語Ⅳ(会話2)	2014年度以降開講予定		1	2		
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	30
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	32
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	33
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	30
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	32
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	33
		中国語Ⅲ(総合)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅲ(講読)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅲ(会話1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅲ(会話2)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅳ(総合)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅳ(講読)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅳ(会話1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		中国語Ⅳ(会話2)	2014年度以降開講予定		1	2		

注: 配当学年が2年生以上の科目は2013年度は開講しません。履修不可等も記載していません。

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	41
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	42
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	43
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	44
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	41
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	42
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	43
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	44
		韓国語Ⅲ(文法・読解1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅲ(文法・読解2)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅳ(文法・読解1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅳ(文法・読解2)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	2014年度以降開講予定		1	2		
		韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	2014年度以降開講予定		1	2		

「外国語科目進展科目」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		英語上級	2015年度以降開講予定		2	3		
		英語演習Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		英語演習Ⅱ	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳論・英語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・英語	2015年度以降開講予定		2	3		
		スペイン語上級	2015年度以降開講予定		2	3		
		スペイン語演習	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳論・スペイン語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・スペイン語	2015年度以降開講予定		2	3		
		中国語上級	2015年度以降開講予定		2	3		
		中国語演習	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳論・中国語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・中国語	2015年度以降開講予定		2	3		
		韓国語上級	2015年度以降開講予定		2	3		
		韓国語演習	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳論・韓国語	2015年度以降開講予定		2	3		
		翻訳通訳実習・韓国語	2015年度以降開講予定		2	3		

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22353	春	スペイン研究概論	二宮 哲	月5	2	1	全	74
22354	秋	ラテンアメリカ研究概論	佐藤 勤治	月5	2	1	全	74
		スペインの言語と歴史・文化	2014年度以降開講予定		2	2		
		スペイン語研究	2014年度以降開講予定		2	2		
		スペイン語圏の文学	2014年度以降開講予定		2	2		
		ラテンアメリカの歴史と文化	2014年度以降開講予定		2	2		
		ラテンアメリカの政治と社会	2014年度以降開講予定		2	2		
		ラテンアメリカの経済と社会	2014年度以降開講予定		2	2		
		ラテンアメリカ近現代史	2014年度以降開講予定		2	2		
		ラテンアメリカの国際関係	2014年度以降開講予定		2	2		
		ブラジル研究	2014年度以降開講予定		2	2		
		スペイン・ラテンアメリカ特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22372	春	中国研究概論	松岡 格	火4	2	1		83
		中国言語文化論	2014年度以降開講予定		2	2		
		中国社会論	2014年度以降開講予定		2	2		
		中国地域論	2014年度以降開講予定		2	2		
		現代中国論Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		現代中国論Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		中国史Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		中国史Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		中国特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22385	春	韓国研究概論	平田 由紀江	水3	2	1		90
		韓国社会論Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		韓国社会論Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		韓国経済論	2014年度以降開講予定		2	2		
		韓国史	2014年度以降開講予定		2	2		
		日韓比較文化論	2014年度以降開講予定		2	2		
		日韓比較教育論	2014年度以降開講予定		2	2		
		日韓交流史	2014年度以降開講予定		2	2		
		韓国研究情報収集法	2014年度以降開講予定		2	2		
		韓国特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22402	春	日本研究概論Ⅰ	宇津木 言行	火3	2	1	全	102
22403	秋	日本研究概論Ⅱ	浅山 佳郎	金1	2	1	全	64
22404	春	日本文学論・古代Ⅰ	福沢 健	月2	2	1	全	65
22405	秋	日本文学論・古代Ⅱ	福沢 健	月2	2	1	全	65
22406	春	日本文学論・中世Ⅰ	宇津木 言行	火4	2	1	全	66
22407	秋	日本文学論・中世Ⅱ	飯島 一彦	木3	2	1	全	66
22408	春	日本文学論・近現代Ⅰ	佐藤 毅	木1	2	1	全	67
22409	秋	日本文学論・近現代Ⅱ	佐藤 毅	木1	2	1	全	67
22410	春	民俗学	林 英一	木1	2	1	全	104
22411	春	日本史Ⅰ	守田 逸人	火5	2	1	全	68
22412	秋	日本史Ⅱ	守田 逸人	火5	2	1	全	68
		日本思想史Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		日本思想史Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		日本特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		

「言語教育研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22446	春	言語学概論	安間 一雄	火3	2	1	全	69
		英語学概論	2013年度不開講		2	1	全	
22448	春	日本語教育概論	石塚 京子	月2	2	1	全	145
		応用言語学Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		応用言語学Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
22453	春	英語圏の文学Ⅰ	未定	未定	2	1	全	109
22454	秋	英語圏の文学Ⅱ	未定	未定	2	1	全	109
		英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		国際語としての英語	2014年度以降開講予定		2	2		
		日本語教授法Ⅰa	2015年度以降開講予定		2	3		
		日本語教授法Ⅰb	2015年度以降開講予定		2	3		
		日本語教授法Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4		
		日本語教授法Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4		
		日本語教授法Ⅱ	2016年度以降開講予定		2	4		
		日本語音声学	2014年度以降開講予定		2	2		
22466	春	日本語文法論Ⅰ	武田 明子	火3	2	1	全	148
22467	秋	日本語文法論Ⅱ	武田 明子	火3	2	1	全	148
22468	秋	日本語コミュニケーション論	宇津木 言行	火4	2	1	全	145
		英語教育特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		
		日本語教育特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		

「グローバル社会研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22486	秋	異文化間コミュニケーションⅠ	2013年度不開講		2	1		
		異文化間コミュニケーションⅡ	山本 英政	月2	2	1	全	121
		多文化共生研究Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		多文化共生研究Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		比較文化論	2014年度以降開講予定		2	2		
		大衆文化論	2014年度以降開講予定		2	2		
		ローカル・メディア論	2014年度以降開講予定		2	2		
		英語圏の文化	2014年度以降開講予定		2	2		
		英語圏事情	2014年度以降開講予定		2	2		
22494	春	国際関係論	鈴木 宏尚	火5	2	1		128
22495	春	国際協力論	浦部 浩之	水3	2	1		129
22496	秋	南北問題	浦部 浩之	水3	2	1		129
22497	秋	NGO論	清水 俊弘	水4	2	1	全	131
		国際政治論Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		国際政治論Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		国際経済論Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		国際経済論Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		日本政治外交史Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		日本政治外交史Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		国際機構と法Ⅰ	2015年度以降開講予定		2	3		
		国際機構と法Ⅱ	2015年度以降開講予定		2	3		
		地域研究論	2014年度以降開講予定		2	2		
		グローバル社会特殊研究	2014年度以降開講予定		2	2		

「人間発達科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22516	春	教育学概論Ⅰ(教職論)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	158
22518	春	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	159
22519	秋	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原 憲一	月5	2	1	全	159
22522	春	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	156
22523	秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	156
22521	秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	156
22520	秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	157
22524	春	心理学概論Ⅰ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	162
		心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	2014年度以降開講予定		2	2		
22526	春	スポーツ・レクリエーション概論	和田 智	金4	2	1	全	70
22527	秋	スポーツ科学概論	依田 珠江	木4	2	1	全	70
		教育の歴史Ⅰ	2014年度以降開講予定		2	2		
		教育の歴史Ⅱ	2014年度以降開講予定		2	2		
		比較教育制度論	2014年度以降開講予定		2	2		
		教育課程論	2014年度以降開講予定		2	2		
22538	春	教育心理学	白砂 佐和子	火4	2	1	全	160
22536	春	教育心理学	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
22537	秋	教育心理学	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
22539	秋	教育心理学	白砂 佐和子	火4	2	1	全	160
		カウンセリング論	2014年度以降開講予定		2	2		
		パーソナリティ理論	2014年度以降開講予定		2	2		
		学校カウンセリング	2014年度以降開講予定		2	2		
22547	秋	人間発達科学特殊研究(教師と語る)	川村 肇	金3	2	1	全	172

「総合科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22557	春	社会学Ⅰ	木本 玲一	月4	2	1	全	120
22558	秋	社会学Ⅱ	岡村 圭子	土1	2	1	全	120
22559	春	文化人類学Ⅰ	井上 兼行	月3	2	1	全	119
22560	秋	文化人類学Ⅱ	井上 兼行	月3	2	1	全	119
22561	春	倫理学Ⅰ	川口 茂雄	月3	2	1	全	139

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
22562	秋	倫理学Ⅱ	川口 茂雄	金4	2	1	全	139
22563	春	文化史入門	古川 堅治	水2	2	1	全	137
		東洋思想史Ⅰ	2013年度不開講		2	1	全	
		東洋思想史Ⅱ	2013年度不開講		2	1	全	
22566	春	文明史研究Ⅰ	櫻井 悠美	月2	2	1	全	138
22567	秋	文明史研究Ⅱ	櫻井 悠美	月2	2	1	全	138
22568	春	比較宗教史	川口 茂雄	月4	2	1	全	141
22569	春	科学史Ⅰ	野澤 聡	金4	2	1	全	177
22570	秋	科学史Ⅱ	野澤 聡	金4	2	1	全	177
		科学技術基礎論Ⅰ	2013年度不開講		2	1	全	
		科学技術基礎論Ⅱ	2013年度不開講		2	1	全	
22573	春	数学Ⅰ	東 孝博	月2	2	1	全	178
22574	秋	数学Ⅱ	東 孝博	月2	2	1	全	178
22575	春	物理学Ⅰ	東 孝博	月4	2	1	全	71
22576	秋	物理学Ⅱ	東 孝博	月4	2	1	全	71
		天文学Ⅰ	2013年度不開講		2	1	全	
		天文学Ⅱ	2013年度不開講		2	1	全	
22579	春	生物学Ⅰ	加藤 億重	火1	2	1	全	72
22580	秋	生物学Ⅱ	依田 珠江	金3	2	1	全	72
22581	春	生理学Ⅰ	依田 珠江	金4	2	1	全	73
22582	秋	生理学Ⅱ	依田 珠江	金4	2	1	全	73
22583	春	地球環境論Ⅰ	北崎 幸之助	金4	2	1	全	180
22584	秋	地球環境論Ⅱ	北崎 幸之助	金4	2	1	全	180
22585	春	コンピュータと言語	呉 浩東	月2	2	1	全	183
22586	春	情報科学各論Ⅰ	松山 恵美子	水2	2	1	全	184
22587	秋	情報科学各論Ⅰ	松山 恵美子	水2	2	1	全	184
22588	春	情報科学各論Ⅰ	金子 憲一	木3	2	1	全	184
22589	秋	情報科学各論Ⅰ	田中 雅英	火4	2	1	全	184
22592	秋	情報科学各論Ⅱ	田中 雅英	火3	2	1	全	186
22590	春	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	木4	2	1	全	186
22591	秋	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	木4	2	1	全	186
22593	秋	情報科学各論Ⅱ	金子 憲一	月3	2	1	全	186
		データ構造とアルゴリズム論	2014年度以降開講予定		2	2		
		データベース論	2014年度以降開講予定		2	2		
		社会調査法	2014年度以降開講予定		2	2		
		統計と調査法	2014年度以降開講予定		2	2		
22606	春	総合科学特殊研究(宇宙論a)	東 孝博	火1	2	1	全	179
22607	秋	総合科学特殊研究(宇宙論b)	東 孝博	火1	2	1	全	179

「演習・卒業研究等」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春/秋	卒業研究	2016年度以降開講予定		2	4		

全学総合科目

「スポーツ・レクリエーション部門」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流プログラム)	各担当教員		1	1	全	194

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	日本語1	各担当教員		1	1	全	195
	春/秋	日本語2	各担当教員		1	1	全	196
	春/秋	日本語3	各担当教員		1	1	全	197
	春/秋	専門日本語	各担当教員		1	1	全	198

※関連教養科目は、教職課程登録者のみ履修可能です。シラバスは、「免許課程」の「教科に関する科目」を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2012年度以前入学者用)

目 次

必須教養科目群

「学科基礎」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		基礎演習a	2013年度不開講				全	
		基礎演習b	2013年度不開講				全	
	秋	言語文化論	安井 一郎	月4	2	1	全	1
	春	哲学Ⅰ	川口 茂雄	金4	2	1	全	2
		現代世界論	2013年度不開講				全	
	春	哲学Ⅱ	川口 茂雄	金3	2	4	全	3
20631	秋	哲学Ⅱ	川口 茂雄	金3	2	4	全	3

「外国語」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	
	春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	7
	春	英語Ⅲ(S)	各担当教員		1	2	全	8
	春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	9
	秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	7
	秋	英語Ⅳ(S)	各担当教員		1	2	全	8
	秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	9
	春	英語Ⅴ(AE)	C. チャー		1	3	全	10
	春	英語Ⅴ(AE)	J. ハント		1	3	全	11
	春	英語Ⅴ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	12
	春	英語Ⅴ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	13
	春	英語Ⅴ(AE)	M. ハルディン		1	3	全	14
	春	英語Ⅴ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	15
	春	英語Ⅴ(AE)	奥平 文子		1	3	全	16
	春	英語Ⅴ(AE)	山本 英政		1	3	全	17
	秋	英語Ⅵ(AE)	C. チャー		1	3	全	10
	秋	英語Ⅵ(AE)	J. ハント		1	3	全	11
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	12
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	13
	秋	英語Ⅵ(AE)	M. ハルディン		1	3	全	14
	秋	英語Ⅵ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	15
	秋	英語Ⅵ(AE)	奥平 文子		1	3	全	16
	秋	英語Ⅵ(AE)	山本 英政		1	3	全	17
	春	英語Ⅴ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	18
	秋	英語Ⅴ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	18
	春	英語Ⅵ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	18
	秋	英語Ⅵ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	18
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	21
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	19
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	20
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	22
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	23
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	24
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	25
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	26

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	23
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	24
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	25
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	26
	春	スペイン語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	27
	秋	スペイン語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	28
	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	27
	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	28
21231	春	スペイン語Ⅴ(応用1)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
20019	秋	スペイン語Ⅴ(応用1)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
21232	春	スペイン語Ⅴ(応用2)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
20020	秋	スペイン語Ⅴ(応用2)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
21209	春	スペイン語Ⅵ(応用1)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
21336	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
21210	春	スペイン語Ⅵ(応用2)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
21337	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)再履修	児島 峰	月1	1	3	全	29
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	30
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	32
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	33
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	30
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	32
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	33
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	34
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	35
	春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	36
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	37
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	34
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	35
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	36
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	37
	春	中国語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	38
	春	中国語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	39
	秋	中国語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	38
	秋	中国語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	39
21235	春	中国語Ⅴ(応用1)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
20023	秋	中国語Ⅴ(応用1)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
21236	春	中国語Ⅴ(応用2)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
20024	秋	中国語Ⅴ(応用2)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
21213	春	中国語Ⅵ(応用1)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
21338	秋	中国語Ⅵ(応用1)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
21214	春	中国語Ⅵ(応用2)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
21343	秋	中国語Ⅵ(応用2)再履修	永田 小絵	水3	1	3	全	40
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	41
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	42
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	43
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	44
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	41
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	42
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	43
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	44
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	45
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	46
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	47
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	48
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	45
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	46
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	47
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	48

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14744	春	韓国語Ⅴ(応用1)	白 寅英	火2	1	3	全	49
18538	春	韓国語Ⅴ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	50
13378	春	韓国語Ⅴ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	51
18495	春	韓国語Ⅴ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	52
14739	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	白 寅英	火2	1	3	全	49
18539	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	50
13408	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	51
18497	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	52
21241	春	韓国語Ⅴ(応用1)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
20027	秋	韓国語Ⅴ(応用1)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
21242	春	韓国語Ⅴ(応用2)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
20028	秋	韓国語Ⅴ(応用2)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
21219	春	韓国語Ⅵ(応用1)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
21331	秋	韓国語Ⅵ(応用1)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
21220	春	韓国語Ⅵ(応用2)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63
21332	秋	韓国語Ⅵ(応用2)再履修	沈 元燮	水4	1	3	全	63

選択教養科目群

「外国語演習科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
18606	春	英語演習Ⅰ	J. ハント	月3	2	3	全	53
19414	春	英語演習Ⅰ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
18620	春	英語演習Ⅰ	関戸 冬彦	木4	2	3	全	55
18602	春	英語演習Ⅰ	山本 英政	水2	2	3	全	56
18622	春	英語演習Ⅰ	中込 知子	水3	2	3	全	57
19816	春	英語演習Ⅰ	中島 直美	火2	2	3	全	58
18607	秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	月3	2	3	全	53
19415	秋	英語演習Ⅱ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
18621	秋	英語演習Ⅱ	関戸 冬彦	木4	2	3	全	55
18603	秋	英語演習Ⅱ	山本 英政	水3	2	3	全	56
18623	秋	英語演習Ⅱ	中込 知子	水3	2	3	全	57
19817	秋	英語演習Ⅱ	中島 直美	火2	2	3	全	58
19402	春	スペイン語演習Ⅰ	未定	水3	2	3	全※1	59
19404	春	スペイン語演習Ⅰ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	60
19403	秋	スペイン語演習Ⅱ	未定	水3	2	3	全※1	59
19405	秋	スペイン語演習Ⅱ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	60
19410	春	中国語演習Ⅰ	武信 彰	月2	2	3	全※1	61
18590	春	中国語演習Ⅰ	吉田 桂子	金3	2	3	全※1	62
19411	秋	中国語演習Ⅱ	武信 彰	月2	2	3	全※1	61
18591	秋	中国語演習Ⅱ	吉田 桂子	金3	2	3	全※1	62
18626	春	韓国語演習Ⅰ	沈 元燮	水4	2	3	全※1	63
18625	秋	韓国語演習Ⅱ	沈 元燮	水4	2	3	全※1	63

※1: 交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	二宮 哲	月5	2	1	全	74
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	佐藤 勘治	月5	2	1	全	74
14676	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤 勘治	木4	2	2		75
14584	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	浦部 浩之	月2	2	2		76
14848	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井 圭子	月3	2	2		77
14596	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	二宮 哲	水2	2	2		78
14677	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	佐藤 勘治	木4	2	2		75
14585	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	浦部 浩之	月2	2	2		76
14849	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		77
14597	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	二宮 哲	水2	2	2		78
15045	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	79
14621	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	二宮 哲	月4	2	2	全	80

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14590	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	金1	2	2		81
14591	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	金1	2	2		81
15044	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	82
14938	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	児島 峰	火5	2	2	全	82

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13470	春	中国研究入門	松岡 格	火4	2	1		83
14605	秋	中国研究Ⅰ(中国社会論)	松岡 格	火4	2	2		83
14586	春	中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	永田 小絵	月2	2	2		84
14909	春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	85
14910	秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	85
14594	春	中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	松岡 格	金4	2	2	法	86
14595	秋	中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	松岡 格	金4	2	2	法	86
14678	春	中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	武信 彰	月4	2	2		87
14587	秋	中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	永田 小絵	月2	2	2		84
14679	秋	中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	武信 彰	月4	2	2		87
14691	春	中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	大澤 昇	水4	2	2		88
14692	秋	中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	大澤 昇	水4	2	2		88
14703	春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	永田 小絵	水2	2	2		89
14704	秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	永田 小絵	水2	2	2		89

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13141	春	韓国研究入門	平田 由紀江	水3	2	1	全	90
14675	春	韓国研究Ⅰ(韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2	全	91
14680	秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	平田 由紀江	水3	2	2	全	91
14627	秋	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	金 泰植	月3	2	2	全	92
14567	春	韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	平田 由紀江	月4	2	2	全	92
14974	春	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	全 載旭	木2	2	2	全	93
14889	秋	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	93
14626	春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	呉 吉煥	水1	2	2	全	94
14667	秋	韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2	全	94
14892	春	韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	佐藤 厚	火2	2	2	全	95
14891	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	96
14894	秋	韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	97
14890	春	韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	97
14893	秋	韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	沈 元燮	月2	2	2	全	98

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13471	春	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	福沢 健	月2	2	1	全	99
13198	秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	99
13199	春	日本研究Ⅲ(日本史a)	丸浜 昭	水1	2	1	全	100
13200	秋	日本研究Ⅳ(日本史b)	丸浜 昭	水1	2	1	全	100
13201	春	日本研究Ⅴ(日本経済論a)	須藤 時仁	火3	2	1	全	101
13202	秋	日本研究Ⅵ(日本経済論b)	須藤 時仁	火3	2	1	全	101
13203	春	日本研究Ⅶ(日本文化論)	宇津木 言行	火3	2	1	全	102
14674	秋	日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	飯島 一彦	木2	2	2	全	102
15072	春	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	黒川 文子	火3	2	2	全	103
14851	秋	日本研究各論Ⅲ(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	104
14673	春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	宇津木 言行	木3	2	2	全	105
14850	春	日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	104
14689	秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	宇津木 言行	火3	2	2	全	105
14645	春	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	宇津木 言行	木4	2	2	全	106
14647	春	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	木3	2	2	全	107

「多言語間交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	2013年度不開講				全	
		多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	2013年度不開講				全	
13146	春	多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	安間 一雄	金2	2	1	全	108
13147	秋	多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	安間 一雄	金2	2	1	全	108
13142	春	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	未定	未定	2	1	全	109
22897	秋	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	未定	未定	2	1	全	109
14636	春	多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	臼井 芳子	水1	2	2	全	110
14637	秋	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井 芳子	水1	2	2	全	110
14852	春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	上野 直子	水2	2	2	全	111
14853	秋	多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	島田 啓一	木2	2	2	全	111
14888	秋	多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	原 成吉	火1	2	2	全	112
15238	春	多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	田村 斉敏	金3	2	2	全	112
14854	春	多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)	児嶋 一男	月3	2	2	全	113
14855	秋	多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)	児嶋 一男	月3	2	2	全	113
14617	春	多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	114
14618	秋	多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	114
14592	春	多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)	山本 英政	月2	2	2	全	115
14593	秋	多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)	山本 英政	水2	2	2	全	115
15211	春	多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	中島 直美	火1	2	2		116
14638	春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		117
14615	春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		118
15212	秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	中島 直美	火1	2	2		116
14659	秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		117
15034	秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		118

「多文化共生研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13204	春	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	井上 兼行	月3	2	1	全	119
13205	秋	多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	井上 兼行	月3	2	1	全	119
13206	春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	木本 玲一	月4	2	1	全	120
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村 圭子	土1	2	1	全	120
		多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	2013年度不開講				全	
13211	秋	多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	2	1	全	121
14856	春	多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	佐藤 唯行	火3	2	2		122
14857	秋	多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	佐藤 唯行	火3	2	2		122
		多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	2013年度不開講				全	
14566	秋	多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	井上 兼行	火3	2	2	全	123
		多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	2013年度不開講					
		多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	2013年度不開講					
15176	春	多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	木本 玲一	月5	2	2	全	124
14664	秋	多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	124
15007	秋	多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	125
14699	春	多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤 勘治	水2	2	2		126
14569	春	多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	井上 兼行	木3	2	2		127

「国際交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13145	春	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	鈴木 宏尚	火5	2	1		128
13319	春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	水3	2	1		129
13212	春	国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	鈴木 淳一	月3	2	1	全	130
13143	秋	国際交流研究Ⅳ(NGO論)	清水 俊弘	水4	2	1	全	131
13320	秋	国際交流研究Ⅴ(南北問題)	浦部 浩之	水3	2	1		129
		国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)	2013年度不開講					
14860	春	国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)	星野 昭吉	月2	2	2	法	132
14861	秋	国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)	星野 昭吉	月2	2	2	法	132
14977	春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火2	2	2	全	133
14979	秋	国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)	益山 光央	火2	2	2	全	133
14868	春	国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)	村井 良太	月3	2	2	全	134
14869	秋	国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)	村井 良太	月3	2	2	全	134

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14870	春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	高安 健一	金1	2	2	全	135
14871	秋	国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)	高安 健一	金1	2	2	全	135
14872	春	国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	136
14873	秋	国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	136

「宗教・文化・歴史研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13144	春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	1	全	137
		宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	2013年度不開講				全	
		宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	2013年度不開講				全	
13472	春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	138
13473	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	138
13148	春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	川口 茂雄	月3	2	1	全	139
13149	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	川口 茂雄	月4	2	1	全	139
14695	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化a)	古川 堅治	水1	2	2		140
14696	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化b)	古川 堅治	水1	2	2		140
14874	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	川口 茂雄	月4	2	2	全	141
14669	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)	川村 肇	水3	2	2	全	142
19178	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ(日本思想史2)	川村 肇	水3	2	2	全	142
14875	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	143
14876	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	143
14711	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ(世界の宗教と文化――神教と多神教)	古川 堅治	水2	2	2		144
		宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)	2013年度不開講					

「日本語教育研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13216	春	日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	石塚 京子	月2	2	1	全	145
13217	秋	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	宇津木 言行	火4	2	1	全	145
14687	春	日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)	中西 家栄子	火5	2	2		146
14688	秋	日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)	中西 家栄子	火5	2	2		146
14879	春	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	磯村 一弘	水5	2	2		147
14557	春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	武田 明子	火3	2	2	全※1	148
14558	秋	日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)	武田 明子	火3	2	2	全※1	148
14559	秋	日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)	浅山 佳郎	月1	2	2	全※2	149
14563	春	日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)	浅山 佳郎	月1	2	2		149
14693	春	日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)	中西 家栄子	火2	2	2		150
14694	秋	日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)	中西 家栄子	火2	2	2		150
		日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	2013年度不開講					
		日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)	2013年度不開講					
20834	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	浅山 佳郎	木1	2	4		151
20836	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	岩沢 正子	金2	2	4		152
20835	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	中西 家栄子	水3	2	4		153
14668	春	日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教育教材論)	小山 慎治	木4	2	2	全※2	154
	春/秋	日本語教育特殊研究Ⅶ(教育実習)	各担当教員	その他	2	4		155

※1:07年度入学者は除く、※2:08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13220	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	156
13221	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火4	2	1	全	156
13219	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	156
13218	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	157
		教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	2013年度不開講				全	
		教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)	2013年度不開講				全	
13224	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	高瀬 幸恵	火5	2	1	全	158
13225	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	159
13226	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月5	2	1	全	159

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13474	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	160
13475	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	160
13227	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
13228	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	161
13476	春	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	162
14749	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	桑原 憲一	月5	2	2	全	163
14750	秋	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	164
14751	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	164
14756	秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火5	2	2	全	165
14757	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	166
14758	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火4	2	2	全	165
14672	春	教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)	瀧本 孝雄	金3	2	2	全	167
19177	秋	教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)	瀧本 孝雄	金3	2	2	全	167
14759	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	木2	2	2	全	168
14760	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	169
14761	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	木2	2	2	全	168
		教育科学研究各論Ⅵ(こども論)	2013年度不開講				全	
14862	春	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	170
14863	秋	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	170
14867	春	教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)	小島 優生	金3	2	2	全	171
14865	秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	金3	2	2	全	172
14864	秋	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	2	全	173
14649	春	教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)	依田 珠江	木2	2	2	全	174
14629	秋	教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)	松原 裕	木3	2	2	全	174
14877	春	教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	175
14604	春	教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネジメント)	川北 準人	月3	2	2	全	176
14878	秋	教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)	山岸 倫子	水4	2	2	全	176

「自然・環境研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13229	春	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	野澤 聡	金4	2	1	全	177
13230	秋	自然・環境研究Ⅱ(科学史b)	野澤 聡	金4	2	1	全	177
13477	春	自然・環境研究Ⅲ(数学a)	東 孝博	月2	2	1	全	178
13478	秋	自然・環境研究Ⅳ(数学b)	東 孝博	月2	2	1	全	178
13231	春	自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	東 孝博	火1	2	1	全	179
13232	秋	自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)	東 孝博	火1	2	1	全	179
		自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	2013年度不開講				全	
		自然・環境研究Ⅷ(天文学b)	2013年度不開講				全	
15182	春	自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	180
15183	秋	自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	180
		自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	2013年度不開講				全	
		自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)	2013年度不開講				全	
14608	春	自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)	加藤 僖重	火2	2	2	全	181
14609	秋	自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)	加藤 僖重	火2	2	2	全	181
14665	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木3	2	2	全	182
14611	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木2	2	2	全	182
14666	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木3	2	2	全	182
14614	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木2	2	2	全	182

「多言語情報処理研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13235	春	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	呉 浩東	月2	2	1	全	183
15078	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	金子 憲一	木3	2	2	全	184
15084	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	184
15100	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	184
15101	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	184
14642	春	多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)	黄 海湘	水4	2	2	全	185

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15079	春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	木4	2	2	全	186
15080	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	木4	2	2	全	186
15082	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	186
15121	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月3	2	2	全	186
15088	秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	黄 海湘	水4	2	2		187
14690	秋	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	安間 一雄	水3	2	2	全	188
14560	秋	多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	浅山 佳郎	木1	2	2		189
14697	春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)	呉 浩東	木1	2	2		190
		多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)	2013年度不開講					
14880	春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	呉 浩東	月4	2	2		191
		多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	2013年度不開講					
		多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)	2013年度不開講				全	
15083	春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	192

「卒業研究」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	193

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	初級日本語	各担当教員		1	1	全	195
	春/秋	中級日本語	各担当教員		1	1	全	196
	春/秋	上級日本語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	197
	春/秋	上級日本語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	198

13 年度	基礎演習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この「基礎演習」の目的は、1年次に今後4年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスやケアを行ない、さらに2年次以降の専門研究に対応できるよう準備することにある。 そのために、読み書きの能力などのリテラシー、分析能力、達成指向力などのコンピテンシーを高めていくことを課題とする。		1. 「基礎演習」の目的と課題（1回） 2. 大学生活を考える（1回） 大学で学ぶ心構え（目標、課題）、将来展望（学習計画、キャリア形成）、サークル活動など 3. 問題の発見と書き方（3回） 資料や文献を調べる、情報の収集、図書館の利用法、レポート・小論文の書き方、要約の仕方 4. 話し方、聞き方、ノートの取り方（2回） グループ討議、プレゼンテーションのスキル、授業の受け方、講義でのノートの取り方 5. 読み方、文章理解（3回） 読書の方法、読書の整理法、テキストの読み方 6. パソコンの利用（3回） 文章作成の基本、eメールの使い方、インターネットの使い方と情報検索、パワーポイントの作り方と使い方 7. 2年生以降の「演習」に向けて（2回）	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員によって提示される。		授業への参加度およびレポートなどにより、総合的に評価する。	

13 年度 12 年度以前	言語文化論 言語文化論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各研究科目群がおおまかにどういう分野であり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。 講義概要 講義内容としては、各研究科目群についての概説、2年次以降の演習担当教員による内容紹介、「言語」と「文化」をキーワードとして複数の教員によって展開される議論の3種類で構成される。第1の概説はこの科目の担当者による、第2、第3の内容は、毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。授業中の学生からの質問を、つよく要求する。		- 第1回 イントロダクションー「言語」と「文化」を学ぶ意味 - 第2回 国際教養学部のカリキュラムについて - 第3回 スペイン・ラテンアメリカ研究科目群 - 第4回 中国研究科目群 - 第5回 韓国研究科目群 - 第6回 日本研究科目群 - 第7回 言語教育研究科目群 - 第8回 グローバル社会研究科目群 - 第9回 人間発達科学研究科目群 - 第10回 総合科学研究科目群 - 第11回 特別トピックに関する研究討論(1) - 第12回 特別トピックに関する研究討論(2) - 第13回 演習選択について - 第14回 2年生になるに当たってー「学ぶ」ということの意味 - 第15回 まとめ なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する場合がある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
言語文化学科『演習の手引き』		出席（8割以上、厳守のこと）、レポートによる総合評価	

13 年度 12 年度以前	哲学 I 哲学 I	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
グループごとに課題をひとつ選び、発表と討議を行う。 学期の授業前半では、各グループごとに、選んだ哲学的課題について調査・分析・考察を進めていく。各グループは課題に関連する文献を調査し、グループ内での相談・議論によって問題の理解を深め、また後半での発表に向けて表現仕方の錬成を行っていく。 授業後半では、各グループの発表と、それをめぐっての受講者全員を含めての全体討議が実施されていく。 教養ある社会人への一歩として、集団発表形式によるこの授業を、ぜひおおいに活かして欲しい。 課題は詳しくは授業初回に提示する。課題の内容となる事柄の例をいくつかあげれば、幸福と公正、言語と意識、憎しみと赦し、記憶と忘却、グローバル化と伝統文化、といったものになる。		1. 課題提示とグループ分け 2. 各グループごとの調査・研究① 3. 各グループごとの調査・研究② 4. 各グループごとの調査・研究③ 5. 各グループごとの調査・研究④ 6. 第一、第二グループの発表と討論 7. 第三、第四グループの発表と討論 8. 第五、第六グループの発表と討論 9. 第七、第八グループの発表と討論 10. 第九、第十グループの発表と討論 11. 第十一、第十二グループの発表と討論 12. 第十三、第十四グループの発表と討論 13. 第十五、第十六グループの発表と討論 14. 第十七、第十八グループの発表と討論 15. まとめ	
テキスト		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リクールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）		研究発表への貢献度 40%、学期末レポート 60%で評価する。学期末レポートはグループ発表の内容を各個人で一度まとめ直し、論じてもらう形になる。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	哲学Ⅱ	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀世界・二十一世紀社会の重要な諸問題について、それら問題の源泉にある哲学的基礎的問題にまでさかのぼりながら考察し、それを英語でグループ発表する。 授業初回到提示されるいくつかの課題のなかから、各グループはひとつの課題を選ぶ。 学期の授業前半では、各グループは文献調査や考察・分析を協力して行い、問題への理解を深める。そして、考察した内容を英語で表現する準備を整えていく。 授業後半では、各グループによる英語での発表と、教室全体での討論（この討論では日本語使用も可とする）を実施していく。 したがって授業の目標・評価基準となるポイントは、①課題考察の哲学的鋭さ、②英語発表の語学的な水準、③討論での質疑応答の充実度、④グループのチームワークの良さ、といった点になる。 まもなく社会に出る四年生として、充実した英語プレゼンテーションをしっかりと準備実現してほしい。		1. 課題の解説、グループ分け 2. 各グループごとの発表準備① 3. 各グループごとの発表準備② 4. 各グループごとの発表準備③ 5. 各グループごとの発表準備④ 6. 第一、第二グループの発表と討論 7. 第三、第四グループの発表と討論 8. 第五、第六グループの発表と討論 9. 第七、第八グループの発表と討論 10. 第九、第十グループの発表と討論 11. 第十一、第十二グループの発表と討論 12. 第十三、第十四グループの発表と討論 13. 第十五、第十六グループの発表と討論 14. 第十七、第十八グループの発表と討論 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
(授業中に適宜指示する。)		発表とディスカッションへの貢献度 30%、学期末レポート 70%。学期末レポートは英語で作成するものになる。	

12 年度以前	哲学Ⅱ	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀世界・二十一世紀社会の重要な諸問題について、それら問題の源泉にある哲学的基礎的問題にまでさかのぼりながら考察し、それを英語でグループ発表する。 授業初回到提示されるいくつかの課題のなかから、各グループはひとつの課題を選ぶ。 学期の授業前半では、各グループは文献調査や考察・分析を協力して行い、問題への理解を深める。そして、考察した内容を英語で表現する準備を整えていく。 授業後半では、各グループによる英語での発表と、教室全体での討論（この討論では日本語使用も可とする）を実施していく。 したがって授業の目標・評価基準となるポイントは、①課題考察の哲学的鋭さ、②英語発表の語学的な水準、③討論での質疑応答の充実度、④グループのチームワークの良さ、といった点になる。 まもなく社会に出る四年生として、充実した英語プレゼンテーションをしっかりと準備実現してほしい。		1. 課題の解説、グループ分け 2. 各グループごとの発表準備① 3. 各グループごとの発表準備② 4. 各グループごとの発表準備③ 5. 各グループごとの発表準備④ 6. 第一、第二グループの発表と討論 7. 第三、第四グループの発表と討論 8. 第五、第六グループの発表と討論 9. 第七、第八グループの発表と討論 10. 第九、第十グループの発表と討論 11. 第十一、第十二グループの発表と討論 12. 第十三、第十四グループの発表と討論 13. 第十五、第十六グループの発表と討論 14. 第十七、第十八グループの発表と討論 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
(授業中に適宜指示する。)		発表とディスカッションへの貢献度 30%、学期末レポート 70%。学期末レポートは英語で作成するものになる。	

13 年度	英語 I (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはクラスによって異なります。 (Class A): <i>THINK Sociology</i> (Pearson Longman) (Class B, C, D): <i>Pathways 1</i> (Heinle Cengage Learning) (Class E, F, G, H): <i>Well Read 2</i> (Oxford University Press)		課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%) 出席: 出席を大前提とする。8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

13 年度	英語 II (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語 I)と同じ		春学期(英語 I)と同じ	

13 年度	英語 I (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはクラスにより異なる。 • <i>Dynamic Presentations</i> (桐原書店)(Class A-G) • <i>Nice Talking with You</i> (Macmillan), <i>Getting Ready for Speech</i> (Language Solutions)(Class H)		参加態度・予習・努力等 (10%), 口頭発表 (30%), 期末ペアインタビュー (30%), 課題到達度 (30%)	

13 年度	英語 II (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 I (S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

13 年度	英語 I (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはクラスにより異なる。 •<i>Discoveries in Academic Writing</i> (Cengage) (Class A) •<i>Effective Academic Writing 2</i> (Oxford UP) (Class B-H)		テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)，期末作文課題 (20%)，授業参加態度 (20%)，ポートフォリオ (10%)	

13 年度	英語 II (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語 I (W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

12 年度以前	英語Ⅲ（IE）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅱ（IE）」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはクラスによって異なります。 (Class A): <i>THINK Sociology</i> (Pearson Longman) (Classes B, C, D, E, F, G, H): <i>Pathways 2</i> (Heinle Cengage Learning)		課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%) 出席: 出席を大前提とする。8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語Ⅳ（IE）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅲ（IE）」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語Ⅲ)と同じ		春学期(英語Ⅲ)と同じ	

12 年度以前	英語Ⅲ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。「英語 II (S)」に引き続き、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習を行うほか、異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、正確に情報が伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはクラスにより異なる。 <i>Clockwise Advanced</i> (Oxford UP) (Class A); <i>People Like Us, Too</i> (Macmillan) (Class B-H)		参加態度・予習・努力等 (10%), 口頭発表 (30%), 期末ペアインタビュー (30%), 課題到達度 (30%)	

12 年度以前	英語Ⅳ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 III (S)」に引き続き、柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、より説得力があるメッセージが伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

12 年度以前	英語Ⅲ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはクラスにより異なる。 ・Sourcework (Cengage) (Class A) ・Effective Academic Writing 2 (Class B-H), Basic Steps to Writing Research Papers (Cengage) (Class B-H)		テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%), 期末作文課題 (20%), 授業参加態度 (20%), ポートフォリオ (10%)	

12 年度以前	英語Ⅳ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 Ⅲ (W)」に引き続き、実質的なエッセイライティングを学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが、いずれもより高度な内容を含み、より安定したスキルの証明が求められる。教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他、受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

12 年度以前	英語 V (AE) (Basic Research and Discussion: Culture and Society)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Course Objective: Students will discuss and research social issues focused on Japan and the world. Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction to the course (mini workshops of skills involved) for diagnostic purposes Week 2 to 5 Using academic articles (chose teacher)students will Take notes on main ideas Evaluate and criticize Discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles as above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid. Coursework Part 2 Weeks 7 to 15 Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Thomson Learning Japan)</i> ISBN978-4-902902-89-1 Additional teacher texts <i>Writing Academic English, 3rd Edition, hand outs and articles</i>		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Research and Discussion: Global Issues)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		Course Objective: Students will discuss and research gender issues Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction to the course (mini workshops of skills involved) for diagnostic purposes Week 2 to 5 Using academic articles (chose teacher)students will Take notes on main ideas Evaluate and criticize Discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles as above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid. Coursework Part 2 Weeks 7 to 15 Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Thomson Learning Japan)</i> ISBN978-4-902902-89-1 Additional teacher texts <i>Writing Academic English, 3rd Edition, hand outs and articles</i>		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (Global Food Issues)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Week 1: Introduction and Course Outline Week 2: Global Food System Week 3: History of Food Week 4: Population and Food Week 5: Food Animal Production Week 6: Food Distribution and Transport Week 7: Food Safety and Processing Week 8: Hunger and Food Security Week 9: GM Food Week 10: Alternative Systems Week 11: Research Paper Conferencing Week 12: Presentations Week 13: Presentations Week 14: Opinion Paper Writing Session Week 15: Discussion Class schedule may change due to academic calendar	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Additional text to be announced.		評価基準: 準備・参加 (10%), 課題 (10%), opinion paper (15%), research paper (50%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (15%) 出席: 出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Environmental Issues and Solutions)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		Week 1: Introduction and Course Outline Week 2: Energy Needs, Population and Climate Change Week 3: Oil and Gas Week 4: Tar Sands and Fracking Week 5: Coal Week 6: Biofuels Week 7: Nuclear Power Week 8: Wind Power Week 9: Solar Power Week 10: Geothermal Power Week 11: Research Paper Conferencing Week 12: Presentations Week 13: Presentations Week 14: Opinion Paper Writing Session Week 15: Discussion Class schedule may change due to academic calendar	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Additional text to be announced.		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (Environmental Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1. Introduction to the course and themes 2. Shopping and Us: consumption patterns 3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing 4. Food and Us: Food safety 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: chemicals in food and cosmetics 8. Energy and Us: energy sources 9. Transport and Us: cars vs. mass transit 10. Nature and Us: environmental destruction 11. Nature and Us: endangered wildlife 12. Travel: effects of tourism on local areas 13. Review of prior units and Review Exam 14. Oral Presentations 15. Oral Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 <i>Looking Back, Moving Forward: Reading and Discussion</i> , Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006)		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Global Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		1. Introduction to the course and themes 2. Information and misinformation 3. Saving tropical rainforests 4. Concerning happiness 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Gizmo addiction 8. Coping with noise 9. The whaling debate 10. Food: not just a commodity 11. Sweatshop labor 12. Japan's declining population 13. Review of prior units and Review Exam 14. Oral Presentations 15. Oral Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 <i>Confronting the Issues</i> , David Peaty, (Kinseido, 2008)		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (Green Technology)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Week 1: Introduction Week 2/3: Opinion paper 1 Week 4/5: Opinion paper 2 Week 6: Research paper topic & bibliography Week 7: Research paper detailed outline Week 8: Research paper citations Week 9: Research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Research paper draft 2 & peer review Week 11: Research paper draft 3 & conferencing 2 Week 12: Abstract Week 13: Research paper due Week 14: Oral presentation (Group 1) Week 15: Oral presentation (Group 2) Additional reading to be introduced as needed.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Environmental Topics)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		Week 1: Introduction Week 2/3: Opinion paper 1 Week 4/5: Opinion paper 2 Week 6: Research paper topic & bibliography Week 7: Research paper detailed outline Week 8: Research paper citations Week 9: Research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Research paper draft 2 & peer review Week 11: Research paper draft 3 & conferencing 2 Week 12: Abstract Week 13: Research paper due Week 14: Oral presentation (Group 1) Week 15: Oral presentation (Group 2) Additional reading to be introduced as needed.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (The Ascent of Man)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1 Introduction: <i>The Ascent of Man</i> 2 Crossing the Bazuft: the Nomad Lifestyle 3 The War Instinct 4 The Grain in the Stone: The Incas and the City 5 The Grain in the Stone: The Architecture of Light 6 The Hidden Structure: Fire, Gold, and Mercury 7 The Sword and the Samurai 8 The Music of the Spheres: Harmony and Perspective 9 The Majestic Clockwork: Einstein and Relativity 10 Drive for Power: The Industrial Revolution 11 The Ladder of Creation: Evolution 12 Generation upon Generation: Genetics 13 The Long Childhood 14 Presentations (1) 15 Presentations (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%: outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Japan, Past and Present, through Westerners' Eyes)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		1 Introduction: <i>Traveller from Tokyo, The Chrysanthemum and the Sword, and Dogs and Demons</i> 2 TtT: The House and the City 3 TtT: Marriage, Women, and the Yoshiwara 4 CS: Caste and Hierarchy in Tokugawa Japan 5 CS: Indebtedness: <i>On (Gimu)</i> 6 CS: Indebtedness: <i>On (Giri)</i> – Suicide and Revenge 7 CS: The Occupation and the Emperor 8 CS: The Family; Raising Children 9 TtT: Education and the Plate-Glass Window 10 DaD: Education – Following the Rules; O-yatoi Gaikokujin and Racism 11 DaD: Construction State 12 DaD: Manga and Anime 13 CS/TtT/DaD: Money, Debt, and <i>Narikin</i> 14 Presentations (1) 15 Presentations (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Traveller from Tokyo. John Morris. The Book Club, 1945. The Chrysanthemum and the Sword. Ruth Benedict. Mariner Books, 2005 [1946]. Dogs and Demons: Tales from the Dark Side of Modern Japan. Alex Kerr. Hill & Wang, 2002.		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (Science Fiction & Fantasy)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1. Introduction and course overview/ Science Fiction & Fantasy: the Difference? 2. Magic vs. Technology/ Opinion paper 3. Magic vs. Technology /Opinion paper due 4. Finish Magic vs. Technology / Mini-research presentations 5. Fantasy as Social Commentary /Finalize topics & thesis Statement 6. Fantasy as Social Commentary / Preliminary outline 7. Fantasy as Social Commentary/ Final outline 8. Race & Gender in SF& Fantasy/ First draft & reverse outlining 9. Race & Gender in SF& Fantasy /Mini-conferences 10. Race & Gender in SF& Fantasy / Preliminary second draft & peer review 11. World Building Activity / Second draft due 12. Begin course overview/ Presentation preparation 13. Course overview continued/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final Paper due and finish presentations. <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Short stories, articles, and links will be provided by the instructor.		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Science Fiction as Social Commentary)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		1. Introduction and course overview/ What is science fiction? 2. SF as Social Commentary overview/ Opinion paper 3. Encountering the Other: Cold War paranoia and beyond/Opinion paper due 4. Encountering the Other continued/ Mini-research presentations 5. Utopias and Dystopias /Finalize topics & thesis Statement 6. Utopias and Dystopias / Preliminary outline 7. SF as Environmental Commentary/Final outline 8. Environmental Commentary continued / First draft & reverse outlining 9. Gender and Race in SF /Mini-conferences 10. Gender and Race continued / Preliminary second draft & peer review 11. World Building Activity-Dystopia/ Second draft due 12. Begin course overview/ Presentation preparation 13. Course overview continued/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final Paper due and finish presentations. <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Short stories, articles, and links will be provided by the instructor.		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (Global Understanding)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ③ can write a short opinion paper ④ can narrow down a topic effectively ⑤ can write a good thesis statement ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Week 1: Orientation 2: Reading 1 / Academic skills 3: Reading 2 / Discussion and Facilitation 4: Reading 3 / Summary and Opinion paper 5: Reading 4 / Model conference Oral presentations (group) 6-13 : Readings / Research paper -topics -sources -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product 14: Power Point presentations (individual) 15: Presentations and Evaluation *Reading materials: TBA	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Thomson Learning) / Handouts ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (Global Issues)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		Week 1: Orientation / Academic Skills (review) 2: Reading 1 / Discussion and Facilitation 3: Reading 2 / Summary and Evaluation 4: Reading 3 / Opinion Paper 5: Reading 4 / Model Conference Oral presentations (group) 6-13 : Readings/ Research paper - topics –sources -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product 14: Power Point presentations (individual) 15: Presentations and Evaluation *Reading materials: TBA	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Thomson Learning) / Handouts ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 V (AE) (繋がる世界の課題とは)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1. Brics, eat up Japanese food 2. UN's fight against poverty in Africa 3. Hollywood in need of Japanese 4. World's new seven wonders chosen 5. Pluto demoted, no longer a true planet 6. New citizen judge system 7. X-pigs and bioclip 8. Local leaders of post-Kyoto plan 9. Two more nations join the EU 10. Globalization 11. Japanese turn to China for organ transplants 12. Media literacy 13. No cash, no cure? 14. The making of a plagiarist 15. Presentation ニコマ連続の授業である。英文を読み、内容を理解し、他者に伝え、質疑応答する。後半では各自が選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく	
テキスト、参考文献		評価方法	
Topics in Contemporary World (Tsurumi Shoten) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 VI (AE) (アメリカと試練)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		1. Rachel Carson and the wonders of the Earth 2. Gambling wit survival 3. Think different 4. War comes home 5. War for sale 6. Barbara Lee votes 'No' 7. Isamu Noguchi and the internment of Japanese-Americans 8. The spirit of aloha 9. The limits of forgiveness 10. Eugene Debs and Joseph McCarthy 11. The end of "separate but equal" 12. Wounded Knee 13. Ethnicity 14. Directness and honesty 15. Presentation 英文を読み、内容を理解し、他者に伝え、質疑応答する。後半では各自が選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく	
テキスト、参考文献		評価方法	
Different Histories(Kinseido) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

12 年度以前	英語 VI (AE) (再履修) (Imagining the Future) 英語 V (AE) (再履修) (Imagining the Future)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on the ways in which human beings have imagined the future as commentary and criticism on issues of human rights, politics, and the environment. From utopias, that imagine better ways of life, to dystopias and apocalyptic stories warning of environmental destruction and unequal power relations, the imagined future is a rich ground for both social commentary and problem solving. While learning about fictional futures, students will research and analyze the environmental, political, and economic problems reflected in such stories. Students may also be asked to watch up to two films depicting possible futures as part of their home research. Using these resources as a base, students will work on organizing and communicating their thoughts through discussion, formal presentations, and a final academic research paper.		1. Introduction and course overview/ Imagined futures, from past to present. 2. Utopias, Dystopias and Human Rights/ Opinion paper 3. Utopias, Dystopias and Human Rights/ Mini-research presentations 4. Finish Utopias, Dystopias and Human Rights /Opinion paper due 5. Environmental futures /Finalize topics & thesis Statement 6. Environmental futures/ Preliminary outline 7. Finish Environmental Futures /Final outline due 8. Apocalypse in popular culture/ First draft of research paper due 9. Apocalypse in popular culture /Mini-conferences 10. A.I. and Transhumanism / Preliminary second draft & peer review 11. World Building Activity-Your Ideal Future / Second draft due 12. Begin course overview / Presentation preparation 13. Course overview continued/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final Paper due and finish presentations. <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Short stories, articles, and links will be provided by the instructor.		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、8 回以上欠席した場合は不合格とする。	

12 年度以前	英語 V (AE) (再履修) (Science Fiction and Technology) 英語 VI (AE) (再履修) (Science Fiction and Technology)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on the genre of science fiction as it interconnects with past, present, and future technologies. Once marginalized in the corner of the bookstore, science fiction is now recognized as one of the few genres dealing with the psychological and societal implications of technological development. More specifically, it poses questions about how technology changes what it means to be human. While reading short SF stories and articles on the genre, students will research and analyze the implications of current technological and scientific developments. Students will also be asked to watch up to two canonical SF films as part of their home research. Using these resources as a base, students will work on organizing and communicating their thoughts through discussion, formal presentations, and a final academic research paper.		1. Introduction and course overview What is science fiction? 2. SF & technology overview/ Opinion paper 3. Artificial intelligence: What makes us human?/Opinion paper due 4. What makes us Human? continued/ Mini-research presentations 5. Biotechnology/Finalize topics & thesis Statement 6. Biotechnology continued/ Preliminary outline 7. Technology & Surveillance/Final outline 8. Technology & Surveillance continued/ First draft & reverse outlining/ 9. Weapons and War/Mini-conferences 10. Weapons and War/ Preliminary second draft & peer review 11. World Building Activity-Technological Utopias/ Second draft due 12. Begin course overview/ Presentation preparation 13. Course overview continued/ Abstract writing 14. Begin final presentations/ Review for final draft 15. Final paper due and finish presentations. <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 Short stories, articles, and links will be provided by the instructor.		春学期（英語 V）と同じ	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（総合1） スペイン語Ⅰ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅰ（総合2）とのペア授業である。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合1） スペイン語Ⅱ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅱ（総合1）は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合2）とのペア授業である。		① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑭ 命令表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（総合2） スペイン語Ⅰ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（総合2）はスペイン語Ⅰ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。		基本的にスペイン語Ⅰ（総合1）と同じ評価基準である。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合2） スペイン語Ⅱ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（総合2）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合2）はスペイン語Ⅱ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語Ⅱ（総合1）に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
スペイン語Ⅱ（総合1）に同じ。		基本的にスペイン語Ⅱ（総合1）と同じ評価基準である。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（入門） スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（基礎表現） スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅰ（会話） スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

13 年度 12 年度以前	スペイン語Ⅱ（会話） スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。 接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。 （講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 1）の継続である。 （会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 1）を参照。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅳ（会話 1）を参照。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅴ（応用 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（応用 1）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅵ（応用 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅴ（応用 1）の継続の授業である。 （応用 1）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅴ（応用 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（応用 2）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。 スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用 2）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語Ⅵ（応用 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅴ（応用 2）の継続の授業である。 （応用 2）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。 スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用 2）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語 V・VI（応用 1・2）再履修	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語 V・VI（応用 1・2）のシラバスを参照のこと。		クラスの人数や各人のスペイン語の能力を確認後、初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に指示する。		出席状況、定期試験によって評価する。小テストをおこなう場合がある。	

12 年度以前	スペイン語（応用 1・2）再履修	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。			
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅰ（総合Ⅰ） 中国語Ⅰ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。		1～3 発音・ピンイン 4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6 形容詞述語文、選択疑問文 7 中間試験 8 復習 9 二重目的文、量詞 10 連動文、年月日・曜日の言い方 11 有／没有、几／多少、方位詞、数詞 12 在、金額の表現 13 助動詞、語気助詞“了” 14 動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方 15 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅱ（総合Ⅰ） 中国語Ⅱ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。		1 主述述語文、程度補語、離合詞 2 進行相、動詞の重ね型 3 方向補語、結果補語 4 持続相、可能補語 5 経験相、将然相、時刻の表現 6 存現文 7 中間試験 8 復習 9 “把”字文、定着表現、到達表現 10 比較の表現 11 受身文 12 様態補語 13 使役文、後置修飾 14 “（是）…的”構文 15 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅰ（総合2） 中国語Ⅰ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。		1～3 発音 4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現 7 中間試験 8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現 11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新表現の達人Ⅰ』【基本ブック】（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅱ（総合2） 中国語Ⅱ（総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。		1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現 7 中間試験 8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 11～14 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新表現の達人Ⅰ』【基本ブック】（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。		1～3	発音
		4～6	第1課 第2課 第3課
		7	中間試験
		8	復習
		9～12	第4課 第5課 第6課
		13 14	第7課 第8課
		15	復習
		※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅱ（基礎表現） 中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。		1～3	第9課 第10課 第11課
		4～6	第12課 第13課 第14課
		7	中間試験
		8～11	第15課 第16課 第17課
		12～14	第18課 第19課 第20課
		15	復習
		※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅰ（会話） 中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）		1～3 発音 4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現 7 中間試験 8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現 11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

13 年度 12 年度以前	中国語Ⅱ（会話） 中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）		1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現 7 中間試験 8 復習 8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 11～14 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。		1 第 1 課 2 第 2 課 3 第 3 課 4 第 4 課 5 第 5 課 6 第 6 課 7 中間試験 8 復習 9 第 7 課 10 第 8 課 11 第 9 課 12 第 10 課 13 第 11 課 14 第 12 課 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール 6 6 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。		1 第 13 課 2 第 14 課 3 第 15 課 4 第 16 課 5 第 17 課 6 第 18 課 7 中間試験 8 復習 9 第 19 課 10 第 20 課 11 第 21 課 12 第 22 課 13 第 23 課 14 第 24 課 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール 6 6 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。		1～3 第1課 第2課 4～6 第3課 第4課 7 中間試験 8 復習 9～11 第5課 第6課 12～14 第7課 読み物（プリント教材） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。		1～3 第8課 第9課 4～6 第10課 第11課 7 中間試験 8 復習 9～11 第12課 第13課 12～14 第14課 読み物（プリント教材） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員（日本人教員）
講義目的、講義概要		授業計画	
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 1. 相手の話した音声を正確にキャッチする 2. 音声を語として理解する 3. 語の意味を捉える 4. 語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する 5. 相手の発言を聴きながら自分の応対を考える 6. 聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 3 課進むごとに復習テストを実施します。		単元 1 と 2 を学びます。 1. 授業方法に関するガイダンス PC による中国語の入力練習 - 第 1 課 発音の復習 - 第 2 課 新しい単語・第 3 課 お名前は？ - 復習テスト 1 解答と解説 - 第 4 課 何時に起きますか？ - 第 5 課 いつですか？ - 第 6 課 いくらですか？ - 復習テスト 2 解答と解説 - 第 7 課 新しい単語 - 第 8 課 なにがありますか？ - 第 9 課 どこにありますか？ - 復習テスト 3 解答と解説 - 第 10 課 なにが好きですか？ - 第 11 課 何時間寝ましたか？ - 特別プログラム（映画観賞） - 学期のまとめ 1～11 課の総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『音で覚える中国語会話特訓』同学社		平常点・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

12 年度以前	中国語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員（日本人教員）
講義目的、講義概要		授業計画	
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 1. 相手の話した音声を正確にキャッチする 2. 音声を語として理解する 3. 語の意味を捉える 4. 語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する 5. 相手の発言を聴きながら自分の応対を考える 6. 聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 3 課進むごとに復習テストを実施します。		単元 3 と 4 を学びます。 1. 春学期の講評と復習 - 第 12 課 新しい単語 - 第 13 課 誰に買ってあげますか？ - 第 14 課 どこで勉強しますか？ - 復習テスト 1 解答と解説 - 第 15 課 なにが盗まりましたか？ - 第 16 課 何をしていますか？ - 第 17 課 新しい単語 - 復習テスト 2 解答と解説 - 第 18 課 見たことがありますか？ - 第 19 課 たばこを吸ってもいいですか？ - 第 20 課 これより安いですか？ - 復習テスト 3 解答と解説 - 特別プログラム（映画観賞） - 学期のまとめ 12～20 課の総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『音で覚える中国語会話特訓』同学社		平常点・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

12 年度以前	中国語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※ 教科書的话题に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い、日中の習慣の違いも学ぶ。		1 第 1 課 “打电话” 2 同上の応用練習 3 第 2 課 “接风” 4 同上の応用練習 5 第 3 課 “介绍” 6 同上の応用練習 7 第 4 課 “交通工具” 8 同上の応用練習 9 第 5 課 “换钱” 10 同上の応用練習 11 第 6 課 “吃饭” 12 同上の応用練習 13 第 7 課 “生病” 14 同上の応用練習 15 第 8 課 “交通工具” ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『[スリム版] 表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※ 教科書的话题に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い、日中の習慣の違いも学ぶ。		1 第 8 課 “交通工具” の応用練習 2 第 9 課 “网上聊天儿 1” 3 同上の応用練習 4 第 10 課 “网上聊天儿 2” 5 同上の応用練習 6 第 11 課 “买东西” 7 同上の応用練習 8 第 12 課 “爱好” 9 同上の応用練習 10 第 13 課 “坐火车” 11 同上の応用練習 12 第 14 課 “观光（游外滩）” 13 同上の応用練習 14 第 15 課 “送行” 15 同上の応用練習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『[スリム版] 表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		授業への積極的な参加，授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

12 年度以前	中国語Ⅴ（応用 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅳまでの学習で身につけた、話す・書く能力を用いてさらに高度な中国語能力を養成するための学習を行う。オーラル面においては発音の不自然な癖を修正するよう心がける。中国人教員が担当し、以下にそって授業を行う。 【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 ・討論の質問に対する回答を準備する。 【授業】 <u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。<u>単語と表現</u>を用いて作文練習を行う。 【復習】各課の全体を見直し、単語と文型を定着させる。		1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をきく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12 年度以前	中国語Ⅵ（応用 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国人教員が担当する。春学期に引き続き、『情景漢語』を用いるが、学生のレベルにしたがって、討論の時間を前期よりも長くする。オーラル面においてはより自然な発音を身につけるよう心がける。 【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 ・討論の質問に対する回答を準備する。 【授業】 <u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。<u>単語と表現</u>を用いて作文練習を行う 【復習】各課の全体を見直し、単語と文型を定着させる。		1. ガイダンス 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12 年度以前	中国語Ⅴ（応用 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅴ（応用 1）と同じテキストを用い、読解力と聞く能力を向上させることを目的とする。日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。 【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換する。 【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。 【復習】 <u>朗読</u>の文章を繰り返し声に出して読み、正しい発音を身につける。		1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をきく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12 年度以前	中国語Ⅵ（応用 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。 【予習】 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。 【復習】 <u>朗読</u>の文章を繰り返し声に出して読み、正しい発音を身につける。		1. ガイダンス 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12 年度以前	中国語Ⅴ・Ⅵ（応用 1・2）再履修	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
『情景漢語』（朋友書店）のピンイン表記を漢字表記にしたものを配布し、以下の練習を行います。 ・リピーティング ・シャドーイング ・ペアワーク ・中国語→日本語への訳出 ・日本語→中国語への訳出 授業の達成目標は以下の通りです。 ・関連単語を暗記し、語彙力をつける。 ・会話の内容を正しく解釈できるようにする。 ・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。 ・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。		1. ガイダンス 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		平常点、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

12 年度以前	中国語Ⅴ・Ⅵ（応用 1・2）再履修	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
『情景漢語』（朋友書店）のピンイン表記を漢字表記にしたものを配布し、以下の練習を行います。 ・リピーティング ・シャドーイング ・ペアワーク ・中国語→日本語への訳出 ・日本語→中国語への訳出 授業の達成目標は以下の通りです。 ・関連単語を暗記し、語彙力をつける。 ・会話の内容を正しく解釈できるようにする。 ・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。 ・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。		1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をきく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 해요体 15 해요体の尊敬形	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国語Ⅰで学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。		1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㄷ語幹 8 ㄷ変則用言 9 ㄴ変則用言 10 ㄹ変則用言 11 ㅎ変則用言 12 ㄹ変則用言 13 変則用言のまとめ 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅰ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解 1）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用することにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 해요体 15 해요体の尊敬形	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅱ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解 1）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用することにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 해요体 15 해요体の尊敬形	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ） 韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第1課 基本文型 5. 第3課 自己紹介 6. 第5課 否定文 7. ハングル keyboard 練習 8. 第7課 時間の表現（曜日） 9. 第9課 過去時制 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第11課 電話の表現 12. 第13課 注文 13. 第15課 目的表現、指示表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、テスト 30%、課題提出 10%	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ） 韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 前期の復習 2. 第17課 家族・事実の確認 3. 第19課 誕生日・同時、接続表現 4. 第21課 購入・希望表現・可能表現 5. 第23課 薬局 6. 第23課 推測表現・連体形 7. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 8. 第25課 一日中の出来事 9. 第25課 要請・背景の表現 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第27課 故郷紹介 12. 第27課 進行形・条件 13. 第29課 両替・話題転換 14. 第29課 感嘆表現 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ） 韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 3. バッチム 4. 第2課 基本文型 5. 第4課 場所表現、敬語 6. 第6課 天気表現 7. 第8課 位置と数字、요 form) 8. 第10課 不規則動詞変化・漢数字 9. 中間テスト 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第12課 買い物 12. 第14課 交通手段 13. 第16課 招待不規則活用、時間表現 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

13 年度 12 年度以前	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ） 韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. 前期の復習 2. 第18課 趣味 3. 第18課 理由・提案・義務・お断り表現 4. 第20課 旅行 5. 第20課 連体形 6. 第22課 週末計画 7. 第22課 談話表現・未来時制 8. 中間テスト 9. 第24課 喫茶店 10. 第24課 お詫び表現 11. 第26課 喫茶店 12. 第26課 値段の比較・不規則活用 13. 第28課 本屋さん・比較表現 14. 第30課 週末・否定疑問文 15. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、テスト 30%、課題提出 10%	

12 年度以前	韓国語Ⅲ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1 韓国語Ⅱの復習 2 引用形 3 変則用言の復習 4 補助動詞지다 5 婉曲・感嘆・非難の語尾 6 整理① 7 意思表示の語尾 8 目的의러 9 間接疑問 10 感嘆形の군 11 던 12 아도/어도 13 것 같다 14 는데/는데 15 整理②	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語 3』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

12 年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かしより実践的な韓国語能力の習得をめざす。		1 韓国語Ⅲまでの復習① 2 韓国語Ⅲまでの復習② 3 韓国語Ⅲまでの復習③ 4 懸念을까 보다 5 成り行きと使役 6 同格の「の」 7 否定疑問文と付加疑問文 8 整理 9 ぞんざいな命令、語尾 -다가 10 根拠の提示 거든 11 助詞 12 形容詞からの派生副詞、語尾 -다면, -거나 13 整理 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語 4』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

12 年以前	韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1 韓国語Ⅱの復習 2 引用形 3 変則用言の復習 4 補助動詞지다 5 婉曲・感嘆・非難の語尾 6 整理① 7 意思表示の語尾 8 目的의러 9 間接疑問 10 感嘆形の군 11 던 12 아도/어도 13 것 같다 14 는데/는데 15 整理②	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語 3』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

12 年度以前	韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得をめざす。		1 韓国語Ⅲまでの復習① 2 韓国語Ⅲまでの復習② 3 韓国語Ⅲまでの復習③ 4 懸念을까 보다 5 成り行きと使役 6 同格の「の」 7 否定疑問文と付加疑問文 8 整理 9 ぞんざいな命令、語尾 -다가 10 根拠の提示 거든 11 助詞 12 形容詞からの派生副詞、語尾 -다면, -거나 13 整理 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語 4』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

12 年度以前	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 第1課 新学期 2. 第3課 天気予報 3. 第5課 お部屋探し 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第7課 お引っ越し祝い 6. 第9課 銀行 7. 中間テスト 8. 第11課 約束 9. 第13課 お料理 10. 第15課 お引っ越し 11. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 12. 第17課 遊園地、 13. 第19課 ソンビョン 14. 第21課 なぞなぞ 15. 聞き取り練習・スピーキング練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 出席 20%、期末試験 30%、テスト 30%、課題提出 20%	

12 年度以前	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第23課 テレビの故障中 3. 第25課 結婚 4. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 5. 第27課 書堂 6. 第29課 演劇 7. 5分 speech(前半) 8. 第29課 演劇練習 9. 第29課 演劇発表会(グループ別) 10. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 11. 第31課 ハングル 12. 第33課 韓国の山 13. 5分 speech(後半) 14. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 15. 整理	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 10%、課題提出 20% 5分 speech 20%	

12 年度以前	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 第 2 課 終了式 2. 第 4 課 お見舞い 3. 第 6 課 下宿 4. 第 8 課 お住まい 5. 第 10 課 クリにーング屋さん 6. 聞き取り練習・スピーキング練習・復習 7. 3 分 speech（前半） 8. 第 12 課 案内放送 9. 第 14 課 ブルゴギ 10. 第 16 課 育児 11. 第 18 課 秋夕 12. 3 分 speech（後半） 13. 第 20 課 口論 14. 第 22 課 写真館 15. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 出席 20%、期末試験 30%、小テスト 20%、課題提出 10% 3 分 speech 20%	

12 年度以前	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、講読力の養成、リスニング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第 24 課 テレビの修理 3. 第 26 課 友たちの結婚式 4. 第 28 課 宝くじの当たり 5. 中間テスト 6. 第 29 課 演劇グループ別練習 7. 第 29 課 演劇発表会(グループ別) 8. 第 30 課 旅行(1) 9. 第 30 課 旅行(2) 10. 第 32 課 記念日(1) 11. 第 32 課 記念日(2) 12. 第 34 課 韓国の童謡 13. 第 34 課 韓国の詩(1) 14. 第 34 課 韓国の詩(2) 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語 3』Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 10%、課題提出 10% 中間テスト 20%	

12 年度以前	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は高度な韓国語の習得を目指すものである。そのためには語彙力、文法・読解力の増進を図る必要があり、単語テストや長文の熟読、作例や作文の練習などを丹念に行っていく。なお、授業時になるべく韓国語を用いることと、聞き取りテストを実施することによって、会話能力や聞き取り能力の向上を図る。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目標は韓国語Ⅴに引き続き、高度な韓国語の習得と更なる韓国語の運用能力の向上である。そのために、全授業の使用言語を韓国語のみにし、コミュニケーション能力の向上を図る。さらに、四つの言語能力（読む、書く、話す、聞く）のバランスを見据えながら、学習者の興味に応ずる課題の作成や発表、討論などを行う予定である。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅴ（応用 2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は高度な韓国語の習得を目指すものである。そのためには語彙力、文法・読解力の増進を図る必要があり、単語テストや長文の熟読、作例や作文の練習などを丹念に行っていく。なお、授業時になるべく韓国語を用いることと、聞き取りテストを実施することによって、会話能力や聞き取り能力の向上を図る。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅵ（応用 2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目標は韓国語Ⅴに引き続き、高度な韓国語の習得と更なる韓国語の運用能力の向上である。そのために、全授業の使用言語を韓国語のみにし、コミュニケーション能力の向上を図る。さらに、四つの言語能力（読む、書く、話す、聞く）のバランスを見据えながら、学習者の興味に応ずる課題の作成や発表、討論などを行う予定である。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅴ（応用 2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	韓国語Ⅵ（応用 2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

12 年度以前	英語演習 I (Planet Earth)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will introduce students to the subject of Earth Science. Reading, group discussion and practical interpretation exercises will be used to build an understanding of the formation of our planet, its history, and the physical processes that continue to shape our world. The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the processes active on planet Earth and develop critical thinking skills. Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the planet on which we live.		Week 1: Introduction and course outline Week 2: Origin of the Earth Week 3: Size & Shape of the Earth Week 4: The Earth in space Week 5: Test 1 Week 6: Rocks and what they tell us Week 7: Earths' interior Week 8: Earthquakes Week 9: Volcanos Week 10: Test 2 Week 11: Geological Time Week 12: Dating the Earth Week 13: Geological History 1 Week 14: Geological History 2 Week 15: Test 3 The teacher may change the (order of) topics covered	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.		Assessment will be based on participation, tests and completion of activities.	

12 年度以前	英語演習 II (Life on Earth)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will help students understand current scientific theories regarding the origin and evolution of life on earth. The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the variety of life on planet Earth (and beyond), and an appreciation of Darwinian evolutionary ideas and their impact on current scientific thinking through lectures, readings, group discussions and practical interpretation exercises. This course aims to develop critical thinking skills. Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the miracle of life.		Week 1: Introduction and course outline Week 2: What is "Life"? Week 3: The origin of Life on Earth Week 4: Geological Time Week 5: Dating the Earth Week 6: Test 1 Week 7: Pre Darwinian thinking Week 8: Darwin and the Theory of Evolution Week 9: Post Darwinian ideas Week 10: Test 2 Week 11: Evidence for Evolution Week 12: Evidence for Evolution Week 13: Amazing adaptations Week 14: Amazing adaptations Week 15: Test 3 The teacher may change the (order of) topics covered	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be announced. Students will need access to a computer.		Assessment will be based on participation, tests and completion of activities.	

12 年度以前	英語演習 I (Advertising Strategies and Techniques)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will help students understand the communication process of advertising. It will provide students with general knowledge on the context of advertising and how it can influence behavior. Students will explore the strategies and creative techniques advertising agencies use. Forms of advertising to be analyzed will include newspapers, magazines, television commercials, film, sponsorship and new media. Students will be expected to share their experience, knowledge and opinions. English level: Intermediate		1. Orientation and questionnaire 2. Audience 3. Sensation and Perception 4. Colour Psychology 5. Representation 6. Angles and Shots 7. Image Analysis 8. Persuasive techniques 9. Appeals 10. Needs Analysis 11. Stereotypes 12. Product placement 13. Subliminal Advertising 14. Codes of Advertising and Sales promotion 15. Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have a dictionary.		The final grade will combine the following: attendance, classwork, homework, presentation.	

12 年度以前	英語演習 II (Media and Representation)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to develop further understanding of media concepts such as genre, narrative, representation and organizations. Students will learn to evaluate information received through the media. Classes will explore how and why media texts are produced, what messages and values they contain and how people respond to them. Students are expected to share their experience, knowledge and opinions on the issues brought up by the media viewed in class and do some research. Since the material used for this class will not be adapted, the level of English required is upper intermediate to advanced.		1. Introduction and questionnaire 2. Representation 3. Stereotypes 4. Print 5. Magazines 6. Reality shows 7. Chat and talk shows 8. Children's TV 9. Movies 10. Subliminal texts 11. Bias in the news 12. Media and Globalization 13. New Media 14. Presentations 15. Discussion and Review Note: Changes may be made.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have a dictionary.		The final grade will combine the following: attendance, classwork, homework, presentation.	

12 年度以前	英語演習 I	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語演習」(CNN Student News with Exercises)では昨今話題になっている世界のニュース (CNN Student News) を素材にしながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力のさらなる向上をはかるのと同時にいろんなジャンルに精通できるようになるのが狙いである。授業では映像、音声から得られた情報を他者に伝える練習なども豊富に行うので、決して聞いているだけの講義的授業ではない。むしろ、積極的な参加が期待されるワークショップのようなものと考えてほしい。いずれにせよ「英語演習」なので授業内は基本的に英語での参加・進行となる。また、毎回の積極的な参加が必要であり、単位取得のために仕方なく、や卒業要件の保険のため、では歓迎されないので要注意。(欠席が特段の理由なく 3 回を超えたならば単位取得とはならないのであしからず。) The aim of this course is to improve your integrated English skills through CNN Student News. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.		1 Introduction & Unit 1 Soccer Brain Study 2 Unit 2 The World's Population 3 Unit 3 Quake Concerns 4 Unit 4 Fat Tax 5 Unit 5 Global Sea Level 6 Unit 6 Light Pollution 7 Unit 7 Leaning Tower? 8 Unit 8 New Arcade Trend 9 Unit 9 Smell of Success 10 Unit 10 Mine Detection 11 Unit 11 Power of the Consumer 12 Unit 12 Shoe Frenzy 13 Unit 13 Multigenerational Homes 14 Unit 14 Speaking Code 15 Unit 15 Inspirational Teen Scholar & Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
CNN Student News vol.1 (Asahi Press)		Attendance 30% Class work & Homework 40% Final Quiz, Paper or Presentation 30%	

12 年度以前	英語演習 II	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語演習」(<i>The Catcher in the Rye</i> with Exercises)では世界的名著と呼ばれるに価するアメリカ文学の傑作 (<i>The Catcher in the Rye</i>, 『ライ麦畑でつかまえて』) を素材にしながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力のさらなる向上をはかるのと同時に小説を多角的視点で詳細に分析できるようになるのが狙いである。小説を授業で読むと聞くと英文を日本語に訳す訳読的授業を想像するかもしれないが、この授業ではそんなことはしない。そうした翻訳的訓練の場ではなく、内容に関するディスカッションを英語で行うなど、あくまで「英語」を各自が駆使する communicative な授業である。いずれにせよ「英語演習」なので上記のように授業内は基本的に英語での参加・進行となる。また、毎回の積極的な参加が必要であり、単位取得のために仕方なく、や卒業要件の保険のため、では歓迎されないので要注意。(欠席が特段の理由なく 3 回を超えたならば単位取得とはならないのであしからず。) The aim of this course is to improve your integrated English skills through the America novel, <i>The Catcher in the Rye</i>. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.		1 Introduction & Chapter 1 2 Chapter 2 & 3 3 Chapter 4 & 5 4 Chapter 6 & 7 5 Chapter 8 & 9 6 Chapter 10 & 11 7 Chapter 12 & 13 8 Chapter 14 & 15 9 Chapter 16 & 17 10 Chapter 18 & 19 11 Chapter 20 & 21 12 Chapter 22 & 23 13 Chapter 24 & 25 14 Chapter 26 & Review 15 Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Catcher in the Rye</i>		Attendance 30% Class work & Homework 40% Final Quiz, Paper or Presentation 30%	

12 年度以前	英語演習Ⅰ（スピーキング a）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
英語圏で長く暮らしたことがなければ、その場に合った英語表現をひねり出すのはたいへんだ。それをジョークを題材として身につけようとするのが授業のねらいである。 毎回、2 話ほどのジョークを他者に口伝し笑いをとり、意思伝達のコツを習得する。同時に、日米間で小話のオチがかくも異なることを発見し、大しておもしろくもないのに、外人の話しに「愛想笑い」する日本人の悪癖を乗り越えたい。 授業の使用言語は 8 割ほど英語である。		アメリカジョークを主に扱うジャンルとして ☆職業 ☆身分 ☆人種・民族 ☆男女関係 などをネタにしたものを、混合して使用する 1 週目 ガイダンス 2 週～15 週 プリントを配布し演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、プリントを配布する		普段点（出席、課題への取り組み）、小テスト	

12 年度以前	英語演習Ⅱ（スピーキング b）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
英文を読み、その意図するところを十分に理解し、他者へ口頭で伝える。題材はメディアなどで報道される様々な分野の事柄である。 最初は、事実を要領よく伝達することを目指す。徐々に、情報量の多い複雑な内容をつたえる。自分の理解と判断を相手に要領よく伝達する技能を会得する。こうした授業で、読解と発信、受信の能力の向上をはかってもらいたい。 授業の使用言語は 8 割ほど英語である。		その都度、プリントを配布する。 段階を追って、徐々に伝達内容を高度なものにしていき、英語のコミュニケーション力を高めていく。 1 週目 ガイダンス 2 週～15 週 プリント配布と演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、プリントを配布する		普段点（出席、課題への取り組み）、小テスト	

12 年度以前	英語演習Ⅰ（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ジャーナリストを目指す 20 代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画 <i>The Devil Wears Prada</i> を教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 講義内容 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。 毎回課題があるので、必ずやってくる。グループプロジェクトとして 1 シーンの script の共同執筆、ロールプレイの発表がある。		1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
Aline Brosh McKenna, <i>The Devil Wears Prada</i> 松柏社		出席（30％） 課題、授業への積極的参加度、口頭発表（40％） 期末テスト（30％）	

12 年度以前	英語演習Ⅱ（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 98 年度のアカデミー賞やゴールデングローブ賞を受賞した <i>Good Will Hunting</i> を教材として現代アメリカの社会背景を学びながら日常に話される英語のスピードに慣れ、聴解力と自分の意見をまとめて発表できる発話力の向上を目指す。 講義内容 各シーンの台詞の内容を理解した後に、それぞれの意見をまとめ、グループディスカッションを通して主人公の心の変化、登場人物の発言の意味、性格等について意見の交換を行う。また、監督の意図するテーマに対しての各場面設定の持つ意味も考えていく。 毎回課題があるので、必ずやってくる。		1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alan Rosen 楠元実子, <i>Good Will Hunting</i> 松柏社		出席（30％） 課題、授業への積極的参加度、口頭発表（40％） 期末テスト（30％）	

12 年度以前	英語演習 I	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳の実技演習をおこないます。 通訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを目的とします。 通訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになります。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。		1. オリエンテーション 2. ノートテキング演習 (1) 3. ノートテキング演習 (2) 4. 逐次通訳演習：Barack Obama 5. 逐次通訳演習：Charles Schulz 6. 逐次通訳演習：Tiger Woods 7. 逐次通訳演習：Haruki Murakami 8. 確認テスト (1) 9. 逐次通訳演習：Charlie Chaplin 10. 逐次通訳演習：Prince Tenko 11. 逐次通訳演習：Harland Sanders 12. 逐次通訳演習：Nelson Mandela 13. 逐次通訳演習：John Pemberton 14. 逐次通訳演習：Ernest Hemingway 15. 確認テスト (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		授業中に実施する 2 回の確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。	

12 年度以前	英語演習 II	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、レジスターを意識し、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。		1. オリエンテーション 2. アテンド・随行通訳 3. パーティー・レセプション通訳 4. 工場見学通訳 5. ビジネス・商談通訳 6. 芸能・スポーツ通訳 7. ニュースのボイスオーバーパ 8. 確認テスト (1) 9. 司法通訳 10. 医療通訳 11. 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12. インタビュー対談通訳 13. セミナー・講演会通訳 14. 国際会議同時通訳 15. 確認テスト (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：浅野輝子・中村幸子・Robert Hewer 著『通訳の現場から学ぶ実践演習』（南雲堂フェニックス、2008 年）		授業中に実施する 2 回の確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。	

12 年度以前	スペイン語演習 I	担当者	担当者未定
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期授業開始時までには掲示等にて告知する。		春学期授業開始時までには掲示等にて告知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	スペイン語演習 II	担当者	担当者未定
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期授業開始時までには掲示等にて告知する。		秋学期授業開始時までには掲示等にて告知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	スペイン語演習 I	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。		Plan de estudio sujeto a cambios. 1. Presentación del curso. - Argentina: información general. 2. Literatura argentina: Jorge Luis Borges. Parte I. 3. Jorge Luis Borges. Parte 2. 4. Literatura gauchesca. 5. Música argentina: folklore. Presentación oral. 6. Cuba. Información general. 7. Che Guevara y la Revolución Cubana. 8. Intercambio de opiniones sobre la Revolución Cubana. 9. Colombia: información general. 10. Gabriel García Márquez: Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras I. 11. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras II. 12. Fernando Botero. Sus obras. Parte 1. 13. Fernando Botero. Sus obras. Parte 2. 14. Presentación oral. 15. Resumen final.	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		出席状況-授業への参加態度-エッセイの結果という3つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業への出席と積極的な参加、残りの50%をエッセイと発表によって行う。	

12 年度以前	スペイン語演習 II	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。		Plan de estudio sujeto a cambios. 1. México: información general. 2. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte I. 3. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte II. 4. Frida Kahlo: obras representativas. 5. Patrimonios de la Humanidad. Presentación oral. 6. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte I. 7. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte II. 8. Presentación oral sobre pintores españoles. 9. España: Patrimonios de la Humanidad. Parte I. 10. España: Patrimonios de la Humanidad. Parte II. 11. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. Parte I. 12. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. Parte II. 13. Análisis de una película. 14. Intercambio de opiniones sobre películas. 15. Resumen final.	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		出席状況-授業への参加態度-エッセイの結果という 3 つの要素から総合的に批判して付けます。50%を授業への出席と積極的な参加、残りの 50%をエッセイと発表によって行う。	

12 年度以前	中国語演習 I	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って、そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの” 記事だけに、語彙や文体に特有のものも含まれる一方、内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 <u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので、基礎力と相当の努力が必要となる。</u>		1 オリエンテーション 2 「シンガポールは中国ではない」文化の違いに戸惑い 3 スキンシップは友好？セクハラ？華人女性に戸惑い 4 “新” 親孝行の条件とは？ 5 はびこる「中国式」悪弊は国民心理の反映 6 落書きにしか見えない達筆すぎる処方箋 7 「ご祝儀の返還」めぐり裁判沙汰に 8 爆笑ヤラセ写真がネットで話題に 9 高速道路が大渋滞、高速道路がトイレに変わった！ 10 パンダは 1 万年前まで人類のごちそうだった？ 11 わざと転んで同情と金をせしめる「転倒じいさん」 12 バス車内で異臭騒ぎ、原因は乗客の食べたドリアン 13 若年層のトンデモナイ離婚事情 14 漢字の国・中国の大学生約 8 割が書き間違え 15 大学生の求職活動で「粉飾履歴書」が横行 ※ 記事については差し替えの可能性があります	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。	

12 年度以前	中国語演習 II	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って、そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの” 記事だけに、語彙や文体に特有のものも含まれる一方、内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 <u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので、基礎力と相当の努力が必要となる。</u>		1 オリエンテーション 2 ダウンジャケットを洗ったら洗濯機が爆発 3 中国人の生活を圧迫する「人情債」とは？ 4 秘密のベールに包まれた最高指導陣の妻たち 5 中国系移民が「米国で慣れない 10 のこと」 6 故郷を離れ大都市で暮らす「老漂族」、ますます増加 7 「床材には 1 億年前の“夏目漱石” を使用」 8 「激辛」火鍋で大量吐血 9 血筋は中国、国籍は米国…増える“留守児童” 10 中央テレビのキャスター、犬肉料理でブログ炎上 11 誰も道を譲らず救急車が立ち往生、3km に 40 分 12 67 歳の老人と 28 歳の男性が車内で血みどろの戦い 13 同胞たちの品性がまるわかりになった台湾の旅 14 中国、6 割「譲る者は馬鹿を見る」 最新調査 15 中国人だらけの学校に留学する中国人、「中華街留学」が問題に ※ 記事については差し替えの可能性があります	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。	

12 年度以前	中国語演習Ⅰ（中国語ビジネス文書）	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
近年、国際社会に存在感を増す中国の急成長を背景に、中国語を操り、日中間のコミュニケーションの一翼を担える人材の育成が急務となっています。 本講では、日中間のビジネス業務に焦点を合わせ、「ビジネスレター」「契約書」など、中国語によるビジネス文書の様々な表現方法を習得します。 授業は、実際にビジネス現場にいる講師が、実務に使用されている資料を使って進め、中国語とともにビジネス分野の専門用語や「貿易業務」に関する基礎知識の理解を目指します。 実際の授業では将来の進路選択の一助となるよう、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め全員に発言の機会を提供します。 理解をより深める為、秋学期中国語演習Ⅱ（金3限）の受講を薦めます		1 日中貿易概説 2 中国語のビジネスレターの概要 3 業務取引の申し込みと CIF 4 業務取引の申し込みと CFR 5 見積書の送付依頼 6 見積書の送付依頼と FOB 7 サンプル送付に対する回答（一） 8 サンプル送付に対する回答（二） 9 製品紹介のレターと Form A 10 オフファーシートの送付 11 L/C と船積書類（一） 12 L/C と船積書類（二） 13 契約書（Ⅰ）（契約内容） 14 契約書（Ⅱ）（支払方法）とインボイス 15 実習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 毎回配布するプリント		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

12 年度以前	中国語演習Ⅱ（中国語ビジネス会話）	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
近年、世界に存在感を増す中国の急成長を背景に、日本・中国両国間においても、中国に関心を持ち、中国語で直接コミュニケーションを取り得る人材の育成が急務となっています。 本講では、日中間のビジネス業務に焦点を合わせ、基本的なビジネス会話を中心に、様々な専門用語を含め、徹底的に「聞く」/「話す」/「理解する」訓練を繰り返すことにより、聞いて話せる中国語運用能力の確実な向上を目指します。 同時に、毎回の授業を通して実際の日中貿易の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識も一緒に習得します。 実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。		1 商談の基礎/アポイントメント 2 アポイントメントの取得 3 引き合い 4 オフファー 5 商品及びメーカーの紹介 6 カウンタービット 7 コミッションに関する話し合い 8 オーダーを確認する 9 支払条件（一） 10 船積期日 11 パッキング条件 12 契約締結 13 インシュランス（保険）と A/R、WA、FPA 14 クレームの申し立て 15 実習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
・『実習ビジネス中国語—商談編』白水社		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

12 年度以前	韓国語演習 I	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、「韓国語Ⅳ」まで学習した内容の復習を含め、実践韓国語の学習を中心として、より高い韓国語運用能力を習得するための講座である。今学期は、聴取および中級レベルの会話能力の培養にポイントを合わせて授業を進める。全体的には映画を活用した聴衆練習を行う一方、韓国での短期生活を前提とした会話練習を交差して行う仕組みである。授業の70%以上を韓国語で行う予定。		第1週：オリエンテーション 第2週：映画の中の韓国語1 第3週：映画の中の韓国語2 第4週：映画の中の韓国語3 第5週：映画の中の韓国語4 第6週：映画の中の韓国語5 第7週：映画の中の韓国語6 第8週：映画の中の韓国語7 第9週：航空便の予約 第10週：友たちとの電話 第11週：食堂で 第12週：自己、家族紹介 第13週：先生の研究室で 第14週：ショッピング 第15週：まとめ ＊（場合によって差し替えの可能性あります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピー資料を配布する。ほかは授業中に紹介する		出席、中間テスト、期末テスト、発表	

12 年度以前	韓国語演習 II	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、実践会話学習を進める一方、韓国生活に大きな支障のないほどの作文能力を身に着けることを講義の目的とする。会話練習は「韓国語演習Ⅰ」よりやや高いレベルに設定して行う。作文は、原則的に1～2週に1回、A4用紙1枚ほどの作文を提出し、担当教員の添削を受ける形で行う予定である。授業の90%以上を韓国語で行う予定である。		第1週：オリエンテーション 第2週：長めの自己紹介 第3週：職業・作文1 第4週：好きな料理・作文2 第5週：バイト先・作文3 第6週：私の一日 第7週：入試・作文4 第8週：夢・作文5 第9週：理想的な結婚 第10週：私の部屋 第11週：お酒・作文6 第12週：外国語学習・作文7 第13週：私の哲学・作文8 第14週：自由会話 第15週：まとめ ＊（場合によって差し替えの可能性あります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピー資料を配布する。ほかは授業中に紹介する		出席、課題、中間テスト、期末テスト	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度	日本研究概論Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語という言語とその文化を、現代という限定された時間における単体の言語として把握するのではなく、東部アジアにおける他言語との関係の中での歴史的な存在としてみることによって、日本という言語文化への視点を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 授業は、教員の用意する資料を使用してすすめられる。毎回の授業は、資料にもとづいた課題が提示されるので、履修者はそれに対して、解答を作成すること、またはグループで討議することが要求される。そのなかで日本語の言語文化または東部アジアの言語文化をとらえる各自なりの視点を形成していきたい。		1. ガイダンス 東アジアの言語文化 2. 古代中国語の世界 3. 漢文と日本語(中世) 4. 漢文と日本語(近世) 5. 中国語と東アジア 6. 漢字の問題 7. 共通語彙の問題 8. 前半のまとめ(東アジアと中国語) 9. 東アジアの言語分布(1) 10. 東アジアの言語分布(2) 11. アルタイ仮説 12. 東南～南アジアの言語 13. 日本語と高句麗語 14. 日本語と韓国朝鮮語 15. 後半のまとめ(東アジアと日本語)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。参考文献は開講後指示する。		試験(50%)とレポート(50%)を課し、その結果で評価する。なお、前提として出席をきびしく要求する。	

13 年度	日本文学論・古代Ⅰ	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば…)についても扱うことを予定している。		1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。	

13 年度	日本文学論・古代Ⅱ	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テキストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。		1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 4 伊勢物語を読む② 5 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 源氏物語を読む⑥ 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。	

13 年度	日本文学論・中世 I	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、女房文学から隠者文学への交替を指標として区分することができる、古代より中世への和歌史を、各期を代表する歌人の和歌作品を取り上げて検討します。古典和歌文学の中心は、天皇の命によって編纂された勅撰集にあるが、女房と隠者の和歌についてみることは、周縁から和歌文学を眺め渡すことになります。 小野小町・和泉式部・西行の和歌作品を通して、古今集から新古今集までの和歌史を展望することにします。 近代短歌とは異なる古典和歌の表現の性格と、その読み方についての基礎的な理解も得られるようにしたいと考えます。		1. 講義の概要 2. 小野小町 (1) 3. 小野小町 (2) 一移ろひ 4. 小野小町 (3) 一夢 5. 和泉式部 (1) 6. 和泉式部 (2) 一帥宮挽歌 1 7. 和泉式部 (3) 一帥宮挽歌 2 8. 和泉式部 (4) 一帥宮挽歌 3 9. 女性仮託歌 10. 西行 (1) 11. 西行 (2) 一たはぶれ歌 1 12. 西行 (3) 一たはぶれ歌 2 13. 西行 (4) 一たはぶれ歌 3 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80％）と、出席（20％）によって評価する。	

13 年度	日本文学論・中世 II	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を味わう。 鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言って過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 今期は『一寸法師』『浦島太郎』等の、有名な作品を読み解いていくことでそれらを確認する作業を続ける。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説（「お伽草子」とは何か？） 3. 『一寸法師』を読む① 4. 『一寸法師』を読む② 5. 『一寸法師』を読む③ 6. 『一寸法師』を読む④ 7. 『一寸法師』を読む⑤ 8. 『一寸法師』を読む⑥ 9. 『浦島太郎』を読む① 10. 『浦島太郎』を読む② 11. 『浦島太郎』を読む③ 12. 『浦島太郎』を読む④ 13. 『浦島太郎』を読む⑤ 14. 『浦島太郎』を読む⑥ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		学期末試験の成績による。	

13 年度	日本文学論・近現代Ⅰ	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目標) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 (受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 恐怖の現代文学のアウトライン 第2回 ①伝統的手法による恐怖の造形 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」 他 第5回 ①超自然的事象の題材からの造形 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 他 第8回 ①心理学的な題材からの造形 第9回 ② 同上 第10回③ 同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」 他 第11回①社会派ミステリーからの造形 第12回② 同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Xの献身」 他 第13回 ①原作を映像で見る 第14回 ② 同上 第15回 まとめ(総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート(定期試験)	

13 年度	日本文学論・近現代Ⅱ	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 (受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 重松清「ビタミンF」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Y」 他 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 奥田英朗「インザプール」 「空中ブランコ」 佐藤多佳子 「しゃべれどもしゃべれども」 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回③ 同上 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 有川浩「阪急電車」 吉田修一「横道世之介」 天童荒太「悼む人」 他 第13回①原作を映像で見る 第14回② 同上 第15回 まとめ(総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート(定期試験)	

13 年度	日本史 I	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 原始～中世の日本列島を対象に、「日本」という世界のなかの一つの国家や、日本列島の社会・文化がどのように形成されていったのか、大陸との関係に留意しつつ最新の研究成果を基に学び、国家とは何か、また地域とは何か、考える能力を身につける。 【講義概要】 ◎原始～中世の日本通史である。 学界での通説と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。		1：なぜ、歴史学は必要なのか？ 2：原始社会論 -稲作のはじまりと富の蓄積- 3：邪馬台国からヤマト政権へ -邪馬台国はどこにあったか？- 4：倭国と東アジア -4・5 世紀の「倭」の存立基盤- 5：倭国から「日本」へ -「天皇」・「日本」の成立- 6：律令国家の展開と土地政策 -律令国家はどの程度日本列島を把握していたか？- 7：平安時代前期の国家と社会 -王臣家の地域進出- 8：摂関政治の成立 -ミウチ政治の成立・受領の台頭- 9：院政の成立と中世の胎動 -荘園制社会へ- 10：鎌倉幕府の形成と展開 -公家・武家・寺社の相互補完関係- 11：元寇から鎌倉幕府の滅亡へ -元寇の影響と徳政観念の展開- 12：日本列島史の転換期としての南北朝内乱 -なぜ内乱を通じて武家優位の社会になるのか？- 13：室町幕府論 -公武統一政権・地域社会・一揆- 14：室町幕府の対外交渉 -日明勘合貿易と「倭寇」- 15：総括 -古代・中世の日本列島と地域社会-	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に指摘する。		テストおよび出席状況による。	

13 年度	日本史 II	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 おもに戦国時代～太平洋戦争までの日本列島を対象に、世界の秩序編成の動きに留意しつつ、社会の変遷のあり方を学び、現在の日本・世界の成り立ちと、これからの日本列島と世界について考える能力を身につける。 【講義概要】 ◎戦国時代～太平洋戦争終結までの日本通史である。 ◎学界での通説と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。 ◎20 世紀にはいると、多くの映像資料も残されている。それらをできるだけ利用する。 ※前後期ともにいえるが、歴史を学ぶ意義は、知識を積み重ねることではなく、社会や人間の生き方、その変化について、できるだけ正確な情報をもとに考える力を身につけることである。歴史を様々な視野から見つめることによって、驚きを感じ、その重要性を学んで欲しい。		1：世界システムとは何か？ -16 世紀における世界秩序の展開と日本- 2：なぜ戦国大名はあらわれたのか？ -群雄割拠の時代から織豊政権・朝鮮侵略へ- 3：江戸幕府の形成と東アジア -徳川政権の諸政策と「倭寇の状況」の展開- 4：元禄の政治と社会 -戦時文化からの脱却- 5：江戸中期の幕政改革 -迫りくる危機- 6：対外危機と天保の改革 -「鎖国」とは何か？- 7：幕末の動乱 -不平等条約・尊皇攘夷運動から大政奉還へ- 8：明治新政府の樹立と国政 -明治政府は何を目指したのか？- 9：明治期の社会と思想 -自由民権運動の意義- 10：大日本帝国憲法と議会の成立 -憲法・議会はなぜ必要だったのか？- 11：日清・日露戦争と韓国併合 -帝国主義とは何か？- 12：映像にみる 20 世紀前半の世界と日本 13：大正デモクラシーと第 1 次世界大戦 -大東亜共栄圏構想へ- 14：第 2 次世界大戦 -日中戦争は誰が支持したのか？- 15：総括 -日本列島の過去と未来をめぐって-	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に指摘する。		テストおよび出席状況による。	

13 年度	言語学概論	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については必要に応じて他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。 参考文献 David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳 『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田 健 『言語学が好きな本』(研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4)		1. 話し言葉と書き言葉 ー言葉は約束事：言語学の研究対象、記号論、ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ーチンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ー失われた言葉を取り戻す：心理言語学と脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ーどのようにして言語を習得するか？：第1言語の発達過程 5. 外国語の上達 ーどのようにしたらうまく話せるようになるか？：第2言語の習得理論 6. 音と音声 (1) ーカテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論 7. 音と音声 (2) ー音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ー「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法、生成文法、その他の文法 9. 形と意味 ー発話に意味を込める：意味論、語用論 10. 会話の原則 ー言葉の適切な使い方：談話分析 11. 言語と社会 ー言葉の多様性と普遍性：社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ー言語の系統と分類：歴史言語学 13. 言語の進化 ー言語と人類の発達：言語考古学 14. コンピューターと言語 ー近未来の言語研究：人工知能、機械翻訳、コーパス言語学 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度	スポーツ・レクリエーション概論	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずですよ。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。		1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」その 1 6 自由時間「三つの意味」その 2 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 「環境と健康」 14 ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15 まとめ 授業で携帯電話をライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。（パケット通信料がかかります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムに授業資料をアップロードします。		出席状況、学期末試験の結果、その他授業時に書いた作文も考慮します。	

13 年度	スポーツ科学概論	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げています。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されています。また健康の維持増進にも寄与するデータが数多く得られ、私達の身近な世界にもスポーツ科学は貢献しています。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目指します。 〔講義概要〕 この講義ではスポーツ科学が扱う様々な領域を概説し、スポーツの魅力と可能性について紹介します。またビデオ映像を適宜、視聴します。スポーツ科学の現状について、受講生同士で討論を行う予定です。		1. スポーツ科学とは 2. スポーツの起源と歴史 3. 持久力の科学 4. 筋の科学 5. トップパフォーマンスとは 6. サッカーの科学 7. 野球・陸上の科学 8. コンディショニングと疲労 9. 障害者のスポーツ 10. メンタルトレーニング 11. スポーツ医科学 12. トップアスリートの秘密を探る① 13. トップアスリートの秘密を探る② 14. スポーツ振興 15. まとめ （講義の順番は変更する場合があります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示する。		出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。	

13 年度	物理学 I	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも 20 世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。内容は、①物体に働く力と物体の運動との関係を考察する「力と運動」、②熱の現象とその実態である分子運動を扱う「熱」、③波の一般的性質とその実例としての音波・光波を扱う「波動」、④電気と磁気に関する現象や電気と磁気との関係、さらに電磁波について考察する「電磁気」からなります。		- はじめに - 力と運動 1－物体の運動 - 力と運動 2－物体に働く力 - 力と運動 3－運動の法則 - 力と運動 4－万有引力 - 熱 1－温度と熱 - 熱 2－熱と分子運動 - 波動 1－媒質の振動と波 - 波動 2－音波と光波 - 電磁気 1－電気と磁気 - 電磁気 2－電流と磁場 - 電磁気 3－電磁誘導 - 電磁気 4－電磁波 - 問題演習 - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定	

13 年度	物理学 II	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、20 世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。時間と空間は、以前は自然の基本法則が登場する舞台でしたが、20 世紀以降「相対性理論」により物理学の研究対象となりました。物が何からできているかという物質の究極像を探る研究は、原子・素粒子の発見やその従う法則である「量子力学」の成立により大きく進展しました。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。内容は、前半が「時間と空間」で、相対性原理・光速一定原理と特殊相対性理論、等価原理・一般相対性原理と一般相対性理論について、後半が「物質の究極像」で、元素・原子と原子の構造、前期量子論と量子力学、素粒子論と統一理論についてです。		- はじめに - 時間と空間 1－相対性原理 - 時間と空間 2－光速一定原理 - 時間と空間 3－特殊相対性理論 - 時間と空間 4－等価原理 - 時間と空間 5－一般相対性原理 - 時間と空間 6－一般相対性理論 - 物質の究極像 1－元素と原子 - 物質の究極像 2－原子の構造 - 物質の究極像 3－前期量子論 - 物質の究極像 4－量子力学 - 物質の究極像 5－素粒子論 - 物質の究極像 6－統一理論 - 問題演習 - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介		毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定	

13 年度	生物学 I	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 最近の生物学は生命科学が主流となっているが、その流れは他分野を専攻する諸君にとっても必要不可欠な基礎知識である。しかし、高校時代にきちんと生物学を履修してきていない学生も多いので、本抗議では生物学基礎となるテーマをわかりやすく説明することを目標とする。 履修者は秋学期の生物学（担当者：依田准教授）の講義も必ず履修してほしい。		1 はじめに（生物学基礎知識の有無） 2 身近な植物の観察 1 3 細胞の発見 4 細胞説 5 身近な植物の観察 2 6 メンデルの法則発見 7 進化論 8 染色体・遺伝子・DNA 9 遺伝の仕組み 10 ワトソン・クリックの DNA モデル 11 植物の生活史 1 12 植物の生活史 2 13 植物の生活史 3 14 身近な植物の観察 3 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用しないが、高校生用の教科書（参考書）を用意すること。必要に応じてプリントを配布する。		出席点、レポート点、試験結果に応じて評価する。	

13 年度	生物学 II	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 私たちは生物の一員です。今、私たちの住む地球の環境は生命が誕生した38億年前とはもちろん、人類が生まれた500万年前と比べて大きく変わっています。生物は様々な変化する環境という刺激に適応して今日までその生態をつないできました。この講義では生物がいかにかくましく、その一方で生存競争にやぶれていったかを「環境」をキーワードに、未来に種を伝えていくための知識と術について受講生自身が考えていくことを目指します。 〔講義概要〕 講義では様々な生物の生態環境とその変化および生物の適応について学びます。またグループに分かれて身の回りあるいは世界の様々な地域に生息する生物についてテーマを決めて調べ、発表します。 ★春学期の「生物学 I」（加藤先生担当）で生物学の基礎を学んでいることを前提に進めていきますので、ぜひ生物学 I を履修してください。		1 はじめに（生物学基礎知識の確認） 2 からだの機能と構造（ヒト編） 3 からだの機能と構造（グループ調査） 4 からだの機能と構造（グループ発表） 5 iPS 細胞 について考える 6 恐竜はなぜ滅んだのか 7 高山に生きる生物 8 海の生物 9 極地の生物 10 日本特有の生物 11 プレゼンテーション 1 12 プレゼンテーション 2 13 プレゼンテーション 3 14 人類の発展の功罪 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示する。		出席、授業態度、プレゼンテーション、レポート点、試験結果に応じて評価します。	

13 年度	生理学Ⅰ	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問です。私達のからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っています。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指します。 〔講義概要〕 講義内容は身体の仕組みや機能について概説し、実際に実験・測定を行い理解の促進を図ります。ここでは、呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統について講義します。 また、各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。		1. 生理学の基礎 2. 血液・体液 3. 循環 4. 呼吸 5. 消化・吸収 6. 排泄 7. 代謝・体温 8. 内分泌 9. 神経 10. 感覚 11. 筋・骨 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
彼末一之・能勢博編『やさしい生理学（改訂第6版）』（南江堂） 田中越郎『イラストでまなぶ生理学（第2版）』（医学書院）		出席、授業態度、プレゼンテーション、レポート、試験結果に応じて評価します。	

13 年度	生理学Ⅱ	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもあります。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいます。この講義ではヒトの身体の制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指します。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎を基に、秋学期は私達の身体の中核である脳機能に焦点を当てて講義します。また睡眠、情動、言語、学習と記憶など、脳機能と関連する事象についても扱う予定です。 各自が興味をもった「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。		1. 神経科学の基礎 2. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 3. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 4. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 5. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 6. 脳・脊髄による運動制御 7. 摂食調節（なぜ食べるのか） 8. 性と脳 9. 脳と情動 10. 脳と睡眠 11. 学習と記憶 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤宏司他監訳『カラー版神経科学－脳の探求－』西村書店		出席、授業態度、プレゼンテーション、レポート、試験結果に応じて評価します。	

13 年度 12 年度以前	スペイン研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン研究概論(スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ)では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「ラテンアメリカ研究概論(スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ))」と関連性・連続性が強いので、秋学期には下記授業を選択することが望ましい。		1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19 世紀のスペイン 12. 18、19 世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。	

13 年度 12 年度以前	ラテンアメリカ研究概論 スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎 知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。		1 導入① ラテンアメリカとは「二つのアメリカ」論を批判する 2 導入② ラテンアメリカの多様性 ベネズエラ：ハンモックの埋葬 3 ラテンアメリカの地理的・文化的多様性 各地域の音楽を通して 4 ラテンアメリカにおける人種・民族と言語① 先住民とメスティーソ indigenismo, indianismo 5 ラテンアメリカにおける人種・民族と言語② アフリカ系とヨーロッパ系 6 歴史① 先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7 歴史② コロンブスの到達の歴史的意味 8 歴史③ ラテンアメリカの独立と 19 世紀 9 歴史④ 米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ 10 経済と社会① 経済政策と暮らし 11 経済と社会② 政治体制と暮らし 12 文化① 食文化、宗教と祭り 13 文化② 文学と造形芸術 14 米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）		数回の小テストおよび期末テスト	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ（ラテンアメリカの歴史と社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、ラテンアメリカの現代を知るために必要な歴史と文化に関する重要事項を、社会運動、論争、絵画、音楽、食などの具体的事例を取り上げて論じるものである。 現代世界の起点は、大胆に言えば、コロンブスにあると言える。ラテンアメリカを知ることは、現代世界の成り立ちを知ることである。ウオーラーステインの「近代世界システム」論、アンダーソンの「想像の共同体」論、サイードの「オリエンタリズム」をもとに、ラテンアメリカの歴史と文化に接近したい。		1 メキシコ 1930 年代の観光ポスター：他者表象と自己表象 2 1492 年と現代世界：ポストコロニアル研究 3 コロンブス以前のアメリカ大陸 マヤ文字読解 アステカの絵文書 4 コロンブスと「近代世界システム」の形成 5 ラスカサスとバジャドリッド論戦 6 「グアダルupesの聖母」植民地における人種民族関係 7 ハイチ革命 8 メキシコ革命とナショナリズム芸術 9 現代メキシコ文化：リラダウンス論 10 リゴベルタ・メンチュウとインディアニスモ 11 黒人文化：アンデスの黒人音楽 12 カリブ海におけるクレオール主義 13 アジアとラテンアメリカ 中国系排斥の歴史 14 米国ラティーノの文化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、授業中に指定する。		二回の講義につき一度ずつ簡単な小テストをおこなって評価とする。簡単なプレゼンテーションを求め、その実行者にはプラスの評価を与える。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ（ラテンアメリカ近現代史）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きをおっていく。その際、歴史を現代から過去にたどることとする。 基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとしたい。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修者が自ら考える場としたい。 ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、春学期に別の授業が用意されている。 なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。		1 はじめに <u>「ラテンアメリカ」の誕生とパナマ史</u> 2 パナマ鉄道とスイカ事件 3 パナマ運河建設とパナマ建国 ＋ウオーカーのニカラグア侵攻 4 1994 年メキシコ・サパティスタ蜂起 5 メキシコ革命からサパティスタ蜂起へ 6 チャベスのボリバル革命 ＋ラテンアメリカの「左傾化」 7 <u>革命の 20 世紀</u> 8 砂糖プランテーションとパナマ共和国 9 米西戦争＋キューバ革命と文化 10 チリ革命・ニカラグア革命と文化 11 <u>ラテンアメリカの独立と欧米 19 世紀</u> 12 ボリバルの夢 13 イギリスの非公式帝国：アルゼンチンとブラジル 14 メキシコの独立とテキサス併合・米メキシコ戦争 15 ナポレオン三世のメキシコ侵略＋国境地帯の変容 <u>米国へ浸透するラテンアメリカ</u> 16 「アメリカス」の時代へ 17 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示する。		2. 3 回の講義ごとに簡単な小テストをおこなって評価とする。簡単なプレゼンテーションを求め、その実行者にはプラスの評価を与える。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。 ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸の規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異なる言語や文化をもつ小国家群も存在する。 本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に挙げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか（取り組むべきか）を考えていく。		I. 政治と社会の歩み 1. ラテンアメリカ諸国の独立（19 世紀） 2. 近代化とポピュリズム政権（20 世紀前半） 3. 国家発展の追求と軍事政権（1960 年代～） 4. 民主化の波（1980 年代～） II. ラテンアメリカ地域の共通性と多様性 5. アンデス地域（ペルー・ボリビアなど） 6. コノスール地域（アルゼンチン・ブラジルなど） 7. メキシコ・中米地域（メキシコ・グアテマラなど） 8. カリブ地域（ジャマイカ、ハイチなど） III. 現代ラテンアメリカの諸問題 9. ネオリベラリズムと貧困・社会格差 10. 先住民運動と多文化主義 11. 麻薬問題と暴力・ゲリラ 12. 民主主義と人権・自由 IV. 政治と社会の展望 13. 民主主義は根付くのか？ 14. 経済成長と社会公正の両立は実現できるのか？ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。 ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても 200 年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。 本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州（南北アメリカ）やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、経済グローバル化とその副作用、ラテンアメリカで強まりつつある反米・左傾化の流れを把握し、この地域が抱える 21 世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。		I. ラテンアメリカの国際関係史 1. コロンブスとラテンアメリカ（植民地期） 2. ラテンアメリカの近代化世界経済（19 世紀） 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ（20 世紀） 4. 地域協調時代のラテンアメリカ（1990 年代以降） II. 米州域内の国際関係 5. キューバと米国 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国 7. 経済改革とワシントン・コンセンサス 8. 米州機構と民主主義支援 III. 現代ラテンアメリカの国際関係 9. 自由貿易の拡大とインフラ統合 10. 経済のグローバル化と貧困の増大 11. 反グローバリズムと社会運動 12. 反米・左傾化するラテンアメリカ IV. 日本とラテンアメリカの関係 13. 日本人移民と日系社会 14. 日本の対ラテンアメリカ協力 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ (ラテンアメリカの経済と社会)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
1. ラテンアメリカ経済社会構造の特質を、アジア、アフリカと比較しながら理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。 2. ラテンアメリカ地域の経済社会についてその歴史的変遷過程を辿り、植民地期以前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、経済社会構造の変容を理解する。 3. 以上の考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済社会問題について考察する。そしてこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。 4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について紹介し、コスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）と呼ばれる開発政策を中心に、持続可能な開発のあり方について考える。 5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代における日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について考える。主として講義形式で授業を進めるが、テーマに応じて受講生によるディスカッション形式もとりたい。		1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較 2. 第1章 ラテンアメリカ経済社会の歴史的変遷過程 3. 第1節 ラテンアメリカ経済史の時期区分 4. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観 5. 第3節 植民地期（15世紀末—19世紀初め） 6. 第4節 独立期（19世紀初め—19世紀半ば） 7. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば—1929年恐慌） 8. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌—1980年代） 9. 第6節 同上 10. 第7節 グローバル化と新自由主義経済（1990年代—現在） 11. 第7節 同上 12. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 13. 第2章 同上 14. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策 15. 第4章 ラテンアメリカと日本の経済関係 16. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（参考書）国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005、今井圭子編『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004、西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011、宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本経済評論社、2009。		授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ (ラテンアメリカ経済発展論)	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
1. ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。 2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTO とラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。 3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。 授業は、講義、関連資料の解説、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。		1. 序、第1章 経済学の基礎 第1節 経済学的な考え方、ミクロ経済学・マクロ経済学 2. 第2節 市場原理—需要・供給と価格 3. 第3節 公共部門・経済政策 4. 第4節 雇用・失業問題・雇用政策 5. 第5節 インフレ・デフレ、財政・金融政策 6. 第6節 貿易・対外投資・国際収支・為替レート 7. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 8. 第1節 マクロ経済の諸問題、経済の自由化 9. 第2節 経済開発と政府の役割 10. 第3節 経済成長と企業 11. 第4節 人的資本と教育、技術開発 12. 第5節 雇用・格差・貧困問題と労働・社会政策 13. 第6節 農業と土地所有制度、第一次産品輸出経済 14. 第7節 経済のグローバル化と貿易、国際資本移動 15. 第8節 環境問題と環境政策 16. 第9節 日本とラテンアメリカの経済関係 17. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（参考書）宇佐見耕一他共著『図説 ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年、西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料—国勢調査・経済社会統計—』上智大学、イペロアメリカ研究所、2008年など。		授業中に課したリアクション・ペーパーと最後の授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ（スペイン語圏の言語文化）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。そのため一定以上のスペイン語力が求められる。		① 「スペイン」と「スペイン語」1 ② 「スペイン」と「スペイン語」2 ③ ① “Glosas Emilianenses” ④ イスラム・スペイン ⑤ “Jarchas” ⑥ Cantar de Mío Cid ⑦ 1492 ⑧ “Gramática de la Lengua Castellana” ⑨ Don Quijote ⑩ El Siglo de Oro ⑪ 18c, 19c のスペイン 1 ⑫ 18c, 19c のスペイン 2 ⑬ 18c, 19c のスペイン 3 ⑭ フラメンコ・闘牛 ⑮ スペイン内戦とピカソ 1 ⑯ スペイン内戦とピカソ 2 ⑰ 近現代のスペイン 1 ⑱ 近現代のスペイン 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況と数回のレポートによって評価する。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ（スペイン語学）	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、問題設定をする練習の場とも考える。 今年度の主なテーマは「冠詞とそれを取り巻く文の構造」とする。 まず、スペイン語の冠詞に関する基本的な知識を獲得・復習するために講義を行う。その際に先行研究を紹介し、それらの分析にはどのような問題点があるのかを洗い出す。 ある程度の予備知識がついたところで、扱ったテーマの中からひとつテーマを選択し、それに関する短いレポートを課題とする。		① スペイン語の冠詞について（説明講義）1 ② スペイン語の冠詞について（説明講義）2 ③ スペイン語の冠詞について（説明講義）3 ④ スペイン語の冠詞について（説明講義）4 ⑤ 問題点 1 ⑥ 課題 1 ⑦ 課題の説明 1 ⑧ スペイン語の冠詞と動詞句について（説明講義）5 ⑨ スペイン語の冠詞と動詞句について（説明講義）6 ⑩ スペイン語の冠詞と動詞句について（説明講義）7 ⑪ スペイン語の冠詞と動詞句について（説明講義）8 ⑫ 問題点 2 ⑬ 課題 2 ⑭ 課題の説明 2 ⑮ 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、授業への参加度、数回のレポートによって評価する。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ（ブラジル研究）	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
ブラジルは、2014 年にワールドカップ、2016 年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。これらの課題について、特に 1960 年代以降の歴史的経緯に言及しながら、ブラジルのグローバルプレーヤーとしての可能性について解説し、講義をすすめる。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 講義の目的は、受講生が積極的にこれらの内容について考え、ブラジルというテーマについて独自の視点を開発することにある。		1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 政治経済：「失われた 80 年代」 3. 政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4. 政治経済：2000 年代、経済成長への道 5. 格差社会の是正に向けて：Bolsa Família 6. 格差社会の是正に向けて：新中間層 7. 映像から見たブラジル 8. 映像から見たブラジル 9. 持続可能な成長への課題：教育・インフラ整備 10. 持続可能な成長への課題：世界情勢 11. 産業開発：農業、油田開発、代替エネルギー 12. ブラジル企業の多国籍化と世界経済 13. BRICs、南南関係：多極的外交の展開 14. 新たな路線：ブラジルの Third Way? 15. まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005 年）を挙げておく。		基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、出席や授業内ペーパー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	担当	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語圏の人文学的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。 スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報（源）の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。 情報（源）の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア（CD・DVD、インターネット、人間等）を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。また、各メディアの著作権についても触れる。 集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。		① 情報を集めるテーマの選定 ② 文献の調査法・情報収集法 1 ③ 文献の調査法・情報収集法 2 ④ 文献の調査法・情報収集法 3 ⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1 ⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2 ⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑧ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 1 ⑩ インターネット上の調査法・情報収集法 2 ⑪ インターネット上の調査法・情報収集法 3 ⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1 ⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2 ⑭ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3 ⑮ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、プレゼンテーションによって評価する。	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los artistas más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral mediante los diálogos que se llevan a cabo durante la clase. -La comprensión oral a través de las explicaciones de la profesora. -Expresión escrita por medio de las tareas que hay que realizar al finalizar cada tema . Destinatarios: alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.		1. Presentación del curso. 2. Introducción.: geografía y relieve I 3. Geografía y relieve II 4. Los albores del arte español: <i>La cueva de Altamira</i> . 5. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas I. 6. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas II. 7. La romanización y sus consecuencias I. 8. La romanización y sus consecuencias II 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 10. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 11. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife I. 12. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife II. 13. La Reconquista (ss.XI-XIII). 14. La sociedad medieval. Castillos y ciudades medievales . 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 II (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		1. El arte durante la Reconquista: el románico. 2. El arte durante la Reconquista: el gótico 3. El Camino de Santiago (Patrimonio de la humanidad). 4. Haciendo el camino. 5. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento I 6. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento II. 7. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 8. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 9. La arquitectura renacentista: El Monasterio de El Escorial. 10. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 11. Diego de Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 12. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración I. 14. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración II. 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカ諸国の音楽実践を扱います。欧米や日本のポップスと比較することにより、背景となる社会や時代の諸相を検討します。 この地域の音楽はダンスと不可分に様式化されてきたことから、身体技法についても言及します。クレオールを筆頭に文化混雑がキーワードとなるため、前半の授業では、成分にあたる要素を個別に考察します。音楽研究一般の可能性を吟味しつつ、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、レポート作成の手引きをします。後半の授業では、スペイン語圏に限らず、非スペイン語圏の文化にも視野を広げます。Jポップ・演歌・大衆演劇といった日本の事例も取り込む予定です。芸術には、文学・美術・映画などの分野が含まれます。講義の主たる対象は芸能、議論の基盤は人類学ですが、表象文化全般を分析します。視聴覚資料、楽器紹介、日本語訳などでスペイン語履修者以外にも配慮します。丸暗記は不要です。思索力を磨く場として、時間を有効に活かしてください。		1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの芸能(音楽, ダンス)にみる文化混雑 3. スペイン系弦楽器に由来する口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓に由来するポリリズムとコール&リスポンス 5. フォルクローレは先住民の音楽か 6. クラブカルチャーのラップから里帰りのレゲトンへ 7. 民族音楽学とポピュラー音楽研究の射程 8. 世界で渦巻く対抗文化と世界を巻き込むポピュラー音楽 9. カット&ミックス, ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ... 10. サンバ以外のブラジル, トロピカリアや農民音楽 11. ボサノヴァはなぜ人気があるのか 12. 北米移民ラティーノやチカーノらの日常生活とサルサほか 13. 大陸(ペルー, ボリビア, アルゼンチン...)と島々の音楽事情 14. 日本の「大衆演劇」, 創られた「ラテン歌謡」と J ポップ・演歌 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配り、進捗に応じて参考文献を紹介する。講義内容に準じた論集として以下をあげておく。石橋純編『中南米の音楽』（東京堂出版, 2010, 978-4490206678）		評価方法: 平常授業の感想紙におけるコメントなどの実績(30%)と期末レポート(70%)	

12 年度以前	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。 ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、また、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。 (講義概要) ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画に沿って授業を進める。 (受講生への要望) スペイン語の知識は必ずしも必要としない。ラテンアメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重要である。		1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカに関する基礎知識 3. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 4. ラテンアメリカの全体的特徴 5. ラテンアメリカの社会構造 その1 6. ラテンアメリカの社会構造 その2 7. ラテンアメリカにおける“人種”概念 8. ラテンアメリカにおける男と女 9. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”概念 10. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”、および社会構造 11. 先住民の文化と社会的地位 12. 国際社会における先住民の文化と社会的地位 13. ラテンアメリカの連帯意識 14. 今日のラテンアメリカと今後の展望 15. 論述試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。	

13 年度 12 年度以前	中国研究概論 中国研究入門	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
中国研究の出発点に立つために、必要な基礎的な知識を身につけることを目標とする。 現代の中国および中国語圏の政治体制に関わる諸トピックについて、ほぼ時系列順に解説した後、現在表面化・問題化している出来事について履修者とともに検討する。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1 ガイダンス 2 中華民国と国民党の成立 3 共産党の成立 4 日中戦争と統一戦線 5 国共内戦 6 中華人民共和国の成立 7 憲法と統治体制 8 国連代表権 9 台湾について 10 香港について 11 改革開放政策と経済発展 12 少数民族 13 海外華僑 14 環境・安全・災害 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点（出席、授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

12 年度以前	中国研究Ⅰ（中国社会論）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
国家の運営と民衆の生活双方に関わる事物をとりあげて論じ、これを通して現在の中国および中国語圏各地域への理解を深めることを目的とする。 具体的なトピックとして挙げるのは祝祭日、国旗、市民権、少数民族の権利、国境線、文字などである。どれも国家・民族の象徴と関わる事物であるが、同時に国内に住む全ての人の生活と切り離せない関係にある。こうしたものに対する個々人の距離のとり方、アイデンティティの所在なども視野に入れながら、履修生とともに考えたい。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1 ガイダンス 2 祝祭日（１）—台湾の場合 3 祝祭日（２）—現代中国の場合 4 国旗・国歌 5 国籍・市民権（１）—本土中国 6 国籍・市民権（２）—台湾 7 国籍・市民権（３）—香港 8 移住、華僑・華人 9 少数民族の特別権利 10 地方各レベルの自治権 11 国境線・領土権 12 文字とことば 13 姓名 14 共産党の統治体制について改めて考える 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点（出席、授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

12 年度以前	中国研究Ⅱ（中国の思想・文学）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国中央テレビ局の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な人気を集めた、北京師範大学の于丹教授の『論語』を読み解くシリーズ講座のDVD を利用して、中国思想において最も重要な位置を占める『論語』と儒教の真髄について学習します。儒教と道教は中国のみならず、東洋人の精神世界形成に大きな役割を果たしました。社会の中で生きる規範（社会的人格の形成）を儒教に求め、人生を楽しむための哲学を道教に求める思想はアジアに共通のものです。 とくに『論語』は日本でも古くから研究が進んでおり、不朽の価値を持っている書物であると言えます。テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演を忠実に書き起こしたのですが、この番組は論語を分かりやすく解説しています。		1 回 ガイダンス 『論語』および『論語心得』について 2～3 回 映画「孔子」観賞 4～6 回「交友之道」：よい友達つきあいとは何でしょうか？孔子の言う「益者三友、損者三友」の概念を用いて友達つきあいの重要性について学びます。 7～9 回「理想之道」：人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべきでしょうか？理想や目標の実現のために、私たちが今なすべきことを孔子のことばから探っていきます。 10～12 回「処世之道」：複雑な現代社会において誠実に生きていくための方策とは？ 社会の中でよりよい人間関係を築くための生き方を考えましょう。 13～15 回「人生之道」：孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べています。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか？	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料と授業のやり方については、ガイダンスで指示します。		授業に対する積極性を50%、期末レポートの点数を50%で評価する。	

12 年度以前	中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
グループ分けをし、それぞれのテーマに沿って調査と発表をしていただきます。 第4回目から1は学生の発表と教員の解説、2はDVDを利用して中国美術、戯曲、建築物、庭園設計などを鑑賞し、さらに中国の芸能と芸術を育んだ風土の歴史と地理について学びます。 教材として使用する主な映像資料は以下のとおりです。 A 故宮の至宝 B 中華五千年的文化記録 C 中国自然文化遺産 D 中国大紀行 毎回、グループごとのプレゼンテーションあるいは映像資料鑑賞を行うので、遅刻・欠席は厳禁です。		1. ガイダンス、教授用資料の入手方法など 2. 京劇『孫悟空』鑑賞 1 3. 京劇『孫悟空』鑑賞 2 4. 古墳と遺跡 1 5. 古墳と遺跡 2 6. 陶磁器 1 7. 陶磁器 2 8. 絵画芸術 1 9. 絵画芸術 2 10. 庭園芸術 1 11. 庭園芸術 2 12. 書道芸術 1 13. 書道芸術 2 14. 中国音楽鑑賞 15. 学期のまとめと期末試験に関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
以上のDVDと、学生が準備したプレゼン資料によって授業を行う。特にテキストを購入する必要はない。		発表内容とパフォーマンスを50%、期末レポートの点数を50%で評価する。	

12 年度以前	中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		第 1 回：講義の概要 第 2 回：清朝体制下の社会変動 第 3 回：アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 第 4 回：太平天国 第 5 回：体制の反撃 第 6 回：洋務運動 第 7 回：中体西用の諸相 第 8 回：開港場の社会と経済 第 9 回：農村社会の変容 第 10 回：周辺地域宗主権の喪失 1 第 11 回：周辺地域宗主権の喪失 2 第 12 回：琉球問題と台湾出兵 第 13 回：朝鮮をめぐる日中対立 1 第 14 回：朝鮮をめぐる日中対立 2 第 15 回：講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22－19）中央公論新社，2008 年。		出席状況と期末定期試験の結果による。	

12 年度以前	中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 またこの時期のモンゴル・チベットにおける独立運動についても検討します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。		第 1 回：講義の概要 第 2 回：日清戦争 第 3 回：台湾の割譲と台湾住民の抵抗 第 4 回：変法改革 第 5 回：戊戌の政変 第 6 回：キリスト教布教と仇教運動 第 7 回：義和団の蜂起 第 8 回：纏足問題と天足運動 第 9 回：革命派の台頭 第 10 回：光緒新政と地方自治の試み 第 11 回：王朝体制の崩壊と中華民国の成立 第 12 回：第二革命と袁世凱政権の成立 第 13 回：モンゴルの独立運動 第 14 回：チベットの運動 第 15 回：講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22－19）中央公論新社，2008 年。		出席状況と期末定期試験の結果による。	

12 年度以前	中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
中国各地の現状を理解することを通して、一歩進んで現代中国および中国人について理解することを目指す。 具体的には広州・上海・北京などの主要都市および、東北・内陸・国境地帯の各省について、その地域の特徴（主要な住民の構成、主要産業、地域の歴史など）を解説し、履修者には各地の現状・各地方の生活者に対する理解を深めてもらう。 ある意味で、これまで身につけてきた中国に関する知識を別の角度から総括することになるであろう。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1 ガイダンスー「中華料理」は存在するか 2 広州・深圳と対外貿易 3 上海と工業・金融 4 重工業と東北三省 5 山東省とドイツ 6 出稼ぎ供給地としての華中地域 7 革命故地、延安・井冈山・遵義等 8 首都、北京 9 古都、西安・杭州・南京 10 四川省とパンダ・遺跡・少数民族 11 雲南と少数民族 12 内モンゴルと草原・モンゴル族 13 新疆ウイグル自治区と中央アジア 14 チベット・チベット族と高原地帯 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点（出席、授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

12 年度以前	中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b）	担当者	松岡 格
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、履修者に実際の歴史史料や現地資料に触れてもらう機会をなるべく多く提供する。その内容を理解し、解釈することで自分なりの意見、対中国観を練ってもらうことを趣旨とする。 こうして具体的な事件・運動への分析を行い、中国の近現代史を通覧することで、現代中国について理解を深めてもらいたい。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には、授業ごとに何らかの形で、参加者からの発言・質問を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。		1 ガイダンス 2 太平天国 3 日本による「台湾出兵」 4 国民党・共産党の対抗と協調、戦後への遺産 5 白話運動 6 対華 21 ヶ条の要求 7 国民国家、中華民国、中華人民共和国 8 帝国の解体と満州・台湾 9 ソ連の対中支援から中ソ対立へ 10 計画経済という実験・頂点としての文化大革命 11 中越戦争と国境問題 12 民族区域自治 13 中国をめぐる国際関係 14 現代中国の地方政治 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献については授業中に示す。		平常点（出席、授業への参加度等）[30%]、小課題 [30%]、期末試験 [40%] を評価対象とする。	

12 年度以前	中国研究各論Ⅲ（日中交流史）	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては、日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 〈隔在中西之间的日本 — 现代汉语中的日语“外来语”问题 —〉（王彬彬，《上海文学》1998年）を読みつつ進行する。		1 オリエンテーション 2 唐代と近代 双方向の交流 3 現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語 4 日本の翻訳と中国の翻訳 5 中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語 6 近代日本人学者の翻訳方法 7 訳語の競合と定着 8 梁啓超と日本新漢語流入の契機（1） 9 梁啓超と日本新漢語流入の契機（2）（梁啓超と日本語 — 和文訓読法、日本借用語） 10 嚴復の不满・反論 11 欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論 12 嚴復のスタンスと限界 13 中国語にとって欧米の概念（1） 14 中国語にとって欧米の概念（2）（中国現代書面語の成立） 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。	

12 年度以前	中国研究各論Ⅴ（言語文化論）	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。 日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。		1 オリエンテーション 2 中国語とは？普通话、汉语、华语、国語 漢字文化圏（＝漢語文化圏） 3 現代中国語の音韻 4 華人と中国語の比喩 5 中国人のコミュニケーションの特色 6 中国人の「色」 7 ことわざ・歇後語 8 “既成の言い回し” 描写表現 9 東西南北、右左 10 日本語母語話者ゆえの誤謬 11 飲食に関する言葉 12 中国人の名前・命名 13 自尊心・コネ社会・宗教 14 「漢文」の時代の中国語と現代中国語 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への積極的な参加、授業へ積極的に参加した成果（定期試験）を総合して評価する。出席は評価の前提である。	

12 年度以前	中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論 a）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
第1部 日本人の見た中国、中国人の考えた日本 経済などが地球上で均一化していく「グローバル（全球）化」の中で、日本と中国の政治的な対立は世界的にも注目を集めている。「政冷経熱」（政治上は対立するが、経済的には交流が深まる）が「政冷経冷」（政治的にも経済的にも対立する）に向かわないためには、日本と中国との間の文化の違いや日本人と中国人の思考の差異を冷静な目で見る必要があるだろう。卑弥呼の時代の日中交流から、現代のネット上の発言まで、「日本人が中国をどう捉えたか、中国人が日本をどう見てきたか」を題材に、日中両国の文化を比較していきたい。		1 日本と中国は本当に「一衣帯水」の隣国か？ ネットで分析する「日本人の中国観、中国人の日本観」 2 「山海経」「魏志倭人伝」の日本、倭人とは（徐福伝説と山口遺跡） 3 遣唐使・遣唐僧が見た中国（空海と円仁の中国紀行） 4 「北虜南倭」の時代の日本と戯画化された秀吉 5 近松門左衛門と荻生徂徠が考えた「聖人君子の国」 6 高杉晋作から日清戦争まで——崩壊する中国世界 7 文明開化の日本を体験した科挙合格者（黄遵憲の『日本国志』） 8 夏目漱石と芥川龍之介の中国取材旅行（「韓満所感」と「支那遊記」） 9 蒋介石と周恩来が体験した日本留学 10 新中国と文化大革命に熱狂した日本人 11 CCTV『大国の興亡』が描いた日本の近代化 12 日本人ビジネスマン・外交官が体験した違和感の中国 13 香港・シンガポールの中国人から見た日本 14 漫画『中国嫁日記』の中国人妻が感じた違和感 15 「最も有名な日本人」が読み解いた中国人の日本観	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（毎回のレポート）を総合して評価する。	

12 年度以前	中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b）	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
第2部 龍の文明、鯨の文化 日本人と中国人は、一見するとまったく見分けがつかないほど、顔立ちは似ているが暮らしの上では、大きな違いが散見される。日本では「衣食住」（3文字）が日常の暮らしに欠かせないものと言うが、中国では“衣食住行”（4文字）と言い、交通手段も人間の生活に於いて必要不可欠なものと考える。また家族観・食生活や結婚・性生活についても両国の間ではかなり異なる点がある。19世紀、「西欧の衝撃」を受けて近代化する過程に於いて、日本では「和魂洋才」から「文明開化」にすぐ進んだが、中国では“中体西用”と言って欧米文明の先進性をなかなか認めようとしなかった。こうした日中の生活・文化や思考の違いを、キーワードとエピソード・事件で具体的にみることで、「文明の和解」の一助としたい。		1 外見はそっくりだが——「日本人の顔」と「中国人の顔」 2 （衣）「柄の服」と「色の服」 3 （食）「水の料理」と「火の料理」 4 （住）「木の家」と「土の家」 5 （行）「人力」と「車力」 6 （性）「遊戯」と「一族繁栄」 7 （家族）「養子」と「宗族」 8 日本と中国の国のかたち（国名・民族・国土・国旗ほか） 9 「日本の天皇」と「中国の皇帝」（『権威』と“権力”） 10 「恥の文化」と「誇りの文明」（『大丈夫』と“没問題”） 11 「縮み志向」と「巨大願望」（『坪庭』と“万里長城”） 12 「和魂洋才」と「中体西用」（『顔』と“面子”） 13 「義理」と「縁故」（『情報』と“関係”） 14 「サギ」と「忽悠フーヨウ」（『掛け値なし』と“討価還価”） 15 「安定社会の中の閉塞感」と「焦燥社会の中の躍動感」（『オタク』と“貪官”）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（毎回のレポート）を総合して評価する。	

12 年度以前	中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の代表的な古典文学作品を取り上げて日中両国語のテキストを対照しながら学んでいきます。 授業で扱う古典文学作品は中国では現代でも知らぬ人のないものばかりです。日常的な会話の中でも古典文学に典拠をもつ成語や慣用句は多く使われています。「古典」ではありますが、全て現代の生きた中国語において力強い生命を保ち続けていると言えます。特に教養ある中国人の言葉の端々にのぼる成語や慣用句を理解できてこそ、真の意味で中国語を理解できるのです。 なお、授業計画第 6 回目以降に挙げた作品（小説）は学生の興味とレベルによって変更する可能性があります。		第 1 回 全体ガイダンス 第 2 回 古詩 陶淵明・謝朓 第 3 回 古詩 李白・杜甫 第 4 回 古詩 蘇軾・王維 第 5 回 古詩 白楽天 第 6 回 唐代伝奇 『枕中記』と『杜子春』 第 7 回 唐代伝奇 『人虎記』と『山月記』 第 8 回 説話文学 『白蛇伝』 第 9 回 章回小説 『西遊記』 第 10 回 章回小説 『西遊記』 第 11 回 章回小説 『西遊記』 第 12 回 章回小説 『水滸伝』 第 13 回 章回小説 『水滸伝』 第 14 回 章回小説 『水滸伝』 第 15 回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教科書は使いません。講義資料はそのつど印刷物を配布します。		平常点と期末レポートにより評価します。	

12 年度以前	中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の代表的な近現代文学作品を取り上げて日中両国語のテキストを対照しながら学んでいきます。 第 8 回までの授業で扱う近現代文学作品は中国では国語の教科書に取り上げられるような知らぬ人のないものばかりです。日常的な会話の中でも触れられることがあり、中国語を学ぶ上でも必須の教養であるといえます。 また、長編小説で取り上げる 2 作品は現代文学のベストセラーですので、現在の中国社会と中国人の生活や考え方を理解するために大いに役に立ちます。 授業は学生の発表を中心に行いますので、担当する作品についてレジュメを作成し、プレゼンを行い、さらに学期末レポートをまとめてください。		第 1 回 全体ガイダンス 第 2 回 随筆 1 老舍 第 3 回 随筆 2 巴金 第 4 回 随筆 3 朱自清 第 5 回 随筆 4 葉聖陶 第 6 回 短編小説 1 魯迅 第 7 回 短編小説 2 莫言 第 8 回 短編小説 3 史鉄生 第 9 回 長編小説 余華『兄弟』 1 第 10 回 長編小説 余華『兄弟』 2 第 11 回 長編小説 余華『兄弟』 3 第 12 回 長編小説 六六『蝸居』 1 第 13 回 長編小説 六六『蝸居』 2 第 14 回 長編小説 六六『蝸居』 3 第 15 回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教科書は使いません。講義資料はそのつど印刷物を配布します。		平常点と期末レポートにより評価します。	

13 年度 12 年度以前	韓国研究概論 韓国研究入門	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、韓国研究のための最初の一步であり、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。 履修者には、課題の提出と講義への積極的な参加が期待される。 ※※初回講義には必ず出席すること※※		1 イントロ①ー講義紹介 2 イントロ②ー韓国の基礎知識 3 イントロ③ー統計で見た韓国・韓国人 4～7 朝鮮半島の歴史基礎 8～11 現代韓国社会の論点 12～15 朝鮮半島から日本を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		出席、討論、期末テスト	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	韓国研究Ⅰ（韓国史）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなりました。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思います。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大事なことです。 このようなわけで、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義します。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をしていきます。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てます。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くことが必要です。		1. ガイダンス 2. 古代から統一新羅へ（1） 3. 古代から統一新羅へ（2） 4. 高麗時代（1） 5. 高麗時代（2） 6. 朝鮮時代（1） 7. 朝鮮時代（2） 8. 朝鮮時代（3） 9. 植民地時代（1） 10. 植民地時代（2） 11. 現代（1）1945年から1960年 12. 現代（2）1960年から1980年 13. 現代（3）1980年から2000年 14. 現代（4）2000年以後 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは水野俊平著『韓国の歴史』（河出書房新社、2007年、1800円）。参考文献は授業時に指示します。		評価の基準は、1 古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史についての基本的知識を得ることができたか。2・韓国（朝鮮半島）の歴史を通して、韓国（朝鮮半島）の現代的課題を見出すことができたか。評価方法は、授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。	

12 年度以前	韓国研究Ⅱ（韓国社会論）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。 とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国の間の歴史問題などに焦点を当てていく。		1 イントロダクション・講義紹介 2 ジェンダーとは 3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし（1） 4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし（2） 5 韓国社会の女と男③ - マネージメントママとは 6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷 7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」① - シングル女性をめぐる 9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状 10 変わりゆく「家族」③ - 「多文化」家族について 11 軍隊とジェンダー① - 徴兵制について 12 軍隊とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは 13 歴史とジェンダー① 14 歴史とジェンダー② 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介していく。		出席、期末テスト	

12 年度以前	韓国研究各論Ⅰ（韓国社会各論 a）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は朝鮮半島分断の歴史と現状を、政治的視点にとどまらず、文化的視点も交えて概観するものである。 単なる国際政治の枠組みとしての「分断」を語るのではなく、分断社会における「日常のなかの分断」、メディアにおける分断の表象から国際社会のなかの「分断」までを論じていく。 「分断」とは朝鮮半島に住む人々やその日常にとって、そして日本に住むわたしたちにとってどのようなものなのか、共に考えていきたい。 ※※初回講義には必ず出席すること※※		1 イン트로① 2 イン트로② 3 朝鮮半島分断の背景① 4 朝鮮半島分断の背景② 5 朝鮮戦争① 6 朝鮮戦争② 7 世界情勢と朝鮮半島① 8 世界情勢と朝鮮半島② 9 アジアと朝鮮半島① 10 アジアと朝鮮半島② 11 日本と分断朝鮮① 12 日本と分断朝鮮② 13 日本と分断朝鮮③ 14 南北の社会 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回講義時に提示する。		出席、期末テスト	

12 年度以前	韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化）	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
K-POPの歌詞や、化粧品の説明文、インターネット上のニュース記事や、短い文学作品、韓国社会についてかかれた書籍や論文などをテキストとし、それらを翻訳しながら韓国語独特の言い回しを学び、韓国文化についての理解を深める。 受講者は、韓国語初級までの学習を終えていることが求められる。また課題やグループワークも課す。		1. ガイダンス 2. 翻訳の基礎 3. 商品説明を訳す① 4. 商品説明を訳す② 5. 新聞記事を訳す① 6. 新聞記事を訳す② 7. 歌詞を訳す① 8. 歌詞を訳す② 9. 歌詞を訳す③ 10. 人文書籍を訳す① 11. 人文書籍を訳す② 12. 人文書籍を訳す③ 13. 人文書籍を訳す④ 14. 人文書籍を訳す⑤ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回講義時に提示する。 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。		出席と平常点を重視する。課題および平常点（50％）と期末レポートの成績（50％）を総合して評価する。	

12 年度以前	韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論 b）	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをも明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。		1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パターンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 15. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業にて参考文献を紹介する。 必要に応じて資料を配布する。		出席状況と試験によって評価する。	

12 年度以前	韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。		1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 室町時代の朝鮮通信史 8. 江戸時代の朝鮮通信史 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合の政策 13. 日韓併合(実施) 14. 浅川巧と韓国 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		・出席、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ） ・日韓の交流と歴史を理解したか。 ・日韓の交流と歴史について相互認識ができるようになったか。	

12 年度以前	韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論a）	担当者	呉 吉煥（オ・ギルハン）
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国の政治に対する理解を深めることが目的である。 現在の韓国政治を理解するには、朝鮮半島における「政治文化」の特徴を検討することが重要である。政治文化とは政治システムの構成員が政治に対して持っている態度のことで、韓国の政治文化は近代以後に大きく変貌したが、その根幹はすでに前近代に形成されていた。講義では、政治史を中心に古代から現代にいたるまでの朝鮮半島の歴史を概観しながら、各時期の政治と政治文化の特徴について考察する。		1 回 ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2 回 朝鮮半島における国家の成立と発展 3 回 古代統一国家の誕生と展開 4 回 高麗の建国と政治 5 回 朝鮮王朝の建国と政治 6 回 儒教（朱子学）と朝鮮王朝の政治文化 7 回 日本の植民地支配期の政治 8 回 米軍政と南北分断 9 回 第 1 共和国と朝鮮戦争 1 0 回 学生革命と第 2 共和国の成立 1 1 回 軍事クーデターと第 3 共和国の成立 1 2 回 軍事独裁と第 4 共和国 1 3 回 光州民主化抗争と第 5 共和国の成立 1 4 回 民主化と第 6 共和国の成立 1 5 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、授業中に紹介する。		出席・授業への参加度：50%、期末試験：50%	

12 年度以前	韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論 b）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国の宗教を講義します。韓国と日本は隣国ですが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、現在の韓国の宗教分布は、キリスト教と仏教とがほぼ同率になっています。また宗教が社会において持っている意味合いも日本とは異なります。 本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行います。 講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をします。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定です。 なお知識を定着させるため、授業の最後の 15 分を小レポート作成に充てます。これも成績評価の対象としますので、きちんと授業を聴くことが必要です。		1. ガイダンス 2. 韓国宗教の構造と問題 3. 民間信仰 4. 仏教（1） 5. 仏教（2） 6. 仏教（3） 7. 仏教（4） 8. 儒教（1） 9. 儒教（2） 10. 儒教（3） 11. キリスト教（1） 12. キリスト教（2） 13. キリスト教（3） 14. 現代韓国と宗教 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介する。		評価の基準は、1 韓国の宗教に関する基本的知識を得ることができたか。2 韓国の宗教と社会との関係を理解することができたか。評価方法は、授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）不定期にレポートを課す場合もある。	

12 年度以前	韓国研究各論Ⅵ（韓国文化各論 c）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽とは、人間の感性に直結するものであり、それだけ文化の根底に根ざしているものです。本講義では韓国の音楽を講義することにより、韓国文化を理解することを目的とします。音楽といっても幅広いですが、本講義では民謡、伝統音楽といった古典から、トロット（ポップな演歌）、80-90年代のポップス、そして宗教音楽やアニメなどを取り扱います。 講義方法は、それぞれのジャンルの中の代表的な楽曲を取り上げて鑑賞した後、楽曲の構成や時代背景を解説し、理解を深めます。その後、講師と参加者が一緒に歌います。ここがメインです。これにより韓国文化の一端を直接体得できるでしょう。 この講義には、①韓国文化に関心があり、②歌を歌うことが好きな人、の参加を歓迎します。韓国語の知識は、あれば良いですが、韓国語を勉強したことがない人でも一緒に歌えるように配慮します。		1. 講義ガイダンス 2. 民謡（1） 3. 民謡（2） 4. 伝統音楽 5. 愛国歌 6. トロット（1） 7. トロット（2） 8. ポップス（1） 9. ポップス（2） 10. ポップス（3） 11. アニメ 12. 宗教音楽 13. 軍歌 14. 朝鮮民主主義人民共和国の音楽 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介します。		評価の基準は、1 韓国の音楽に関する基本的知識を得ることができたか。2 韓国の音楽と社会との関係を理解することができたか。 評価方法は、毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※参加人数によっては歌を試験に課す可能性もあります。 ※不定期でレポートを課す場合もあります。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	韓国研究情報収集法	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑 (김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3 - 4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 *韓国語を理解する者に限る。 注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。		1. ガイダンス 2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定 3. ハングルのタイピング練習① 4. ハングルのタイピング練習② 5. ハングルのタイピング練習③ 6. ハングルのタイピング練習④ 7. インタネット検索 8. インタネット検索 9. 調査発表① 10. 調査発表② 11. 調査発表③ 12. 調査発表④ 13. 現地調査発表⑤ 14. 現地調査発表⑥ 15. まとめ 注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		・出席、課題レポート ・韓国の情報収集方法について理解したか。 ・収集した情報を整理して発表することができるようになったか。	

12 年度以前	韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論 b）	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑 (김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。 積極的な授業参加を評価する。		1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗前期の教育と文化 5. 高麗後期の教育と文化 6. 朝鮮前期の教育と文化 7. 朝鮮後期の教育と文化 8. 植民地支配の教育政策 9. 植民地支配の国語教育 10. 日韓生涯教育と社会 11. 日韓ジェンダー教育 12. 日韓女性の教育 13. 韓国における日本語教育の歴史 14. 日本における韓国語教育の歴史 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。		・出席、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ） ・日韓の教育政策や教育文化を理解したか。 ・韓国と日本の教育について自分なりの問題を設定できたか。	

12 年度以前	韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a）	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑 (김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。（50 名まで） ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力 1 回目の授業から出席すること。		1. 日韓比較文化概説 ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の福祉レジーム 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。		・出席、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ） ・日本と韓国の異なる文化を理解したか。 ・日本と韓国の文化について具体的な比較ができるようになったか。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は中級韓国語コースを履修した学生向けの読解専門講座である。初級、中級クラスで習得した文法知識を総点検、復習しながら、多様なジャンルの文章を読んでいく過程を通して、読解能力を培養することが目的である。 学生のレベルや個人差を勘案し、テキストの難易度を段階的に調節した。最初は簡単な文型の説話や短文からはじめ、最後は複雑な上級文型がふくまれている随筆、現代詩を体験できるように各ジャンルを配置した。各文章の内容も、長い間記憶に残るほどの内容になれるように選別してみた。		第1週： オリエンテーション 第2週： 説話 1－「金の斧と銀の斧」 第3週： 説話 2－「山賊と少女」 第4週： 名短文－「変化と挫折」、「一番大事な事」 第5週： 新聞記事 1 第6週： 新聞記事 2 第7週： 学術論文－「最近の韓国映画」一部 第8週： 心理相談文 1－「勉強がうまくできません」 第9週： 心理相談文 2－「選択がしにくいです」 第10週： 随筆 1－「因縁」 1 第11週： 随筆 2－「因縁」 2 第12週： 随筆 3－「秘密にしていた話」 1 第13週： 随筆 4－「秘密にしていた話」 2 第14週： 現代詩－「序詩」、「星を数える夜」 第15週： まとめ （＊場合によって差し替えの可能性あります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
すべてのテキストはコピーして配布する。		出席、課題、中間テスト、期末テスト	

12 年度以前	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば…)についても扱うことを予定している。		1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。	

12 年度以前	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 (受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 重松清「ビタミンF」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Y」 他 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 奥田英朗「インザプール」 「空中ブランコ」 佐藤多佳子 「しゃべれどもしゃべれども」 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回③ 同上 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 有川浩「阪急電車」 吉田修一「横道世之介」 天童荒太「悼む人」 他 第13回①原作を映像で見る 第14回② 同上 第15回 まとめ(総集編)	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート(定期試験)	

12 年度以前	日本研究Ⅲ（日本史 a）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
1945 年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば 1931 年の満州事変にいきつく。足かけ 15 年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどのようなものだったかの事実をしっかり知っておきたい。また、戦争の原因を日清・日露戦争にさかのぼって世界の中、アジアの中での日本の歩みを概観し、考察してみたい。なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。		1 1945 年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2 1941 年 12 月 8 日—真珠湾からカコタバルから 3 被害の問題①—空襲は何を示すか 4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5 日中戦争をとらえる①—満州事変から日中戦争へ 6 日中戦争をとらえる②—対米英戦争とのかかわり 7 加害の問題①—731 部隊とは何か 8 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 9 加害の問題③—三光作戦をめぐって 10 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 11 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 12 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員 13 戦争と経済の関わりを考える 14 この戦争の原因をどうとらえるか① 15 この戦争の原因をどうとらえるか②	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

12 年度以前	日本研究Ⅳ（日本史 b）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
なぜ沖縄には、たくさんの米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945 年 8 月 15 日に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15 年戦争）は、戦後 60 年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等をととしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実を目を向けたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011 年の 3・11 を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。		1 本土決戦と日本の戦争の終わり方 2 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 原発の導入をめぐって①—ビキニ被曝の直後に 7 原発の導入をめぐって②—原子力共同体と安全神話 8 日本の国内での補償をめぐって 9 日本のアジアへの補償をめぐって 10 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 11 日中国交回復を考える 12 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 13 アジアの民衆からの戦後補償要求 14 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 15 戦後 50 年の国会決議をめぐって	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

12 年度以前	日本研究Ⅴ（日本経済論 a）	担当者	須藤 時仁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、基礎的な経済理論をベースに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにするものである。講義を通じて、現実の日本経済がどうなっているのか、また実際の経済現象が理論的にどのように説明されるのかについて理解してもらいたい。なお、新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。 特に受講の条件というわけではないが、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。		1. イントロダクション 2. 国民経済計算とは 3. 三面等価の原則 4. 日本の経済成長 5. 産業構造の変遷 6. 日本の景気循環 7. 個人消費の特徴 8. 消費の決定要因 9. 消費と資産価格 10. 貯蓄率の動向 11. 設備投資の特徴 12. 設備投資の決定要因：資本ストックと金利 13. 設備投資の決定要因：企業経営者の経済見通し 14. 資金調達と設備投資 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。		定期試験により評価する。	

12 年度以前	日本研究Ⅵ（日本経済論 b）	担当者	須藤 時仁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、基礎的な経済理論をもとに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにすることを主眼としており、日本経済論 a の続編である。この講義では、民間経済主体の行動についての理解を前提として、政府の行動が経済に及ぼす影響、金融市場と実体経済との関係、世界経済と日本経済との相互の関係について理解してもらいたい。なお、本講義でも新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。 特に受講の条件というわけではないが、日本経済論 a の場合と同様に、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。		1. イントロダクション 2. 日本の雇用状況 3. 雇用の非正規化 4. 日本の物価動向 5. 日本の物価はなぜ上昇し難いのか 6. 財政とは 7. 財政と国債 8. 日本財政の問題点と展望 9. 金融とは 10. 日本の資金循環 11. 日本の金融システム 12. 国際収支の特徴 13. 外国為替レート推移 14. 経常収支の決定要因 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。		定期試験により評価する。	

13 年度 12 年度以前	日本研究概論 I 日本研究Ⅶ（日本文化論）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。 具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広く、かつ興味深く概観します。 授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知ることになります。		1. 網野善彦の歴史学（1） 2. 網野善彦の歴史学（2） 3. 柳田国男の民俗学（1） 4. 柳田国男の民俗学（2） 5. 折口信夫の民俗学 6. 仏教—法華経 7. 仏教と文学—宮澤賢治 8. 絵巻物の時空 9. 能 10. 民俗芸能 11. 黒澤明の映画 12. マンガの引用学 13. 戦後少女マンガ史 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80％）と、出席（20％）によって評価する。	

12 年度以前	日本研究各論 I（民俗芸能）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さという点からは特徴的な「文化」である。</u> 日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活と結びついてまだ残存している。いわゆる先進国に属する国としては唯一と言って良い。 そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて、概念や価値観・認識の実際がどう機能しているかに留意する。		1.オリエンテーション・導入 2.日本文化の複合重層性と「見えないもの」 3.神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭 4.神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能 I 5.異人の出現と芸能①…八重山の祭と芸能 II 6.異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7.稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8.稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り I 9.稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊り II 10.稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト 11.年齢階梯と芸能①…福島県の成人儀礼「幡祭」 12.年齢階梯と芸能②…兵庫県の宮座 I 13.年齢階梯と芸能③…兵庫県の宮座 II 14.境界領域の時空…曖昧な時間・空間・人間関係 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。		学期末試験（論述式）の成績による。	

12 年度以前	日本研究各論Ⅱ（企業経営）	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。 日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。		1. 現代企業の諸形態 2. 株式会社の発展と企業支配 3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス 4. 現代企業の社会的責任 5. 現代企業の環境経営 6. 現代企業の経営戦略 7. 人間関係論からモチベーション論へ 8. 経営組織の基本形態 9. 経営組織の発展形態 10. 製造業の国際競争力と生産管理 11. 経営のグローバル化と多国籍企業 12. 現代企業における IT 戦略 13. 日本型企业システムの変容 14. 自動車産業の経営戦略 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	民俗学 日本特殊研究Ⅰ（民俗学）	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの生活は、先祖から受け継がれてきたものである。継承されてきた先に現在があり、その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようにつながり、現在の我々の生活の意味を探るものである。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大切なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることにつながるためである。 本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。		1 ガイダンス 2 民俗学の研究対象（具体的に） 3 国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4 日本の祭り 1（祭りの映像記録を見る） 5 日本の祭り 2 6 異界の問題 1（妖怪・幽霊とは何か） 7 異界の問題 2（日本の幽霊観） 8 異界の問題 3（妖怪と神の関係） 9 昔話にみる「日本」 10 日本の災害伝承 11 年中行事 1（とくに正月をめぐる） 12 年中行事 2（とくに盆をめぐる） 13 人生儀礼（人の一生における様々な儀礼） 14 日本人の死生観 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時にプリントを配布		試験による。ただし、4 回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とする。	

12 年度以前	日本研究各論Ⅲ（地域文化）	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
現在、特に都会では隣にどのような人が住んでいるのかわからない状況にある。しかし少なくとも江戸時代以降には、地縁的共同体が形成され、それにより個々の生活が支えられていた。その共同体を単位として生活様式などが受け継がれてきた。 阪神淡路大震災において、地縁的共同体が相互の助け合いに大きく役立ったという報道がなされている。また東日本大震災では「地域」移転の問題が大きく報じられている。 現在では都市化やネットの普及で、近隣との縁が薄くなった現実があり、従来の「地域」が崩壊しているといえる。その中での阪神淡路大震災での「地域」の役割は興味深いものがあるだけではなく、東日本大震災での「地域」移転による生活の変化、文化の変化を他人事のように捉えることはできない。 本講義では従来の「地域」がどのようなものであり、どのように機能してきたか、そして現在ではどのように機能しているか、祭りや実際の「地域」構造を例示しつつ説明するものである。本講義により、「地域」とは何か、また崩壊したといわれる地縁性をどのようにすればよいのか、「地域」の再生か、再生せずに別の在り方があるのか考えるきっかけになればと思う。人は一人では生きていけないのである。		1 ガイダンス 2 地名の成り立ちと地域（地域差の問題） 3 地域形成と生活構造 4 白川郷の「結」（ビデオと解説） 5 地域認識の問題（地名と地域の関係） 6 地域文化としての祭り 1 7 地域文化としての祭り 2 8 地域の重層的構成 9 内的他者とその機能 10 伝統的祭りの方向性 1（過疎地域の問題、具体例を通して） 11 伝統的祭りの方向性 2（都市地域の問題、具体例を通して） 12 文化圏としての地域文化（ビデオと解説） 13 地域文化とフォークロリズムの問題 14 地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 15 地域とボーダレス社会（現在にとって地域とは何か、シャッター商店街、子どもへの目の問題も含めて）	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時にプリント配布		試験による。ただし、4 回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とする。	

12 年度以前	日本研究各論Ⅳ（古典芸能）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本の古典芸能の中でも世界的に関心を持たれている謡曲（能）をテーマとします。 とくに西行が登場する謡曲を数篇取り上げて検討し、題材と作劇の方法を探ってゆきます。そこから謡曲という古典芸能の性質を解明し、その日本文化の中に占める位置を理解するところにつなげてゆきたいと考えます。 神霊が主役を演じる、世界的にみて特異な演劇である能は、後世の演劇だけでなく、文学や映画などに大きな影響を与えていますが、授業を通してその本質に触れてもらいたいと思います。		1. 授業の概要 2. 西行桜（1） 3. 西行桜（2） 4. 実方 5. 西行西住 6. 西行塚 7. 遊行柳（1） 8. 遊行柳（2） 9. 江口（1） 10. 江口（2） 11. 雨月 12. その他の曲（1） 13. その他の曲（2） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80％）と、出席（20％）によって評価する。	

12 年度以前	日本特殊研究Ⅱ（文献読解）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では西行の和歌を読解します。 日本文学史だけに限らず、広く現在まで日本文化の様々な分野に多大な影響を及ぼし続けている西行とは何者なのかを明らかにするために、その和歌作品を通して検討します。 様々に脱領域し、分野横断する西行和歌の魅力を、題材ごとに取り出してみます。四季や恋といった通常の題材だけでなく、あらゆる題材に取材して和歌に詠んだ西行のことばを追求し、新しいことばの発見にも説き及んでゆきます。 和歌という形式が無限の可能性を秘めていることを知り、なぜ日本文化史の中に和歌が主要な位置を占めてきたのかを解明することにもなります。		1. 講義の概要 2. 花と西行 3. 月と西行 4. 山と西行 5. 野と西行 6. 河と西行 7. 海と西行 8. 恋と西行 9. 仏教と西行 10. 修験道と西行 11. 地獄絵と西行 12. 民俗と西行 13. 西行伝説 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、毎回プリントをを配布する。		評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80％）と、出席（20％）によって評価する。	

12 年度以前	日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、写本の読み方の基礎を手ほどきし、くずし字を用いて書写された文献を初心者でも読みこなせるようになることを目的とします。 教材として、西行の歌論『西行上人談抄』を取り上げることにします。 授業の最初では読み解き方の見本を示しながら進めてゆきますが、要領がわかってきたところで途中から履修者の学生にも課題を割り当てて読み解いてもらいます。 日本社会の中で失われてしまった和本リテラシーが、これからは改めて必要になってくるものと予想されます。その入門編となれば幸いです。		1. 授業の概要 2. 読み方の範例（1） 3. 読み方の範例（2） 4. 読み方の範例（3） 5. 読み方の範例（4） 6. 読み解き実践（1） 7. 読み解き実践（2） 8. 読み解き実践（3） 9. 読み解き実践（4） 10. 読み解き実践（5） 11. 読み解き実践（6） 12. 読み解き実践（7） 13. 読み解き実践（8） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いず、プリントを配布する。		評価方法：期末試験の結果（50％）と、授業中に割り当ての実技（50％）によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	日本特殊研究Ⅳ（碑文を読む）	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して（写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい）読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。		1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. 日本漢文体の読解、梵字の読解 4. 道標・講中碑を読む 5. 墓碑銘・供養碑を読む 6. 記念碑・文学碑を読む 7. 学生諸君の報告と検討① 8. 学生諸君の報告と検討② 9. 学生諸君の報告と検討③ 10. 学生諸君の報告と検討④ 11. 学生諸君の報告と検討⑤ 12. 学生諸君の報告と検討⑥ 13. 学生諸君の報告と検討⑦ 14. 学生諸君の報告と検討⑧ 15. 学生諸君の報告と検討⑨	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にない。		各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、授業中に検討した上で手直しして、最低4点提出してもらい、その内容による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語間交流研究Ⅲ（英語学 a）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論などがある。随時、日本語との対照学習を取り入れ、外国語としての英語学習が容易になるよう試みる。それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後、実際に当該項目が習得されるよう練習課題を行う。授業内外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる。2014 年度は休講の予定。 参考文献 高橋作太郎、『英語教師の文法研究』（大修館書店、1983；ISBN：4469141526） 高橋作太郎、『統・英語教師の文法研究』（大修館書店、1985；ISBN：4469141542） 橋内武、『ディスコース：談話の織りなす世界』（くろしお出版、1999；ISBN：4-87424-172-7） M. A. K. Halliday & R. Hasan, <i>Cohesion in English</i> (Longman, 1976；ISBN：978-0582550414) http://home.eserver.org/danzico/Discourse/hallidaysummary.htm 1 高橋作太郎、『英語の演習 第2巻：文法』（大修館書店） 朝尾幸次郎、『英語の演習 第3巻：語彙・表現』（大修館書店） 西光義弘他、『日英対照による英語学概論』（くろしお出版、1999；ISBN：4874241697） 竹林滋・桜井雅人、『英語の演習 第1巻：音韻・形態』（大修館書店）		1. 英語の文法理論（6 章） 2. 音声学（1）（7 章） 3. 音声学（2）（7 章） 4. 音韻論（1）（8 章） 5. 音韻論（2）（8 章） 6. 強勢・イントネーション（8 章） 7. 形態論・語形成（9 章） 8. 統語論（1）（10 章） 9. 統語論（2）（10 章） 10. 統語論（3）（10 章） 11. 意味論・語用論（1）（11 章） 12. 意味論・語用論（2）（11 章） 13. 談話分析（1） 14. 談話分析（2） 15. コーパス言語学	
テキスト、参考文献		評価方法	
石黒昭博他、『現代英語学要説』（南雲堂、1987；ISBN：4-523-30047-X）		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

12 年度以前	多言語間交流研究Ⅳ（英語学 b）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。 後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる。2014 年度は休講の予定。 参考文献 David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of the English Language</i>, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003；ISBN：0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, <i>English: History, Diversity and Change</i> (Routledge, 1996；ISBN：0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. MacNeil, <i>The Story of English: Special Complete Edition</i> (マクミランラングージハウス、1989；ISBN：4895850242) 石黒昭博他、『現代英語学要説』（南雲堂、1987；ISBN：4-523-30047-X） 宇賀治正朋、『英語史』（開拓社、2000；ISBN：4 7589 0218 6）		1. 英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2. 英語以前（1）：印欧語族の成立 3. 英語以前（2）：ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け：古英語とその社会 5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 10. 英語の現状：アメリカ英語・第3世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状（1）：公用語・第2言語・英語学習・辞書 12. 英語使用の現状（2）：社会・文化と英語使用 13. 英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング、（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法 14. 英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御、（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントを配布する。		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

13 年度 12 年度以前	英語圏の文学Ⅰ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	担当者未定
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期授業開始時までには掲示等にて告知する。		春学期授業開始時までには掲示等にて告知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	英語圏の文学Ⅱ 多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	担当者未定
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期授業開始時までには掲示等にて告知する。		秋学期授業開始時までには掲示等にて告知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～3週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失 第4～6週：言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム（個人・社会） －マイノリティ言語 第7週：言語と脳 第8～12週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第2言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第13～15週：言語研究	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題(50%)、期末テスト（50%）	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～7週：SLA理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第8～13週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など 第14・15週：発表および総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		期末レポート&課題（50%）、期末テスト（50%）	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説a）	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します） 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項:TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。		1. 新奇なるもの、小説？（1） 2. 新奇なるもの、小説？（2） 3. 英語圏の拡大（1） 4. English Bestsellers of all time（1） 5. English Bestsellers of all time（2） 6. 英語圏の拡大（2） 7. 国民文学と政治的無意識 8. 小説の新たな挑戦（1） 9. 小説の新たな挑戦（2） 10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図（1） 11. ポストコロニアルの文学地図（2） 12. ポストコロニアルの文学地図（3） 13. ポストコロニアルの文学地図（4） 14. テキストの思わぬ旅路（1） 15. テキストの思わぬ旅路（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。		出席 30% 定期試験 70%	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅳ（英語圏の小説b）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 講義概要 まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。 講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。 なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。		1: アメリカ小説の概略（歴史・文化・社会） 2: アメリカ小説の創生期 3: アメリカン・ルネッサンス 4: リアリズム小説 1（第一世代と第二世代のリアリズム作家たち） 5: リアリズム小説 2（Mark Twain と <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>） 6: リアリズム小説 3（Naturalism） 7: モダニズム小説 1（アメリカ小説のモダニストたち） 8: モダニズム小説 2（William Faulkner と "That Evening Sun"） 9: モダニズム小説 3（"That Evening Sun"） 10: モダニズム小説 4（William Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>） 11: 多文化主義小説 1（多文化主義とアメリカ小説） 12: 多文化主義小説 2（黒人作家とユダヤ系作家） 13: 多文化主義小説 3（Bernard Malamud と "The First Seven Years"） 14: 多文化主義小説 4（"The First Seven Years"） 15: まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する		定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅵ（英語圏の詩 b）	担当者	田村 斉敏
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 William Butler Yeats、W. H. Auden、Seamus Heaney など、主に19世紀末から現在に至るまで、英国あるいはアイルランドに生まれ、活躍した詩人たちの作品を取り上げる。さまざまな作品の味読を通して、多様な詩的世界に触れると同時に、基本的な詩の読み方を身に着けることを目的とする。 講義概要 基本的に時間軸に沿って詩人を取り上げる。一回に取り上げるのは一人または二人程度とする。 取り上げる詩についてはあらかじめプリント等で配布する。一通り目を通してくること。 期末のレポートのほかに、不定期に授業時間内に課題を出す。		1 講義の概要 2～13 講義概要にそって詩をとりあげて読んでいく。取り上げる予定の詩人は以下の通り： Thomas Hardy (1840-1928) William Butler Yeats (1865-1939) D. H. Lawrence (1885-1930) Robert Graves (1895-1985) W. H. Auden (1907-1973) Philip Larkin (1922-1985) Ted Hughes (1930-1998) Geoffrey Hill (b. 1932) Seamus Heaney (b. 1939) Eavan Boland (b. 1944) その他 14 まとめ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布するのでテキストの購入は不要。 なお、底本として Michael Schmidt 編 <i>The Great Modern Poets</i> (Quercus, 2008)を使用するので参考まで。		期末にレポートの提出を求める。また授業内の課題および出席状況も重視する。	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅴ（英語圏の詩 a）	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしていま」の視点から論じる。		1. アメリカの大地の声—Native American のうた 2. Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman 4. ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson 5. モダニズムの起源を探る—(1)Ezra Pound がみた東洋 6. (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrock” に描かれた現代人の苦悩 7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8. (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9. ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” 10. (2) Gary Snyder の “Ripples on the Surface” 11. (3) Sylvia Plath の “Daddy” 12. (4) Robert Bly の “Conversation With the Soul” 13. (5) Robert Creeley の “The Whip” 14. (6) Frank O'Hara の “A Step Away from Them” 15. (7) Billy Collins の “Japan”	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: The American Poetry & Literary Project, ed. <i>101 Great American Poems</i>. Mineola, NY: Dover Pub., 1998. 参考文献、『アメリカ名詩選』（岩波文庫）		4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）と授業への参加度によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅶ（英語圏の演劇 a）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。		毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関する事など、詳細は教室にて説明します。 * 第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 ***注意事項*** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は、英語学科生は「英語圏の演劇 a」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論Ⅶ（英語圏の演劇 a）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力が前提です。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		授業時のテストで 40%、観劇レポート 2 編で 60%、レポート（必修）未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。		毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関する事など、詳細は教室にて説明します。 * 第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 ***注意事項*** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力が前提です。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		授業時のテストで 40%、観劇レポート 2 編で 60%、レポート（必修）未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅸ（国際語としての英語）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
約 3 億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると 20 億人あまり英語話者がいるという。20 億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 1 週：概論 第 2 週：英語の普及 －ディアスポラなど 第 3～4 週：英語の多様化 －ピジンとクレオール －方言と標準語 第 5～7 週：世界英語―内部圏における多様化 －アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など －Hawaii Creole English －Ebonics －Spanglish など 第 8～9 週：世界英語―外部圏における多様化 －インド英語 －Singlish 第 10～11 週：世界英語―拡大圏における多様化 －ヨーロッパと英語、ロシアと英語 －中国と英語、韓国と英語 第 12～13 週：日本人にとっての英語とは何か －日本での英語使用 －日本の英語教育史 －現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など 第 14～15 週 －発表と総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		フィールドワーク、期末レポートおよび他課題（50%）、 期末テスト（50%）	

12 年度以前	多言語間交流研究各論Ⅹ（多言語環境と英語）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」（教育、サービス含む）の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングとフィールドワークなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第 1 週：概論 第 2～4 週：言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第 5～8 週：世界の言語政策と英語の位置づけ －内部圏：アメリカ、オーストラリアなど －外部圏：インド、シンガポールなど －拡大圏：フランス、韓国など 第 9～13 週：日本の中の多言語と英語 －日本の中の多言語 －言語政策と教育 －各地方自治体の言語政策・言語サービス －言語意識教育など 第 14～15 週：発表と総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料等有り。		フィールドワーク、期末レポートおよび他課題（50%）、 期末テスト（50%）	

12 年度以前	多言語間交流研究各論 X I （英語圏の文化）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP<White Anglo-Saxon Protestant>）社会を創造した。19 世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。		1. ガイダンス 2. 国家建設とワスプ主義 3. 工業化と新移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー 10. カウンターカルチャー 11. 映像 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

12 年度以前	多言語間交流研究各論 X II （英語圏事情）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なもの」を発信しつつ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。		1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. // 4. 9 1 1 5. アメリカと戦争 6. ベトナム戦争 7. 湾岸戦争 8. イラク戦争 9. // 10. もう一つの 9 1 1 11. 映像 12. ソフト・パワー 13. アメリカンポップカルチャーの力 14. // 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

12 年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では通訳に関する基礎的な理論を概観し、演習を通じて通訳の初歩的なスキルを学びます。 通訳の歴史、理論研究、通訳者になるための条件、通訳プロセスの基本的な枠組みなど、通訳行為に関する基礎的理論や知識を学ぶとともに、実際の通訳訓練も行い受講者の言語運用能力の向上を同時に目指します。		1. オリエンテーション 2. 通訳とは 3. 通訳の種類と活躍の場 4. 通訳に求められるもの 5. 通訳の研究 6. 通訳のモデル 7. 通訳と翻訳 8. まとめ 9. 記憶とノートテキング 10. 逐次通訳（1） 11. 逐次通訳（2） 12. 同時通訳（1） 13. 同時通訳（2） 14. 通訳とデリバリー 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：友野百枝・宮元友之・南津佳広著『通訳学 101』（大阪教育図書、2012 年）		レポートによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。	

12 年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、レジスターを意識し、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。		1. オリエンテーション 2. アテンド・随行通訳 3. パーティー・レセプション通訳 4. 工場見学通訳 5. ビジネス・商談通訳 6. 芸能・スポーツ通訳 7. ニュースのボイスオーバー 8. 確認テスト（1） 9. 司法通訳 10. 医療通訳 11. 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12. インタビュー対談通訳 13. セミナー・講演会通訳 14. 国際会議同時通訳 15. 確認テスト（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：浅野輝子・中村幸子・Robert Hewer 著『通訳の現場から学ぶ実践演習』（南雲堂フェニックス、2008 年）		授業中に実施する 2 回の確認テストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。	

12 年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：日本と中国の翻訳の歴史と理論についての理解を深め、さらに実際の翻訳作品を素材として比較や分析を行います。また、学期の最後には種々のテキストを用いて翻訳実習を行います。 中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。 学期の半ばでは、実際の翻訳作品を例にとり、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。 最後に実際に自分で翻訳を行い、翻訳の楽しさや難しさを体験します。		1. ガイダンス 2. 翻訳の理論が扱う問題 3. 中国における翻訳の歴史 4. 中国の翻訳論と日本の翻訳論 5. 近代文学と翻訳 6. 日本における中国文学の翻訳（近代以前） 7. 日本における中国文学の翻訳（近代以降） 8. 日本文学の中国語訳を読む（1） 9. 日本文学の中国語訳を読む（2） 10. 中国文学の日本語訳を読む（1） 11. 中国文学の日本語訳を読む（2） 12. 翻訳実習（1） 13. 翻訳実習（2） 14. 翻訳実習（3） 15. 学期のまとめ、レポート提出	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定せず、授業中にそのつど配布する。		平常点（授業における積極性）と期末レポートで評価します。	

12 年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：中日・日中翻訳・通訳入門 履修者の中国語運用能力に適した難易度の教材を選定して翻訳通訳の練習を行います。 1～5回：比較的読みやすい雑誌記事などの中→日翻訳 5回目：中間試験 6～9回：基本的な文法事項にそって中国語作文練習を行いながら日本語から中国語への訳出訓練をします。 10～15回：中日・日中双方向の逐次通訳と同時通訳の練習を行い、すばやい反応力と応用力を養います。 5・9・14・15回目の授業で翻訳・通訳についてそれぞれ実技試験を実施し、平均点で総合点を出します。		1. ガイダンス 中国語読解力の判定 2. 文化コラムの翻訳 3. エッセイの翻訳 4. 社会ニュースの翻訳 5. 翻訳の試験及び中国語リスニング力の判定 6. 中国語への訳出練習（単文） 7. 中国語への訳出練習（単文） 8. 中国語への訳出練習（長文） 9. 中国語作文試験及びスピーキング力の判定 10. 原稿付き逐次通訳 11. 原稿なし逐次通訳 12. 原稿付き同時通訳 13. 原稿なし同時通訳 14. 通訳試験（逐次通訳） 15. 通訳試験（同時通訳）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定せず、授業中にそのつど配布する。		授業に対する積極性と実技試験の結果で評価します。	

12 年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅲ（翻訳通訳論・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通して、翻訳・通訳の概要を検討する。 翻訳では特に接続法に焦点を当てて、訳出の違いを研究する。 また、翻訳者養成に有意義だとされているメモリーレッスンを実践し、伝達意図を即時につかみ取り入れ、発表する演習を行う。内容先取り練習を兼ねる文化紹介記事を主に使用する。 また、通訳に関しては、通訳者の役割と訓練法の説明を行い、さらに通訳技術を応用した翻訳方法についても論じる。		1. オリエンテーション 数字の QR 2. 通訳・翻訳の共通点と相違点 3. メモリーレッスン1 翻訳技法・接続法 1 4. メモリーレッスン2 翻訳技法・接続法 2 5. メモリーレッスン3 視訳の説明 6. メモリーレッスン4 翻訳技法・接続法 3 7. メモリーレッスン5 翻訳技法・接続法 4 8. 数字テスト 接続法テスト 9. ノートテーキングとサマリー作成 研究 10. ノートテーキングとサマリー作成 研究 11. デュアル・レッスン 12. 長文音読と視訳 13. 長文音読と視訳 14. 実技試験 15. 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席 30% 参加度30% 課題20% 試験20% 課題は PC で仕上げてくるものとする。	

12 年度以前	多言語間交流特殊研究Ⅵ（翻訳通訳実習・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテン・アメリカについてのエッセイを教材として通訳トレーニング演習を行う。 数字 QR 以下の手順で本番に近い演習を目指す。 1. 音読、サイトトランスレーション、 2. 訳文の提出、ペアまたはグループによる逐次通訳、 3. 逐次同通、ウィスパリング同通の練習、 4. 同通ブースを使用した同時通訳練習 5. 実技試験		1. オリエンテーション 素材音読 視訳 2. 課題提出 逐次通訳練 3. 逐次同通、ウィスパリング同通の練習 4. 同時通訳 5. 実技試験 6. 素材音読 視訳 7. 課題提出 逐次通訳練 8. 逐次同通、ウィスパリング同通の練習 9. 同時通訳 10. 同時通訳実技試験 11. 実技試験 素材音読 視訳 12. 素材音読 視訳 13. 課題提出 逐次通訳練 同時通訳 14. 実技試験 15. 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席・参加 40% 課題提出 30% 実技試験 30%	

13 年度 12 年度以前	文化人類学Ⅰ 多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点、方法などを重点的に述べ、そのあと、こうした文化の事例を一つ、二つ取り上げ、その理解について説明する。 注：文化人類学の研究対象は上に述べたように「未開社会」、つまりわれわれの視点からすると、「遅れた」あるいは「非科学的」な社会です。またその文化は、現在の世界の画一化のなかでどんどん消滅しつつありますし、消滅してしまったものもたくさんあります。自分がそういうものに興味があるのか、よく考えて取るかどうか決めてください。		1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで (1) 4 同上 (2) 5 研究対象としての「文化」の概念 6 分析の視点——歴史的視点 7 歴史的視点から現在の視点へ 8 方法としての実地調査 (1) 9 (2) 10 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

13 年度 12 年度以前	文化人類学Ⅱ 多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
a で話したことを基礎に、引き続いてこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。そうしないと、話に出す事例に対して、なぜそんな馬鹿なことをするんだ、と思ってしまい、それだけで興味がもてなくなってしまうはずですから。		春学期に引き続いて、文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をする。具体的に話す事例は、今のところ、「家族」「親族」「儀礼」「宗教」などを予定している。何の予備知識もなく、われわれのそれとは全く異なった、こうした文化の側面を理解するのは難しいので、左の注に記したように、希望者はぜひ春学期から取って欲しい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

13 年度 12 年度以前	社会学Ⅰ 多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、社会学という学問に対する基礎的な知識の習得と包括的な理解を深めることを目的とする。学説史もまじえながら、これまでの社会学における諸議論を紹介し、社会学という学問の発想法に対する理解を深める。そのうえで、労働、グローバリゼーション、文化、コミュニケーション、メディア等のトピックを取り上げ、それらに対する社会学的な議論の方法を学ぶ。 なお社会学には曖昧なイメージがある。しかしそれはひとつの「物の見方」だと理解すれば良い。この講義では、社会学という学問の考え方を伝えると共に、身の回りにある具体的な事象について検討していく。		第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 逸脱 第 3 回 犯罪とリスク 第 4 回 労働 第 5 回 消費 第 6 回 遊び 第 7 回 文化 第 8 回 メディア(1) 第 9 回 メディア(2) 第 10 回 社会調査 第 11 回 ナショナリズム 第 12 回 グローバリゼーション(1) 第 13 回 グローバリゼーション(2) 第 14 回 複合メディア環境 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、指示する。		期末試験によって評価する。	

13 年度 12 年度以前	社会学Ⅱ 多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
社会学が成立した背景について、その概略を学び、現代社会が抱えるさまざまな問題を社会学的なアプローチから考える。とくに、グローバル社会のなかで異文化・異民族が共存するとき、そこにどういった問題が生じるのか、社会学はどのようにその問題を分析するのか、といった論点をベースにしつつ、映像資料も適宜取り入れながら講義を進める。 講義のなかでとりあげるトピックは、都市、地域社会、移民、大量消費社会、異文化、メディアである。幾人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、これらについて受講者とともに考えてゆきたい。受講者は、本講義で学んだことを自分なりに展開し、現代のグローバル化・国際化のもとで今後の日本社会が直面する課題はなにか、自分はどういった立場でそこに関わっていくのかについて考えてほしい。		1. イン트로ダクション 2. 社会学の歴史——ウェーバーとデュルケム 3. 社会の類型 4. 社会的性格と「自由からの逃走」——E. フロム 5. 同調様式の 3 類型——D. リースマン 6. 都市化と移民——W.I. トマスとF.W. ズナニエツキ 7. 同心円地帯説——E. バージェス 8. シカゴ学派と都市問題——R. パーク 9. 予言の自己成就——R. K. マートン 10. 誇示的消費——T. ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論——L. フェスティンガー 12. 文化的再生産——P. ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ——A. ギデンズ 14. 「社会問題化する」ということ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
E. フロム『自由からの逃走』東京創元社 D. リースマン『孤独な群衆』みすず書房 A. ギデンズ『親密性の変容』而立書房 岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社 ほか		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	異文化間コミュニケーションⅡ 多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーション b）	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族社会の形成について紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦によって、ときに多大な犠牲が払われてきたのである。 10 週目までは、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀以上が過ぎたが、どれだけ人種間の理解は進展を見たのだろうか。 そのあとの講義では、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げる。日本人移民のハワイにおける体験を検証し、異民族共存の困難さを考えてみたい。		1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. ロス暴動に見る共生の現実 4. 奴隷制下の人種共存 5. 奴隷解放？現実とは？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. 公民権運動の共生理念 8. 非暴力不服従 ガンジーとキング 9. 急進派ブラック・パワーとは 10. モハメッド・アリ 11. 多民族混合社会ハワイ 12. ハワイの経験ー多民族の取り込みー 13. 日本人移民の背景 14. 排斥事件 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『ハワイの日本人移民』山本英政 明石書店 参考文献：『アメリカ黒人の歴史』本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇 講談社現代新書		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

12 年度以前	多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生 a)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
日英米に定住する代表的マイノリティ（被差別少数派）の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく解明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力についても学ぶ。		1. 日本のマイノリティ、アイヌ 2. 中世英国のユダヤ人金融 3. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る —1290年のイングランド— 4. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 5. 千年王国思想とユダヤ人再入国 6. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 7. 英国人地主貴族社会への同化現象 8. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生メカニズム 9. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 10. 現代英国ユダヤ人社会 11. 在日中国人 12. 在日コリアン 13. 被差別部落問題 14. 在日黒人 15. 日系ブラジル人	
テキスト、参考文献		評価方法	
『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年 講談社選書 1600円)を入手していただく。		定期試験 70 点 試験はテキスト持ち込み可。 合評会 16 点 出席 14 点 でカウントする。	

12 年度以前	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生 b)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。 毎回十数本の映像ソフトを担当者が持参し、具体的場면을ピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。 かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。		1. はじめに 2. 先住民インディアン 3. 越境するヒスパニック 4. 今を生きる黒人 5. 歴史の中の黒人 6. 〃 〃 7. 等身大のユダヤ人 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9. 歴史の中のユダヤ人 10. アジア系—日系・中国系・韓国系— 11. ホワイト・エスニック—アイルランド系・イタリア系— など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. 〃 〃 14. おわりに 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008 年 NTT 選書）1600 円		出席は14 点分でカウントする。定期試験は86 点分。試験は 8 択、20 題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多文化共生研究各論Ⅳ（異文化社会の認識と世界観 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：「未開」社会は、世界の画一化の中でどんどん消えつつあります。それを勉強して何の役に立つの、と考える人も沢山います。文化人類学の単位を取って、まあ面白くなくもないと思ったか、何らかのきっかけで「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、事例を挙げた途端に、どうしてそんなバカなことをやったり考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。		世界観に重点を置いて話をする。詳細な内容も回数も明示できないが、「生活様式」「創世神話」「祖先崇拜」「象徴的二元論」に表れる世界観、といったテーマを考えている。こういう現象を通して「未開」社会の人々の、われわれとは「異なった」「世界観」を見ることができるようになりたい。またそうすることによってわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができるようになるだろう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

12 年度以前	多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論）	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代の文化・芸術産業について理解を深めることを目的とする。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化・芸術について多角的に見る視点を養う。 特に音楽をはじめとするコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化など）、さらにはそれらを取り引する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても、重点的に講義する。		第1回 イン트로ダクション 第2回 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 第3回 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 第4回 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 第5回 サブカルチャーとグローバリゼーション1 第6回 サブカルチャーとグローバリゼーション2 第7回 サブカルチャーとグローバリゼーション3 第8回 サブカルチャーとグローバリゼーション4 第9回 産業と文化1 第10回 産業と文化2 第11回 ヤンキー文化とオタク文化1 第12回 ヤンキー文化とオタク文化2 第13回 複合メディア社会とサブカルチャー1 第14回 複合メディア社会とサブカルチャー2 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、指示する。		期末試験によって評価する。	

12 年度以前	多文化共生研究各論Ⅷ（地域メディア論）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。		1. イン트로ダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア（1） 5. 各地の地域メディア（2） 6. 各地の地域メディア（3） 7. メディアによる地域文化の創造（1） 8. メディアによる地域文化の創造（2） 9. 多文化共生と地域メディア（1） 10. 多文化共生と地域メディア（2） 11. 多文化共生と地域メディア（3） 12. 受講者による発表（1） 13. 受講者による発表（2） 14. 受講者による発表（3） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子著 『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		出席と発表（履修者多数の場合はレポート）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究）	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることを目的とする。 まず、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。次に、いくつかのエスニック集団を取り上げ、個々の集団に特徴的な状況について知識を得てもらう。また、教育や労働などのテーマからみられる抱える問題を取り上げてみたい。さらに、受け入れ社会側の人々にとって「異文化」を持つ人々を受け入れるとはどのようなことを考え、そこから「多文化共生」の可能性を模索したい。		1. ガイダンス・日本における外国人の概況（1） 2. 日本における外国人の概況（2） 3. なぜ人は移動するのか 4. 人種とエスニシティ 5. オールドカマー 6. ニューカマー（1） 7. ニューカマー（2） 8. ニューカマー（3） 9. 労働問題（1） 10. 労働問題（2） 11. 子どもたちと教育（1） 12. 子どもたちと教育（2）・アイデンティティ 13. 人種／エスニシティと差別 14. 「多文化共生」の可能性 15. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業時に紹介する。		出席状況（2/3 以上の出席が必要条件、10%）、授業内レポート（40%）、期末試験（50%）により評価。	

12 年度以前	多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。 一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。		1 はじめに： ラティーノとはだれか 米国における人種・民族関係とラティーノ 2 ラティーノの概要：出身地域と分布 3 人種化する「ラティーノ」 4 米ネイティブズムの動向 ハンチントン アリゾナ州反移民法 荒野の越境 5 米大統領選と非合法移民問題：DACA ドリーム法案 6 麻薬戦争 エルパソとフアレス市 7 国境ツインシティ：ティファナとサンディエゴ 8 なぜひとは国境を越えて移動するのだろうか。 9 移動の歴史① プエルトリコ系とキューバ系 10 移動の歴史② メキシコ系 11 アストラン伝説とチカノ運動 12 トランスナショナル・シティズンの誕生 13 映像資料 14 ラティーノは米国を変えるのか 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に文献リストを配る		2, 3 回の講義につき 1 回の小テストをおこない、その結果と授業内での発言を総合して判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかりと知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。ただ、これだけだとあまりに基礎的な知識を得てもらうだけでつまらないとも考えている。それで、わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」などについて話を挟むことになるかもしれない。見てもらいたい映像もある。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。 注：この地域の社会は規模も小さく、資源もありません。したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力をもっていません。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活していることだけは確かです。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。この数年、登録はしたもののやはり面白くないのか（話すわたしの責任もあるだろう）、ひじょうに成績が悪い。単位取り、というのだけはやめてください。		1 カリブ海域鳥瞰 2 資料（本、ビデオ、CD など）紹介 3 歴史（1） 4 歴史（2） 5 歴史（3） 6 民族・住民——白人と黒人 7 民族・住民——黒人同士（1） 8 民族・住民——黒人同士（2） 9 民族・住民——黒人とインド人 10 言語分布鳥瞰 11 クレオール語の成立 12 各クレオール語解説（1） 13 各クレオール語解説（2） 14 クレオール語の行方 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		このところ出席率も成績も悪いので、時々試験をやろうと考えている。その際の出席と成績を考慮し、最後も試験を行い、評価をする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	国際関係論 国際交流研究 I（国際関係論）	担当者	鈴木 宏尚
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的： 国際関係の成り立ち、基本的な原則、展開及び日本と国際社会の関係を学ぶ。 講義の概要： グローバル化が進む現代において、われわれは国際社会の動向と無縁ではいられない。したがって国際社会についての基本的な知識を身につけることは重要である。 本講義では、現在の国際社会はどのように生まれ、どのように展開してきたのか。国際社会の重要な構成単位である国家とは何か。国際機関はどのような役割を果たしているのか。現代の国際社会においてどのようなことが問題になっているのか、日本は国際社会とどう関わってきたか等について概説する。 また、できるだけ双方向の授業にしたいので、ほぼ毎回短いコメントカードを提出してもらう。		(予定) 1. インTRODakション 2. 国際社会の成立 3. 民族と国民 4. 国際機構と非国家主体 5. 戦争と平和、安全保障 6. 国際政治経済 7. 南北問題 8. グローバル化と地域主義 9. 国際関係の見方 10. 日本と国際社会①——第二次世界大戦まで 11. 日本と国際社会②——戦後日米関係 12. 日本と国際社会③——戦後日中関係 13. 日本と国際社会④——戦後日本とアジア 14. 講義のまとめ (1) 15. 講義のまとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。 毎回レジュメを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		平常点（コメントカード）30% 定期試験 70%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	国際協力論 国際交流研究Ⅱ（国際協力論）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。		I. 国連と平和維持活動（PKO） 1. 国連憲章とPKO 2. PKOの原則と変遷 3. PKOの事例研究（モザンビーク） 4. 日本のPKO協力法 II. 地域紛争と平和協力 5. 武力紛争と和平交渉（エルサルバドルの事例：1） 6. 和平合意と平和維持（エルサルバドルの事例：2） 7. 地域紛争とPKO：成果と限界 8. 地域紛争終結後の課題 III. 貧困問題と開発協力 9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み 10. 南北関係の変化と開発援助の変遷 11. 貧困と人間の安全保障 12. 開発協力と非政府組織（NGO） IV. 国際協力の新しい課題 13. 平和協力と開発協力の融合 14. 武装解除と平和構築 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

13 年度 12 年度以前	南北問題 国際交流研究Ⅴ（南北問題）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1（約 12 億人）は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。		I. 地球環境政治 1. 地球環境問題と南北対立 2. 貧困と環境破壊 3. 持続可能な開発の模索 4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係 II. 南北関係の展開と開発援助 5. 第三世界の独立と開発援助戦略 6. 第三世界のナショナリズムと南々格差の拡大 7. 貧困と「人間開発」 8. 新しい開発援助戦略と国連ミレニアム開発目標 III. 南北問題の争点 9. 経済のグローバル化と貧困問題 10. 世界の食糧問題 11. 人口の増加とエネルギー問題 12. 世界の水問題と砂漠化問題 IV. 世界の直面する課題と南北関係 13. 自然災害と復興支援 14. 原子力利用をめぐる軋轢と核拡散 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

12 年度以前	国際交流研究Ⅲ（国際機構論）	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。 〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。 本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部が履修する場合は2年生以上で受講することをお勧めします)。 この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。		1 はじめに 2 国際組織と国際法 3 紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4 紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5 安全保障に関わる国際組織（1） 6 安全保障に関わる国際組織（2） 7 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8 人権問題にかかわる国際組織 9 人道・難民問題に関わる国際組織 10 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 11 開発援助と南北問題に関わる国際組織 12 教育・文化に関わる国際組織 13 国際保健に関わる国際組織 14 海洋に関わる国際組織 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	NGO 論 国際交流研究Ⅳ（NGO 論）	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。		①NGO 論オリエンテーション ②～③「対テロ戦争」と市民社会 I／アフガニスタンの現状と NGO の活動 ④～⑤「対テロ戦争」と市民社会 II／イラクの現状と NGO の活動 ⑥パレスチナ問題とNGOの取り組み ⑦東アジアの平和と市民交流 ⑧NGOによる復興・開発協力の事例（カンボジア） ⑨ミレニアム開発目標（MDGs）とラオスにおける森林保全 ⑩アフリカにおける HIV/AIDS の現状と NGO の取り組み ⑪政府開発援助と NGO ⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会 I 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク ⑭非人道兵器の禁止と市民社会 II クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑮NGOの組織運営と資金	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：日本国際ボランティアセンター著『NGO の選択』めこん 2005 年 参考文献：清水俊弘著『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年		レポート提出。平常授業の課題など。	

12 年度以前	国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a）	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル(世界)政治の現在は著しく日常化し、我々の生存と生活は世界政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群や紛争群に直面している。その巨大で、複雑で、流動的で、日常化したグローバル政治の形成・展開・変容・変革の過程がどのような要因によって形成され、展開していくのか。また、その過程でなぜ、いかに前述したような地球的規模の問題群や紛争群が生まれてくるのかを検討していく。そして、そうした問題群や紛争群の統治・解決・変革の必要・可能性を明らかにしていく。		1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー 2 国際政治の構造的変容ー冷戦構造崩壊の意味ー 3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー（1） 4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー（2） 5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊の原因ー（1） 6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊の意味ー（2） 7 グローバル（世界）政治の形成と意義 8 グローバル政治と権力 9 グローバル政治と平和 10 グローバル政治と民主政 11 グローバル政治と世界経済体 12 グローバル政治と地球環境保全 13 グローバル政治と情報技術革命 14 グローバル政治におけるグローバル市民社会 15 グローバル政治の中の日本	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『グローバル政治の形成・展開・変容・変革』（テイハン）		試験、出欠状況による総合評価。ただし、レポート（書評）を提出した者は加点する。	

12 年度以前	国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b）	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性と必要性などの検討が要求されている。そうした国際政治の形成・維持・展開・変容・変革の過程が現状維持志向秩序勢力（コミュニタリアニズム中心的秩序勢力）と現状変革志向秩序勢力（コスモポリタニズム中心的秩序勢力）との弁証法的運動によって規定されている。それらの勢力を構成する政治権力、経済秩序勢力、安全保障秩序勢力、アイデンティティ勢力、環境保全勢力などから国際政治（世界政治）の弁証法的運動をみていく。		1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（1） 3 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（2） 4 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（3） 5 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（4） 6 世界政治における権力の弁証法ー（1） 7 世界政治における権力の弁証法ー（2） 8 世界政治における安全保障の弁証法ー（1） 9 世界政治における安全保障の弁証法ー（2） 10 世界政治における経済勢力の弁証法ー（1） 11 世界政治における経済勢力の弁証法ー（2） 12 世界政治におけるアイデンティティ政治の弁証法 13 世界政治における環境問題の弁証法 14 世界政治における環境ガバナンス 15 世界政治における脱（非）国家主体の役割	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界秩序の変動と弁証法』（テイハン）		試験、出欠状況、レポート（任意）による総合評価。	

12 年度以前	国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a）	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。		1 国際貿易概観 2 リカード的比較優位説 3 リカード的比較優位説 4 ヘクシャー・オリー定理 5 ヘクシャー・オリー定理 6 国際貿易の一般均衡 7 国際貿易の一般均衡 8 経済成長と貿易 9 国際資本移動と移民 10 国際資本移動と移民 11 関税・輸入数量制限 12 関税・輸入数量制限 13 輸入補助金と輸出自主規制 14 輸入補助金と輸出自主規制 15 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験 80%、出席 20%	

12 年度以前	国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b）	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的な内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。		1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際収支と財政・金融政策 12 国際資本移動と財政・金融政策 13 国際資本移動と財政・金融政策 14 質問とまとめ 15 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験 80%、出席 20%	

12 年度以前	国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a）	担当者	村井 良太
講義目的、講義概要		授業計画	
冷戦終結から早 20 年が過ぎました。21 世紀に入っても日本政治は内外に大きな課題を抱えています。本講義では、第二次世界大戦後の日本の政治と外交を、戦前からの伝統と革新の両面の中で位置づけ、現在を考える基盤とします。私達は歴史を「戦前」と「戦後」で分けて二項対立であるかのように理解することが多いかと思いますが、「戦前」には「戦前」の中の多様性があり、「戦後」には「戦後」の中の多様性があります。受講生には、歴史を学ぶだけでなく、確かな史実をもとに歴史を考え、他者に説明する能力を身につけて欲しいと思います。なお、テキストは外交史ですが、これに政治史、中でも政党政治史の内容を補って講義していきます。 春学期は、1853 年のペリー来航から 1945 年のポツダム宣言受諾に至る戦前・戦中の遺産を簡単に踏まえた上で、占領改革、サンフランシスコ講和と日米安保条約の締結、そして、国際連盟加盟という国際社会復帰の道筋と政治的枠組みの変化を辿ります。		1. はじめに—世界の中の日本 2. 開国維新と立憲国家の形成 3. 日清・日露戦争と帝国日本の成立 4. 第一次世界大戦と日本 5. 両大戦間期の日本 6. 第二次世界大戦と日本 7. 敗戦と占領（1） 8. 敗戦と占領（1） 9. 占領改革（1） 10. 占領改革（2） 11. 吉田政権と講和・安保（1） 12. 吉田政権と講和・安保（2） 13. 鳩山政権と 55 年体制の成立（1） 14. 鳩山政権と 55 年体制の成立（2） 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】五百旗頭眞編『戦後日本外交史〔第 3 版〕』有斐閣。【参考文献】講義の中で適宜紹介します。		講義中の小テストなど平常点（30 点）と定期試験（70 点）によって判断する。詳細は講義中に指示する。	

12 年度以前	国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b）	担当者	村井 良太
講義目的、講義概要		授業計画	
冷戦終結から早 20 年が過ぎました。21 世紀に入っても日本政治は内外に大きな課題を抱えています。本講義では、第二次世界大戦後の日本の政治と外交を、戦前からの伝統と革新の両面の中で位置づけ、現在を考える基盤とします。私達は歴史を「戦前」と「戦後」で分けて二項対立であるかのように理解することが多いかと思いますが、「戦前」には「戦前」の中の多様性があり、「戦後」には「戦後」の中の多様性があります。受講生には、歴史を学ぶだけでなく、確かな史実をもとに歴史を考え、他者に説明する能力を身につけて欲しいと思います。なお、テキストは外交史ですが、これに政治史、中でも政党政治史の内容を補って講義していきます。 秋学期は、岸内閣の下で初の外交青書が出され、日米安保条約が改定されてから、高度経済成長と沖縄返還を経て、ニクソン・ショックや日中国交回復、オイル・ショックと変化に揺れる 1970 年代の政治外交までをお話しします。		1. はじめに—冷戦と日本 2. 岸政権と日米安保改定（1）石橋から岸へ 3. 岸政権と日米安保改定（2）日本外交三原則 4. 岸政権と日米安保改定（3）日米安保改定 5. 池田政権と高度経済成長（1）池田の政治的人格 6. 池田政権と高度経済成長（2）所得倍增計画 7. 池田政権と高度経済成長（3）経済外交 8. 佐藤政権と沖縄返還（1）佐藤の政治的人格 9. 佐藤政権と沖縄返還（2）社会開発論 10. 佐藤政権と沖縄返還（3）沖縄返還 11. 危機の 70 年代（1）田中政権 12. 危機の 70 年代（2）三木政権 13. 危機の 70 年代（3）福田政権 14. 危機の 70 年代（4）大平政権 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】五百旗頭眞編『戦後日本外交史〔第 3 版〕』有斐閣。【参考文献】講義の中で適宜紹介します。		講義中の小テストなど平常点（30 点）と定期試験（70 点）によって判断する。詳細は講義中に指示する。	

12 年度以前	国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a）	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国が直面している経済的課題を取り上げます。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b）も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。		1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済の概要 3. タイ(1)：経済発展の軌跡と特徴 4. タイ(2)：産業集積と輸出主導型経済 5. シンガポール(1)：経済発展の軌跡と人材戦略 6. シンガポール(2)：産業高度化戦略 7. シンガポール(3)：多国籍企業のグローバル拠点 8. マレーシア：脱工業化への模索 9. インドネシア：世界最大のイスラム国家の挑戦 10. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策の意義と限界 11. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 12. ミャンマー：経済再建への胎動 13. ラオス：対外開放戦略への転換 14-15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。		出席 20%、学期末テスト 80%。出席が一定回数を下回った履修者は学期末試験を受けることができない（詳しくは第1回の講義で説明。講義支援システムにも掲載）。	

12 年度以前	国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b）	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は3つあります。第1は、1967年に発足したASEANがいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。 第2は、ASEANにおける経済発展の担い手である華僑・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。 第3は、わが国がASEANのさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a）も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。		1. 講義の目的、成績評価等 2. 経済発展の軌跡 3. ASEAN市場開拓に取り組む日本企業 4. 地域経済共同体としてのASEAN(1)：形成過程 5. 地域経済共同体としてのASEAN(2)：共同体の実現 6. 地域経済共同体としてのASEAN(3)：将来構想 7. ASEANが直面する経済課題 8. 大メコン圏開発とインフラ整備 9. ASEANの対域外自由貿易協定（FTA）戦略 10. わが国の自動車メーカーのアジア展開 11. 邦銀のアジア展開 12. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 13. わが国と東南アジアの経済関係(1)：ASEANの視点 14. わが国と東南アジアの経済関係(2)：日本の視点 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。		出席 20%、学期末テスト 80%。出席が一定回数を下回った履修者は学期末試験を受けることができない（詳しくは第1回の講義で説明。講義支援システムにも掲載）。	

12 年度以前	国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンス a）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の種類、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。		1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則① 8 国際環境法の生成と諸原則② 9 環境責任論の進展 10 国際環境保全規範と事前防止 11 事前防止の手続的規則① 12 事前防止の手続的規則② 13 国際環境保全とソフト・ロー 14 国際環境保全と国内公法・私法 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。参考文献として、松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

12 年度以前	国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンス b）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の種類ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。		1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏・気候変動問題① 4 地球大気圏・気候変動問題② 5 海洋環境の保全① 6 海洋環境の保全② 7 海洋環境の保全③ 8 南極の環境保護 9 廃棄物の越境移動 10 化学物質、原子力と環境 11 自然環境の保全 12 生物多様性の保全 13 環境と貿易 14 環境と武力紛争 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。参考文献として、西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2011 年『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

13 年度 12 年度以前	文化史入門 宗教・文化・歴史研究 I（文化史入門）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 <講義概要> 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。		1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 技術文化（その1）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？ 3 技術文化（その2）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 4 運送手段（その1）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫓船」の脅威 5 運送手段（その2）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 6 造形芸術：建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎 7 文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 8 宗教と祭祀：神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか？ 9 性愛の諸相（男と女）（その1）：同性愛 10 性愛の諸相（男と女）（その2）：異性愛 11 競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ 12 クリエンテラ・パトロネジ関係 13 民主政の中の人間関係（1） 14 民主政の中の人間関係（2） 15 まとめ（総括と展望）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、平常点を加味して総合的に評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	文明史研究Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょう。現在ではむしろニール・ファーガソンが指摘するように、文明間で争われるよりもむしろ紛争の多くは同じ民族間同士での争いの様相を呈しています。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。 <講義概要> 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、また自然災害や気候変動といった要素が、それぞれの文明にどのように影響を与えたのかを論じます。特に民主主義発祥の地、ギリシアの経済危機がヨーロッパ全体に影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後の民主主義の在り方についても考察します。また、図像資料やビデオ映像も使用し理解を深めます。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 クレタ文明 3、 ミケーネ文明 4、 トロイア戦争 5、 ギリシア文明 1 6、 ギリシア文明 2 7、 ペルシア文明 8、 ペルシア戦争 9、 ペロポネソス戦争 10、 マケドニアとアレクサンドロス 11、 ヘレニズム文明 12、 ローマの対内外戦争 13、 ローマ文明 1 14、 ローマ文明 2 15、 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末のレポート及び中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。	

13 年度 12 年度以前	文明史研究Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 現代社会はヨーロッパにおける EU の統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿りつつ、文明の崩壊を学ぶことによって今後私たちが歩もうとしている方向性を見直すヒントを考察したいと思います。 <講義概要> 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。特にアジアやアフリカ、そしてまた新大陸といわれた北米や南米等の視点からもヨーロッパがどのような存在であったかを検討し、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。また図像資料やビデオ映像を使用し理解を深めます。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 ヨーロッパとは何か 3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、 アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 5、 ローマ帝国の意味 6、 中世フランク王国 7、 イタリア・ルネサンス 8、 大航海時代 9、 植民地を求めて 10、 植民地の争奪 11、 第一次世界大戦 12、 大戦後のヨーロッパ 13、 ヨーロッパ統合の思想 14、 講義のまとめ（1） 15、 講義のまとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末レポートと中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。	

13 年度 12 年度以前	倫理学Ⅰ 宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。もちろん古代～近代の哲学者たちの考察は参考にされる。 現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディアで飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉の問題として受けとめ、考察していきたい。 授業は教科書を中心にして進められる。教科書にまとめられている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。		1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトンの記憶論「記憶は足跡か、絵画か？」 3. アリストテレスの記憶論 4. ベルクソンの記憶論「イマージュ - 思い出」 5. サルトルの記憶論「幻覚」 6. フッサールの記憶論「想像と記憶を区別する？」 7. 個人的記憶と集合的記憶 8. 〈心性史〉の歴史記述 〈長期持続〉の文化史 9. 〈表象史〉の歴史記述 「交渉」の歴史学 10. 王の肖像 —— イマージュの魅惑 11. 裁判官と歴史家 —— 公正な第三者とは？ 12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（1） 13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（2） 14. 「困難な赦し」 15. まとめ	
テキスト（各自入手しておくこと）		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リコールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）		学期末試験による。 ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。	

13 年度 12 年度以前	倫理学Ⅱ 宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学 b）	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ということのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で広く見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。		1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトン（1）「ソクラテスの死から」 3. プラトン（2）「イデアという理想」 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」 5. エピクロス派、ストア派 6. デカルト（1）「私は思考する、ゆえに私は在る」 7. デカルト（2）永遠真理創造説 8. デカルト（3）四つの暫定的道徳 9. パスカル「きみはどちらに賭ける？」 10. ルソー（1）「人づきあいが人間を不幸にする」 11. ルソー（2）「理想的な教育とは」 12. ニーチェ（1）「きみは永遠回帰に耐えられるか」 13. ニーチェ（2）「音楽と悲劇」 14. ニーチェ（3）「ニヒリズムに面して」 15. まとめ	
テキスト（各自入手しておくこと）		評価方法	
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』（白水社・文庫クセジュ）		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。	

12 年度以前	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ（地中海世界の宗教と文化 a）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講義は、地中海世界の歴史に大きな役割を果たした古代ギリシアの、「歴史と神話」に焦点を絞り、両者が密接な関係をもって考えられていたことを具体的な神話をもとに考察することを目的にしています。その際に、「神話」を単にお話ととらえるのではなく、古代の人々が宗教生活の一環として「祭祀」あるいは「祭典」の形で、どのようにそれを理解し、伝えていたかを史料に即してたどることによってこの地域・時代の宗教と文化の歴史的意義を考えるという手法を採りたいと思います。 <講義概要> 授業は概説的に進めて行きますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などでもできるだけ使って理解を深めるのに役立たせたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうということを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見が出ることを期待しています。その意味でも自由な発言が出るようなアット・ホームな雰囲気の中で講義を進めていくつもりです。		1 はじめに：神話と歴史はどのように関連していたか？ 2 テーベ伝説圏の神話（その1） ディオニュソス信仰とペンテウスの悲劇 3 テーベ伝説圏の神話（その2）ディオニュシア祭 4 テーベ伝説圏の神話（その3） オイディプスの悲劇と「知ること」の意味 5 テーベ伝説圏の神話（その4）ライオス家の悲劇とその後日談 6 テーベ伝説圏の神話（その4） ヘラクレスの誕生と狂気 7 テーベ伝説圏の神話（その5）伝説と考古遺跡 8 アテナイ伝説圏の神話（その1）アテナイの建国神話 9 アテナイ伝説圏の神話（その2）パンアテナイア祭 10 アテナイ伝説圏の神話（その3）テセウス冒険物語 11 アテナイ伝説圏の神話（その4） テセウスとアテナイ民主政 12 アテナイの歴史的発展（その1） 13 アテナイの歴史的発展（その2） 14 神話から歴史へ ギリシア人は「過去」をどのように認識していたか 15 まとめ：神話と現代	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、随時プリントを配布します。なお、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと1～2回の小報告に、平常点を加味して総合的に評価します。	

12 年度以前	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化 b）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1 はじめに：宗教と祭祀 2 アルゴス伝説圏の神話（その1） ミケーネ世界と呪われたアトレウス家 3 アルゴス伝説圏の神話（その2） トロイア戦争：叙事詩の環 4 アルゴス伝説圏の神話（その3） トロイア戦争：『イリアス』の世界 5 アルゴス伝説圏の神話（その4） トロイア戦争：『オデュッセイア』の世界 6 アルゴス伝説圏の神話（その5） アトレウス家の末路 7 トロイア戦争後日談：ローマ建国神話とアイネイアス 8 イオルコス伝説圏の神話（その1） イアソンとアルゴ船遠征物語 9 イオルコス伝説圏の神話（その2）メデアの復讐 10 テレボス神話（その1）アウゲの数奇な運命 11 テレボス神話（その2）テレボスの負傷 12 神話に見られる女性群像（その1）カナケの悲恋 13 神話に見られる女性群像（その2）メラニッペ悲慘 14 神話に見られる女性群像（その3）メロペの悲劇 15 まとめ：神話と現代	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

13 年度 12 年度以前	比較宗教史 宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史）	担当者	川口茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
〈民衆史〉的な観点から、日本の宗教史・文化史をあらためて見直していく。 聖書や仏典などの「正典」に記された〈正統教義〉と、ふつうの人々が内面・信念・感情としてもっている〈世界観〉〈死生観〉とは、つねにぴったり一致するものだろうか？ もちろん、そうではないだろう。いつの時代にもそこにはずれがあったし、今後もあり続けるだろう。 この授業では、〈供養〉や〈憑依〉をめぐる日本の宗教文化史を、複数の宗教的系譜の比較、他の文化圏との比較をおこないつつ、あらためて分析してゆきたい。宗教的事象とはこれこれのものである、といった先入観を問い直していく作業、というふうにとらえていただいてもよい。 授業は教科書を中心に進められていく。毎回希望者に教科書の内容を要約した短い発表をしてもらう予定。		1. イントロダクション（発表担当者の日程調整を含む） 2. 前置き —— 日本仏教史についての既存イメージ 3. 苦しむ死者と、日本人の他界観 4. 〈崇り・祀り／穢れ・祓い〉というシステム 5. 「浮かばれない死者」の救済 6. 供養システムの深化 7. イスラム圏・キリスト教圏の死者供養との比較 8. 「憑依」再考 9. 「憑依」解釈の可能性 10. 憑依から供養へ 11. 崇り・憑依と現代社会 12. 『もののけ姫』を分析する（1） 13. 『もののけ姫』を分析する（2） 14. いわゆる「靖国問題」をめぐって 15. まとめ	
テキスト		評価方法	
池上良正『死者の救済史 供養と憑依の宗教学』（角川選書）		期末試験による。 ただし、各授業回の発表担当者には試験の点数に 15～30 点を加算する予定。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ（日本思想史 1）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかみ、古代から近世に至る日本思想史の概略的な流れを理解することを第一の目的とします。そして現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察することを第二の目的とします。それを通じて「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考えることができるようになることを目指します。 【概要】 かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成も数回あるので、意欲的に参加して下さい。古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいて下さい。 なお、日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。受講にあたってはサポートの必要が出てくるので、初回の授業で必ず申し出て下さい。		1 回 講義の進め方の説明 2 回 古代から近世までの思想史の概略 3 回 『古事記』の思想 4～5 回 仏教の思想 6 回 日本の近世思想の概略／江戸という時代 7～8 回 儒学の思想 9 回 朱子学と日本 10 回 貝原益軒の思想 11 回 荻生徂徠の思想 12 回 水戸学の思想 13 回 武士道について 14 回 幕末維新期の思想／民衆の思想 15 回 日本文化の特質について	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらい、出席を管理する。その出席と中間レポート提出を 6 割以上クリアすれば、最高で B 評価だが、さらに最終レポートを提出すれば、最高 AA 評価とする。	

12 年度以前	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ（日本思想史 2）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 近代（明治時代～敗戦・解放）の日本の思想の歴史について、その概略を理解することを第一の目的とします。また、自分の興味関心のある思想史の事象を探求する手段と方法を得ることを第二の目的とします。それを通じて、現代の私たちの立ち位置が確認できるようになることを目指します。 【概要】 本講義のテーマは、「近代日本の中国認識」です。中国認識を軸とした日本近代思想の概略を扱います。テキストと資料に基づいて思想家等が実際に書いたものを読んで、その今日的な意味を考えることを中心におきます。そのため、古文に近い日本語を読む力量が求められます。 なお、日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。受講にあたってはサポートの必要が出てくるので、初回の授業で必ず申し出て下さい。		1 回 講義の進め方の説明 2 回 近世日本の中国認識（1） 3 回 近世日本の中国認識（2） 4 回 近代日本の思想配置（戦前） 5 回 明治前半期の中国認識 6 回 福沢諭吉「脱亜論」を読む 7 回 中江兆民と中国 8 回 日清戦争と中国認識 9 回 辛亥革命と宮崎滔天 10 回 大正デモクラシーと中国（1） 11 回 大正デモクラシーと中国（2） 12 回 「東亜共同体」論 13 回 蔑視の思想 14 回 戦後の中国認識 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本三之介『近代日本の中国認識』（以文社）および講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらい、出席を管理する。その出席と中間レポート提出を 6 割以上クリアすれば、最高で B 評価だが、さらに最終レポートを提出すれば、最高 AA 評価とする。	

12 年度以前	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ（アラブ文化・芸術 a）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そしてSF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。 この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。		1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. 「イスラム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭 5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性 6. アラブ音楽入門Ⅰ 7. アラブ音楽入門Ⅱ 8. パレスチナ問題と芸術 1) 演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 9. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 10. パレスチナ問題と芸術 2) 記録映画 11. パレスチナ問題と芸術 3) 小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッション 12. パレスチナ問題と芸術 4) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 13. パレスチナ問題と芸術 5) 映画 14. イスラーム報道・アラブ報道を考える 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

12 年度以前	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ（アラブ文化・芸術 b）	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そしてSF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。 この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。		1. 後期イントロダクションーアラブの日常 2. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 3. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 4. 「アラブ革命の春」を考える 5. アラブ文化は詩の文化（1）：詩人変人今昔 6. アラブ文化は詩の文化（2）：中世ヒップホップ 7. アラブ文化は詩の文化（3）：現代のアイドル 8. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 9. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 10. アラブの芸能界 1) 歌謡曲 11. ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの世界 12. 小説「バイナルカスライン」レポート提出 13. 続き（ディスカッション） 14. ヨルダン映画 「キャプテン・アブーラーイド」 15. 映画鑑賞ディスカッション・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化―一神教と多神教）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 <講義概要> 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問や意見が出るのが期待されています。その意味でも自由な発言ができるようなアット・ホームな雰囲気の中で講義を進めていくつもりです。		1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 メソポタミアの宗教と文化 死すべき人間と不死なる神々 3 エジプトの宗教と文化（その１） 来世信仰とピラミッド 4 エジプトの宗教と文化（その２） 一神教革命とツタンカーメンの死 5 パレスチナ地域の宗教と文化（その１）カナンの宗教 6 パレスチナ地域の宗教と文化（その２）ユダヤ教 7 ギリシアの宗教と文化（その１） オリンポスの神々と合理主義 8 ギリシアの宗教と文化（その２） 密儀宗教（エレウシスの秘儀、オルペウス信仰） 9 ヘレニズムの宗教と文化（その１） コスモポリタニズムと内向きの心性 10 ヘレニズムの宗教と文化（その２）諸神の習合 11 ローマ帝国の宗教と文化（その１） キリスト教の成立とその意義 12 ローマ帝国の宗教と文化（その２）グノーシス主義 13 ローマ帝国の宗教と文化（その３）キリスト教確立 14 多神教から一神教への道筋 15 まとめ：宗教と道徳	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、随時プリントを配布します。また、参考文献を初回の授業時に、「参考文献一覧表」として配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、平常点を加味して総合的に評価します。	

13 年度 12 年度以前	日本語教育概論 日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法Ⅰの内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 日本語教育の歴史と現状を知る。 3. さまざまな外国語教授法を概観する。 4. 日本語を外国語として客観的に捉える。 5. 外国語としての日本語の指導法を考える。 6. 教師の役割を考える。		1. 講義の概要説明、日本語教育の一例の紹介 2. 日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3. 日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4. 外国語教授法の歴史 5. 外国語教授法の紹介(1) 6. 外国語教授法の紹介(2) 7. 異文化接触と日本語教育 8. 言語教育と学習観 9. コースデザインとシラバス 10. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 11. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 12. 教室活動の活動例 13. 教師の役割 14. 評価 15. 講義のまとめ *進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
＜参考文献＞ 佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007 中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版		期末定期試験に出席率を加味して評価します。	

13 年度 12 年度以前	日本語コミュニケーション論 日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	宇津木 言行
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、外国人の日本語学習者に日本語を教える日本語教師にとって必要なコミュニケーションスキルを理解し、修得したい学生の要望に応じることを目的として授業します。 常に異文化コミュニケーションの中にある日本語教師が、日本語教育の現場でどのように対応してゆけばよいのかを考え、異文化理解と様々なコミュニケーションスキルを紹介し、それを身につけるためのエクササイズを行います。		1. 異文化摩擦 2. 異文化理解とは（1） 3. 異文化理解とは（2） 4. コミュニケーション・スタイルを決めるもの（1） 5. コミュニケーション・スタイルを決めるもの（2） 6. 自分をふりかえる（1） 7. 自分をふりかえる（2） 8. 言語コミュニケーションの違い（1） 9. 言語コミュニケーションの違い（2） 10. 非言語コミュニケーションの違い（1） 11. 非言語コミュニケーションの違い（2） 12. 異文化コミュニケーションスキル（1） 13. 異文化コミュニケーションスキル（2） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』（三修社）。		評価方法：期末試験の結果（80％）と、出席および随時行う課題（20％）によって評価する。	

12 年度以前	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法 1 a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人とかわかり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し、言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る）。 言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことであり、そのために教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ教案・教材を作成する、極めて実践的な授業である。 課題の発表についてはグループワーク、ペアワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたる広範囲な内容になる。		1. オリエンテーション 外国語としての日本語教育 2. 教授法の理論・学習理論 3. L1 と L2 習得の違いについて 4. 基本的な教室活動について 5. コースデザインの概要 6. 教材・教具の紹介 7. 聴解の指導 8. 発音の指導 9. 文字の指導 上記の授業内容の配分はその時点での進捗状況に合わせる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献 ①プリント ②授業中に紹介 テキストは特に指定しないが、日本語教授法関連の本を一冊授業内容に合わせて読むことが望まれる。		①課題提出 ②前期テスト ③出席率	

12 年度以前	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法 1 b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に同じ		1. 語彙・意味の指導 2. 読解指導 3. 文法と文型の指導 4. 会話の指導 5. 作文の指導 6. 教室活動の流れと構成 7. 教案の書き方 ― 導入からまとめまで 8. テストと評価 9. 教案発表 上記の授業内容の配分はその時点での進捗状況に合わせる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期に同じ		①課題提出（教案の作成） ②後期テスト ③出席率	

12 年度以前	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。 そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。		1. (4/10) 言語音を作るしくみ 2. (4/17) 母音 3. (4/24) 子音(1) 4. (5/1) 調整日 5. (5/8) 子音(2) 6. (5/15) 子音(3) 、母音の無声化 7. (5/22) 特殊音素(1) 8. (5/29) 特殊音素(2) 9. (6/5) 拍とリズム 10. (6/12) アクセント(1) 11. (6/19) アクセント(2) 12. (6/26) イントネーション(1) 13. (7/3) イントネーション(2) 14. (7/10) 最終試験 15. (7/17) まとめ 定期試験に代わるものとして、「最終試験」を7月10日の授業時間内に行う。定期試験期間中は、試験を行わない。単位が必要な者は、7/10 の試験を必ず受験すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
国際交流基金（2009）『国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房。 そのほか、必要に応じて適宜プリントを配布する。		「最終試験」の成績による（上記参照のこと）。出席は取らない。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	日本語文法論Ⅰ 日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論）	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本語文法のさまざまな事実を体系的に取り上げ、それらに対して興味をもつだけでなく、枠組みや基本概念が十分に理解でき、自分なりの分析もできるようにする。		1 文法とは 2 文の基本構造 1 3 文の基本構造 2 4 文法のカテゴリー 1 5 文法のカテゴリー 2 6 文の成分 1 7 文の成分 2 8 形態論の概観 9 品詞 1 10 品詞 2 11 活用 1 12 活用 2 13 語形成 1 14 語形成 2 15 形態論のまとめ	
講義概要 理解できた基本概念が、日本語教育で役立つことを視野に入れる。日本語学習者の学習項目について、自分なりの文法分析が行えること、された質問に答えることができるようにすることを常に見据えて講義をすすめる。 講義は授業計画のあらましのとおりであるが、必要だと思われるものに変更することもあり得る。変更がなくても、より詳細なシラバスは最初の講義時に配布し、その他の必要事項についても説明する。したがって、必ず第一回目に出席のこと。			
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配布する。 参考文献については随時案内する。		出席・授業参加度 15% 授業時の小課題・小テスト 30% 期末試験 55%	

13 年度 12 年度以前	日本語文法論Ⅱ 日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論）	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期と同じ。		1 統語論とは 2 文の構成 3 動詞と名詞と格助詞 1 4 動詞と名詞と格助詞 2 5 名詞文と形容詞文 6 述語・用言 1 7 述語・用言 2 8 テンスとアスペクト 1 9 テンスとアスペクト 2 10 修飾 1 11 修飾 2 12 重文と複文 1 13 重文と複文 2 14 自動詞文と他動詞文 15 統語論のまとめ	
講義概要 春学期と同じ。秋学期は日本語における統語論について講義する。ただし、形態論と統語論は一本の綱のようであるから、できるだけ春学期から順に履修することが望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配布する。 参考文献については随時案内する。		出席・授業参加度 15% 授業時の小課題・小テスト 30% 期末試験 55%	

12 年度以前	日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語の語彙論および語彙レベルでの意味論の概要を理解するとともに、日本語教育への応用をかんがえることを目的とする。 やや具体的には、概念としては、「語彙」とはなにか、日本語の「語彙の特性」はなにか、あわせて「語種」および「位相」とはなにかが理解され、観点・分析法としては「意味」の分析法、「語彙」の側面からの文法や談話の把握、他言語との対照方法などが獲得されることが、授業の内容である。 〔講義概要〕 授業は、ほぼテキストの目次にそって進展する。履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので、よく準備をされたい。あわせて適宜、教員から議論の材料となる語彙・意味に関するデータが提供されるので、授業内で、グループなどによる討論もおこなわれうる。		1. 意味論語用論概説 2. 語彙研究 3. 語彙の量的性格 4. 意味の体系(1) 5. 意味の体系(2) 6. 語種 7. 語構成 8. 位相 9. 語義の構造(1) 10. 語義の構造(2) 11. 語彙と文法 12. 語彙と文章 13. 語彙の対照 14. 語彙史, 研究史 15. 意味論語彙論のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
斉藤倫明著『朝倉日本語講座4語彙・意味』朝倉書店(2002年)		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。また、前提として出席をきびしく要求する。	

12 年度以前	日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、前世紀の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで、談話とはなにか、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 授業は、ほぼテキストの目次にそって進展する。履修者は毎回の該当箇所を予習し、わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので、よく準備をされたい。あわせて適宜、教員から議論の材料となる談話に関するデータまたはテキスト内のものもふくめた課題が提供されるので、授業内で、グループなどによる討論もおこなわれうる。		1. ガイダンスと談話論概説 2. 日本語の談話 3. 指示 4. 接続 5. 応答表現 6. 語順 7. 文法 8. 文体 9. 日本語の待遇 10. 敬語 11. 丁寧 12. 回避 13. 運用 14. 日本語教育と談話・待遇 15. 談話論のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本語記述文法研究会著『現代日本語文法7 談話待遇表現』くろしお出版(2009年)		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。また、前提として出席をきびしく要求する。	

12 年度以前	日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析 a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語と他言語との共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。 <u>具体的なクラス運営</u> ① クラスの形態は講義と演習 ② 資料としては、日本語学習者（主として英語母語話者）による作文および日英の対訳を使用する。 ③ 基本的には日本語と英語の対照が中心になるが、対照研究に関する知見を得ることが主たる目的となるので、他言語との対照比較も認められる。		<u>講義形式</u> 1. 講義の概要 – 類型から見た日本語 2. 対照研究の歴史 3. 誤用分析と中間言語 4. 対照研究の役割と意義 5. 語順 6. こそあど 7. 形容詞 8. 動詞 9. アスペクト・テンスなど、 <u>演習形式</u> 5. 作文の正用・誤用から、初級・中級レベルの学習者の中間言語の特徴をさぐる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
①プリント ②『対照研究と日本語教育』国立国語研究所（2002）を使用する。		①テスト ②課題発表 ③出席率 ④クラス参加	

12 年度以前	日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析 b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的には前期の続き。但し、中心は対照言語学、転移・習得に関する論文を読むことになる。後半では、参加者が1項目を選び、両言語間の相違を調べ、母語の干渉について検討する。基本的には日本語と英語の対照が中心になるが、他言語でもよい。 目標は2言語を対照・比較した上で、実際どようが誤用がうまれているのか、その原因をいろいろな側面（中心は言語的な要因）から考える力を養うことにある。		前期に続く	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト クラスで発表。		①レポート ②出席率 ③クラスへの貢献度	

12 年度以前	日本語教育特殊研究 V（日本語教授法 2）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習授業である。 〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業をおこなう。自分の授業は必ず録画し、それをもとにした事後報告の提出を義務とする。また日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察し、授業観察記論をつける。 授業は、各回の前半が模擬授業、後半がそれについての討議と議論によって構成される。 模擬授業に使用するテキストは、『Teach Yourself Complete Japanese』(Teach Yourself Books)を標準とする予定であるが、授業開始時にあらためて決定する。		第1回 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法 第2回～第14回 担当者による模擬授業 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①模擬授業、②教案と事後報告書、③授業観察のまとめのレポート、④出席の4項目(各25%)によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	日本語教育特殊研究 V（日本語教授法 2）	担当者	岩沢 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行うための準備教育であり、演習中心の授業である。 毎回、学生が模擬授業を行う。模擬授業の担当者は1週間前に教案を教員に提出し、授業の準備を行う。担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その際授業の進め方も客観的に観察する。授業後、全員で担当者の行った教室活動や指導法について具体的に講評しあい、授業の改善を目指す。 担当回数と模擬授業時間は人数によって決めるが、少なくとも2回は行う。		1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③初級の学習項目(確認) ④教案の書き方(確認) ⑤授業観察の方法 ⑥評価方法説明 2回目以降 担当者による模擬授業と各授業について全員での講評 1 回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『みんなの日本語 初級 I・II』（スリーエーネットワーク） 参考文献:『みんなの日本語 初級 I・II 教え方の手引き』		①模擬授業の準備と実践 ②教案の提出 ③レポート(授業観察のまとめと自己分析) ④授業への参加度	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	日本語教育特殊研究 V（日本語教授法 2）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を 1 週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その場合、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を具体的に検討・評価する。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を観察し、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。登録者数にもよるが、各自、少なくとも 2 回程度の模擬授業を行うことになる。 **注意： 1 回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。初回出席できないものはその旨を前もって知らせること。		1 回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 — 復習 ④動詞の活用と分類 — 復習 ⑤ドリル作成 — 復習 ⑥授業観察シートの書き方 2 回目より 担当者による模擬授業 授業担当者は 1 回につき 2 名。 30 分の模擬授業と 15 分の質疑応答 指導内容：初級文型の導入と指導 中級読解の指導、など 模擬担当回数：履修者の数にもよるが、2 回。 1 回目はペアで、2 回目は一人で行う	
テキスト、参考文献		評価方法	
初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク		①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート （「授業観察シートのまとめと自己分析」を実習より 1 週間後以内に提出）④出席	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	日本語教育特殊研究VI（日本語教育教材論）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。 授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。 受講生には、初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。 受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。		1 オリエンテーションと教材開発の概観 2 言語コミュニケーションと日本語教育 3 初級教材の作成：教科書の分析 4 初級教材の作成：会話教材作成 5 初級教材の作成：漢字教材作成 6 初級教材の作成：日本事情教材の作成 7 初級教材作成過程と授業案の発表 8 初級授業における教材の可能性 9 中上級教材の作成：教科書の分析 10 中上級教材の作成：会話教材の作成 11 中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12 中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13 中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14 中上級教材作成過程と授業案の発表 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない 参考文献： 野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語文法』くろしお出版 関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク		クラスでの課題（30%）、クラス参加（30%）、最終課題（40%）の割合で評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学における日本語教員養成課程では、4 年次における教育実習を必須としている。教授法Ⅱを修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2 週間（48 時間相当）にわたって行う。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。		各教育機関による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教育機関によって指定されるもの		基本的には実習校からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。	

12 年度以前	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学における日本語教員養成課程では、4 年次における教育実習を必須としている。教授法Ⅱを修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2 週間（48 時間相当）にわたって行う。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。		各教育機関による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教育機関によって指定されるもの		基本的には実習校からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。	

13 年度 12 年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ (教育の原理)	担当者	高瀬 幸恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。 【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。		第1回： 講義の進め方の説明 第2回： これまでの教育体験に基づき教育について考える 第3回： 教育と人間形成（1）社会とのかかわりから 第4回： 教育と人間形成（2）個人の発達から 第5回： 教育の場について考える（社会、家庭、学校） 第6回： 学校教育の歴史（1）学校の誕生 第7回： 学校教育の歴史（2）義務教育の思想 第8回： 学校教育の歴史（3）産業社会と近代的学校 第9回： 前半期の学習のまとめと試験 第10回： 日本における近代学校の歴史 第11回： 戦後教育改革 第12回： 戦後教育理念の変遷と現代の教育 第13回： 現代の教育改革の動向 第14回： 学生による調査報告 第15回： 後半期の学習のまとめと試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は授業内で配布、もしくは講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には学生による調査報告の点数等も加味します。出席は 6 割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

13 年度 12 年度以前	教育学概論Ⅱ(教育の原理) 教育科学研究Ⅰ (教育の原理)	担当者	高瀬 幸恵
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	教育学概論Ⅱ（教育の原理） 教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。 【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。		第1回：講義の進め方の説明 第2回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第3回：習熟度別学級編成の問題 第4回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第5回：系統学習と問題解決学習 第6回：発達の最近接領域説 第7～9回：戦後の教育の思想と歴史 第10回：子どもの権利条約の概要と精神 第11回：子どもに固有する権利と人権 第12回：教育基本法の概要と教育の基本的視座 第13回：「能力に応じた」教育を考える 第14回：教育における競争と自由の問題を考える 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300 円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は6割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

13 年度 12 年度以前	教育学概論 I (教職論) 教育科学研究Ⅳ (教職論)	担当者	高瀬 幸恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。 【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。こうした問題への教師の取り組みを考えることを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。 【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。討論がどうしても嫌だという人はこの講義には向きません。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。		第1回： 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由／教職の意義と役割 第2回： 学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回： 学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回： 学級崩壊を考える（グループ討論のプレゼンテーション）／宿題：少年法改正について 第5回： 発達障害を考える（実態把握）／宿題：発達障害から学ぶこと 第6回： 体罰を考える（グループ討論） 第7回： 体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回： 体罰を考える（裁判例と実態把握） 第9回： いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回： いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回： 教員の職務内容（研修、服務、身分保障）と職業選択の問題について 第13回： 教育委員会と教員 第14回： 教師の専門職性を考える 第15回： まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は授業内で配布、もしくは講義支援システムを利用して配布します。		期末レポートと、数回の小レポートを総合評価します。出席は、6 割以上を必須とし、毎回授業で学んだことを記述してもらいます。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	教育学概論 I (教職論) 教育科学研究Ⅳ (教職論)	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：期待される教師像と目指す教師像 第 3 回：教員の資質・能力 第 4 回：教員養成と教員免許 第 5 回：教員の任用と教育委員会 第 6 回：教員の身分と服務 第 7 回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第 8 回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第 9 回：教員の研修 第 10 回：教員の人事評価 第 11 回：教職の現代的課題(1) 少年非行問題 第 12 回：教職の現代的課題(2) いじめ問題 第 13 回：教職の現代的課題(3) 不登校問題 第 14 回：教職の現代的課題(4) 教職員事故 第 15 回：様々な進路選択の問題を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料 講義内容に応じて適宜紹介		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

13 年度 12 年度以前	教育学概論 I (教職論) 教育科学研究Ⅳ (教職論)	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、教育分野にまつわる心理学の知見に幅広く触れつつ、教育現場で重要と思われる「人を理解すること」について心理学的に深めることを目的とする。具体的には、学習心理学、人格の理解、人格の発達、子どもの発達課題、子どものこころを心理学的に理解すること等について、現場と理論のつながりを考慮しながら講義していきます。		1. 教育心理学について 2. 動機づけ理論 3. 人格の理解（1） 4. 人格の理解（2） 5. 記憶・認知の心理学 6. 学習心理学 7. ライフサイクルと発達心理学 8. 臨床心理学・深層心理について 9. 乳幼児期の重要性（1） 10. 乳幼児期の重要性（2） 11. 発達上の課題 学童期前半 12. 発達上の課題 学童期後半 13. 発達上の課題 思春期 14. 発達上の課題 青年期以降 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業にて提示する		出席状況とテスト結果を合わせて評価します。	

13 年度 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ			
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに必要とされる心理学の基礎的知識について、本講義を通して理解を深めてほしい。 教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち、１．教育心理学とはなにか、２．教育評価と学力問題、３．学習の過程と学習への動機付け、４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。		授業計画 第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達と学習 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：AD/HD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。		授業後の小レポートおよび学期末の試験により総合的に評価をおこなう。	

13 年度 12 年度以前	教育心理学 教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに必要とされる心理学の基礎的知識について、本講義を通して理解を深めてほしい。 教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち、１．教育心理学とはなにか、２．教育評価と学力問題、３．学習の過程と学習への動機付け、４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。		授業計画 第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達と学習 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：AD/HD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。		授業後の小レポートおよび学期末の試験により総合的に評価をおこなう。	

13 年度 12 年度以前	心理学概論 I（こころの世界） 教育科学研究 VI（こころの世界）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学研究各論 I（比較教育制度論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：教育の制度化 第 3 回：学校教育制度の概要 第 4 回：学校教育制度の変遷 第 5 回：公教育と私教育 第 6 回：教育行財政 第 7 回：教育委員会制度 第 8 回：教育課程と学習指導要領 第 9 回：諸外国の教育制度 第 10 回：家庭教育の現状と課題 第 11 回：社会教育の現状と課題 第 12 回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第 13 回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第 14 回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第 15 回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料 参考書・参考資料等は講義内容に応じて適宜紹介		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新しい動向を検討することを目的としている。 ●講義概要 2, 3 は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。 4, 5 は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。 7, 8 では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。 9, 10 では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。 11, 12, 13 では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解と定着を図りたい。		1. ガイダンス（講義の目的、進め方についての説明など） 2. 教育行政を動かす組織—教育委員会制度 3. 教育委員会制度（中野区・韓国など） 4. 学校運営の仕組み 5. 学校運営の新しい動向（韓国の学校運営委員会） 6. まとめと討論 7. 条件整備行政の仕組み 8. 条件整備行政の新しい動向（少人数学級） 9. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み 10. 教員政策の新しい動向（社会人の登用） 11. 教員政策の新しい動向（教員評価） 12. 教育課程行政と教科書の仕組み 13. 教育課程行政と教科書の新しい動向（犬山市） 14. まとめと討論 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：勝野正章・藤本典裕編（2008）『教育行政学（改訂版）』学文社 参考文献・六法などは授業中に適宜指示する		①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、④最終テストなどで評価する。 評価方法などは第一回目に指示するので必ず出席のこと。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
春と同様。			
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		第1回：教育課程と学力問題 第2回：教育課程とは何か 第3回：日本の教育課程(1)教育課程編成のプロセス 第4回：日本の教育課程(2)学習指導要領と教育課程 第5回：教育課程編成の理論と方法(1)経験カリキュラム 第6回：教育課程編成の理論と方法(2)教科カリキュラム 第7回：教育課程編成の理論と方法(3)教育課程構成法 第8回：学習指導要領と教育課程(1)昭和20年代 第9回：学習指導要領と教育課程(2)昭和30-40年代 第10回：学習指導要領と教育課程(3)昭和50-60年代 第11回：学習指導要領と教育課程(4)平成1-10年代 第12回：新学習指導要領の検討(1)改訂の経緯と概要 第13回：新学習指導要領の検討(2)実践課題 第14回：教育課程と評価 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中・高等学校学習指導要領解説・総則編』と講義毎に配布する資料 参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%)により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程(1) 4 日本の教育課程(2) 5 教育課程編成の理論と方法(1) 6 教育課程編成の理論と方法(2) 7 教育課程編成の理論と方法(3) 8 学習指導要領と教育課程(1) 9 学習指導要領と教育課程(2) 10 学習指導要領と教育課程(3) 11 学習指導要領と教育課程(4) 12 新学習指導要領の検討 (1) 13 新学習指導要領の検討 (2) 14 教育課程と評価 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7 割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅲ（カウンセリング論）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。 まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。 さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。 言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。		1. 講義の概要 2. カウンセリングとは何か 3. カウンセラーの役割と資格 4. カウンセラーの世界（相談機関） 5. カウンセリングと心理療法 6. クライアント中心カウンセリング（1） 7. クライアント中心カウンセリング（2） 8. 精神分析的カウンセリング 9. 認知行動カウンセリング 10. 傾聴の理論 11. 傾聴の実習 12. ロールプレイの実習 13. 心理テストの実施 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅳ（パーソナリティ理論）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
人の行動の特徴を表す言葉として、心理学ではパーソナリティという言葉が使われている。われわれが人を理解するとき、このパーソナリティという用語は非常に重要な概念の一つである。 本講義では、パーソナリティの定義、理論、形成、発達について学習し、またパーソナリティと関連の深い葛藤、フラストレーション、防衛機制などの諸問題について考察する。 さらに、パーソナリティ・テストの方法について理解し、テストを実施することで、自己理解を深めていく。 言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。		1. 講義の概要 2. パーソナリティとは何か 3. パーソナリティの類型論 4. パーソナリティの特性論 5. パーソナリティ形成の諸理論 6. パーソナリティの発達 7. 青年期のパーソナリティ 8. 成人期・老年期のパーソナリティ 9. 文化とパーソナリティ 10. フラストレーションと葛藤 11. 防衛機制 12. パーソナリティ・テストの種類と方法 13. パーソナリティ・テストの実施 14. 講義のまとめ（1） 15. 講義のまとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。 さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストの役割について概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。 また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。		第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。 さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストの役割について概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。 また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。		第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこでの教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。		第1回：オリエンテーション 第2回：学校カウンセリングとは 第3回：学校という場の特徴 第4回：学校における教育相談 第5回：教職員相互の連携について 第6回：カウンセリングとガイダンスの方法 第7回：カウンセリングの基礎と応用（1） 日常会話とカウンセリングでの会話 第8回：カウンセリングの基礎と応用（2） 応答の技法 第9回：カウンセリングの基礎と応用（3） 質問の技法 第10回：不登校の事例検討（1）小学生の事例 第11回：不登校の事例検討（2）中学生の事例 第12回：いじめの事例検討（1）孤立したケース 第13回：いじめの事例検討（2）グループ内で起きたケース 第14回：その他の学校不適応問題 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。		期末レポートおよび授業中に与える小課題や出席などから評価する。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
認知科学は、人間の「知」のしくみやたらしきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。 授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。		授業計画は以下の通り 1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 視知覚の特性①（概説） 4. 視知覚の特性②（実験・調査） 5. 視知覚の特性③（レポート発表） 6. 音の知覚 7. 学習と記憶①（学習の原理） 8. 学習と記憶②（実験と調査） 9. 学習と記憶③（レポート発表） 10. 記憶のしくみ①（記憶の過程） 11. 記憶のしくみ②（実験と調査） 12. 記憶のしくみ③（レポート発表） 13. 言語と脳 14. 認知工学と脳 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要ない資料は配付する。		レポートと授業での発表内容により評価する。	

12 年度以前	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
認知科学は、人間の「知」のしくみやたらしきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。 授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。		授業計画は以下の通り 1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 視知覚の特性①（概説） 4. 視知覚の特性②（実験・調査） 5. 視知覚の特性③（レポート発表） 6. 音の知覚 7. 学習と記憶①（学習の原理） 8. 学習と記憶②（実験と調査） 9. 学習と記憶③（レポート発表） 10. 記憶のしくみ①（記憶の過程） 11. 記憶のしくみ②（実験と調査） 12. 記憶のしくみ③（レポート発表） 13. 言語と脳 14. 認知工学と脳 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要ない資料は配付する。		レポートと授業での発表内容により評価する。	

12 年度以前	教育科学特殊研究 I（異文化理解教育）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 異文化（間）教育の理論と実践を学ぶことで、多文化社会における人間形成や学校教育制度に関する基礎的な知識を身につけ、最終的には現在の学校が抱える課題について自身の考えを持つことを目標とする。 ●講義概要 2. ～4. では、異文化理解教育や、日本の置かれている状況等を概観する、いわば理論編である。グローバリゼーションや、異文化など身近な用語から理解をしていく。 6. ～11. は、日本の教育制度が抱える課題であるニューカマー（NC）、オールドカマー（OC）それぞれの教育課題を探究する。この2つは、同様に外国籍の子どもを対象とする点では一見類似しているが、それぞれの状況が大きく異なる。2つの教育問題は、結果として学校や教育に対する日本政府の考え方を顕在化させる。 13. ～15. は、上記のような教育や学校に対する考え方を他の国の政策との比較で考えていく。 少人数で、ディスカッションを多く用いながら授業を進めたいと考えている。		1. 授業に関するガイダンス 2. 国際化と教育 3. 異文化理解の教育 4. 日本の異文化間教育とその視点 5. まとめと討論 6. オールドカマーの子どもたち① 7. オールドカマーの子どもたち② 8. オールドカマーの子どもたち③ 9. ニューカマーの子どもたち① 10. ニューカマーの子どもたち② 11. まとめと討論 12. 多文化教育の国際比較① 13. 多文化教育の国際比較② 14. 多文化教育の国際比較③ 15. まとめと討論・日本はどうあるべきか	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する		①小テスト②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートなどを総合的に評価する。 ※評価方法等は1回目の授業で説明するので、必ず出席のこと。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	人間発達科学特殊研究（教師と語る） 教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は 9000 円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。		1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～7 実践記録を読む 8 研究会合宿参加のまとめ 研究会は、11 月 30 日・12 月 1 日（土・日）、またはその翌週の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）		研究会と講義への出席と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後は、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. グループ・ワークによる自己理解④ 14. グループ・ワークによる自己理解⑤ 15. 心理検査による自己理解のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。	

12 年度以前	教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスのチェックが欠かせません。そこで本講義では、スポーツに関わる身体の基本的な機能を学び、実際にスポーツパフォーマンスの向上に必要な様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。実際にスポーツ中の生理データを測定し、試合の映像を持ち寄って分析を行い、その成果を発表します。またビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。 ★35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用しますので、スポーツシューズと運動にふさわしい服装を用意してください。		1. ガイダンス 2. 身体の基本的な機能（骨格筋の働き） 3. 身体の基本的な機能（循環系の働き） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテスト実践（グループワーク） 6. 動作分析の基礎 7. 動作分析①（測定・グループワーク） 8. 動作分析②（解析・グループワーク） 9. ゲーム分析の基礎編 10. ゲーム分析①（試合の分析・グループワーク） 11. ゲーム分析②（試合の分析・グループワーク） 12. 運動強度測定（予定：バスケット・卓球） 13. 運動強度測定（予定：サッカー・バレーボール） 14. 成果発表① 15. 成果発表② *講義の内容の順番は変わる可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、グループ発表およびレポートの内容で総合的に判断します。	

12 年度以前	教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 木曜日 1 時限に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。		第 1 回授業時、第 2 回授業時に提示します。 基本的なスポーツは次の通りですが、受講生の人数等で変更があります。 1 ガイダンス 2 スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3 トレーニングルーム利用法① 4 トレーニングルーム利用法② 5 フットサルコーチング① 6 フットサルコーチング② 7 ソフトボールコーチング① 8 ソフトボールコーチング② 9 インラインホッケーコーチング① 10 インラインホッケーコーチング② 11 ショートテニスコーチング① 12 ショートテニスコーチング② 13 コーチング方法の分類① 14 コーチング方法の分類② 15 コーチング方法の分類③	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要により紹介し、プリントを配布する。		毎回の参加とコーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。	

12 年度以前	教育科学特殊研究VI（リーダーシップ論）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって 1 位を決定し、1 位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。		1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動 1 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動 2 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて資料を配布します。		出席、授業への取り組み姿勢、小レポート、期末レポート 企画コンテスト 1 位のグループは成績に反映します	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネジメント）	担当者	川北 準人
講義目的、講義概要		授業計画	
〔目的〕 マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。 〔講義概要〕 1980 年から 1990 年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応じてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。 〔受講生への要望〕 適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。		〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.スポーツ・マネジメントの研究動向 5.我が国におけるスポーツ組織の組織論的分析 6.マーケティングとイノベーション 7.諸外国のスポーツ・マネジメント（NCAA を事例に）① 8.諸外国のスポーツ・マネジメント（NCAA を事例に）② 9.マーケティングとイノベーション 10.学生スポーツのマネジメント① 11.学生スポーツのマネジメント② 12.プロスポーツのマネジメント 13.我が国における健康教育のマネジメント 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜資料を配布する。		〔評価方法〕 出席状況、授業態度、そして期末試験の結果を総合的に評価する。	

12 年度以前	教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論）	担当者	山岸 倫子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、ボランティアとは何かということについて、実践例を基に学習していきます。ボランティア活動がどのように発達し、どのような意義を持っているのか、現在どのようなボランティア活動が実践されているのかという点にとどまらず、批判的な見解も踏まえたうえでの意義を学習することを目的としています。 実践例の紹介や、DVD視聴など、理解を促進する教材を適宜用いながら、講義を進めていく予定です。		1. ボランティアの歴史 2. ボランティアの意義 3. 現代社会におけるボランティア活動領域 4. ボランティア活動の実践領域 5. ボランティアを否定する運動 6. ボランティアと法制度 7. グループワーク 8. ボランティア活動の実例① 9. ボランティア活動の実例② 10. ボランティア活動の実例③ 11. 災害とボランティア 12. ボランティアの限界 13. ボランティアと組織化 14. ボランティア活動の基本姿勢 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しません。 講義中に随時紹介いたします。		授業態度：40% 出席：30% 期末試験：30%	

13 年度 12 年度以前	科学史Ⅰ 自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。他方、最新の科学知識は、私たちに生命や心とは何か問い直しを迫っており、科学の成果は核兵器など私たちの生命を脅かしてもあります。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのでしょうか。 この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています 春学期は、古代から「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀初めまでを対象とし、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観します。		1. ガイダンス、科学とはなにか？ 2. 科学的な考え方のはじまり（古代） 3. 古代世界の宇宙観 4. 地中海世界からアラビア世界へ 5. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 6. コペルニクスと地動説 7. 魔術と科学 8. 機械論的自然観と科学 9. ニュートンと科学革命 10. 科学アカデミーの誕生 11. 女性と科学 12. 産業革命と科学 13. フランス革命と科学 14. 「科学者（scientist）」の登場 15. 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。 参考書：中島秀人『社会の中の科学』、日本放送協会、2008年		中間レポート（文章の要約・1回）50％ 期末試験50％ ただし、出席態度も考慮することがある。	

13 年度 12 年度以前	科学史Ⅱ 自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	野澤 聡
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。他方、最新の科学知識は、私たちに生命や心とは何か問い直しを迫っており、科学の成果は核兵器など私たちの生命を脅かしてもあります。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのでしょうか。 この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています 秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀の初めから現代までを対象とし、科学が社会の中で大きな力を獲得していく様子について、具体的な事例に焦点を当てて概観します。		1. ガイダンス、「科学者（scientist）」とはだれか？ 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. 科学の制度化と専門職業化 4. 科学の産業化 5. 公害の発生と科学 6. 進化論と社会 7. 科学と国家 8. 研究所の誕生と展開 9. 現代科学の登場と自然観の転換 10. 大量生産時代の科学 11. 科学と戦争 12. ビッグ・サイエンスの誕生 13. 地球環境問題と科学 14. 科学技術政策の展開 15. 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。 参考書：中島秀人『社会の中の科学』、日本放送協会、2008年		中間レポート（文章の要約・1回）50％ 期末試験50％ ただし、出席態度も考慮することがある。	

13 年度 12 年度以前	数学Ⅰ 自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。		1. はじめに 2. 命題と論理式 3. 真理表と命題の同値 4. 条件文 1 5. 条件文 2 6. 推論と証明 7. 論理式と代数 1 8. 論理式と代数 2 9. 論理と集合 1 10. 論理と集合 2 11. 推論の応用 1 12. 推論の応用 2 13. 推論の応用 3 14. 問題演習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』（講談社現代新書 2004 年）		毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定	

13 年度 12 年度以前	数学Ⅱ 自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」や「期待値」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げ、「確率分布」の「平均」や「分散」についても考察します。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。		1. はじめに 2. 場合の数と集合 3. 順列・組合せ 4. 標本空間と事象 5. 確率 1 6. 確率 2 7. 事象の独立と条件付確率 8. 確率変数と確率分布 1 9. 確率変数と確率分布 2 10. 二項分布 11. 正規分布 12. 確率分布の平均 13. 確率分布の分散 14. 問題演習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）		毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定	

13 年度 12 年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 a） 自然・環境研究 V（宇宙論 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a」では、まず、「近代科学以前の宇宙論」を概観し、次に、様々な天体現象の観察による「近代的宇宙観の成立」と、相対性理論による「現代的宇宙観の成立」を見ていきます。そして、「現代宇宙論」で確立されたビッグバン宇宙について解説します。		1. はじめに 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 近代的宇宙観の成立 1 4. 近代的宇宙観の成立 2 5. 近代的宇宙観の成立 3 6. 現代的宇宙観の成立 1 7. 現代的宇宙観の成立 2 8. 現代的宇宙観の成立 3 9. 現代宇宙論 1 10. 現代宇宙論 2 11. 現代宇宙論 3 12. 現代宇宙論 4 13. 現代宇宙論 5 14. 問題演習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定	

13 年度 12 年度以前	総合科学特殊研究（宇宙論 b） 自然・環境研究 VI（宇宙論 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b」では、「現代宇宙論」において近年得られた知見による「宇宙膨張の観測と理論」、「宇宙における天体の形成」、「宇宙における物質の形成」について解説します。また、まだ解決していない「現代宇宙論の諸課題」についても取り上げます。		1. はじめに 2. 宇宙膨張の観測と理論 1 3. 宇宙膨張の観測と理論 2 4. 宇宙における天体の形成 1 5. 宇宙における天体の形成 2 6. 宇宙における物質の形成 1 7. 宇宙における物質の形成 2 8. 宇宙における物質の形成 3 9. 宇宙における物質の形成 4 10. 現代宇宙論の諸課題 1 11. 現代宇宙論の諸課題 2 12. 現代宇宙論の諸課題 3 13. 現代宇宙論の諸課題 4 14. 問題演習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）		毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定	

13 年度 12 年度以前	地球環境論Ⅰ 自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーション—地理学とは 2. 環境の諸要素（1）気候環境 3. 環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素（3）地形・植生 5. 熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域（3）熱帯林の保全 8. 沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特長 11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

13 年度 12 年度以前	地球環境論Ⅱ 自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b）	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地帯、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. 環境の諸要素—地形環境 2. 温帯草原地域の自然特性 3. 温帯草原地域の開発と環境問題 4. 温帯混合林地帯（1）高密度都市化地域の特性 5. 温帯混合林地帯（2）産業革命と都市域の拡大 6. 亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7. 亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8. 山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9. 山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）私たちにできること 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

12 年度以前	自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察 a）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 - 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることを目標とする。 履修資格 - 植物名に関心があること。 - 普通の植物 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5 月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5 月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6 月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6 月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7 月の花 1 13 7 月の花 2 14 7 月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

12 年度以前	自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 - 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることが目標とする。 講義の目的 - 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることが目標とする。 履修資格 - 植物に興味があり、地理が好きであること。 - 普通の植物 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10 月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10 月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11 月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11 月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12 月の花 1 13 12 月の花 2 14 12 月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

12 年度以前	自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。 抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 - 詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること目標とする。 履修資格 - 身近な植物 100 種以上認識できること		1 はじめに 講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウォッチング 1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 ① 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ② 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 身近な植物の観察 2 花の構造 8 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 3 果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4 果実の形態 ② 11 身近な植物の観察 5 葉の形態 ① 12 身近な植物の観察 6 葉の構造 ② 13 身近な植物の観察 7 根の構造 ① 14 身近な植物の観察 8 根の構造 ② 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

12 年度以前	自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。 抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 - 詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること目標とする。 履修資格 身近な植物 100 種以上認識できること。		1 はじめに：講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウォッチング 1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウォッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 身近な植物の観察 6 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回 プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

13 年度 12 年度以前	コンピュータと言語 多言語情報処理研究 I（コンピュータと言語）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I（表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

13 年度 12 年度以前	情報科学各論 I 多言語情報処理研究各論 I（表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

12 年度以前	多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する。 講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索のための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：必要に応じて配布する 参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6，2007（樹村房）		出席（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

13 年度 12 年度以前	情報科学各論Ⅱ 多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】本講義は Microsoft Office Access を利用して、データベースの概念や設計方法や構築手法について学習する。 【概要】データベースの歴史から始め、データベースの概念や、設計方法や、構築手法などを解説しながら、Microsoft Office Access というソフトウェアを利用して、実際の操作を行う。さらに、実習問題を通して、データベースの概念及び設計に対する理解を深める。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。		1. 授業ガイダンス 2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類 3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法 4. Microsoft Office Access 入門 5. Microsoft Office Access 基本操作（1） 6. Microsoft Office Access 基本操作（2） 7. Microsoft Office Access 基本操作（3） 8. テーブルの構築と操作（1） 9. テーブルの構築と操作（2） 10. クエリ（1） 11. クエリ（2） 12. リレーションシップの構築 13. レポートの印刷 14. 総合演習 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：30 時間でマスター『Access 2010』，（実教出版）		出席（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。		1. 英語学習実態調査 → アンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ → テスト問題作成 2-3. (1) データを集めてみよう → 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量、間隔変量、順位変量、名義変量 (2) データの傾向を見よう → 度数分布、相対度数、度数分布表 (3) データをグラフ化しよう → 量的変数のグラフ表現、質的変数のグラフ表現 4. データの特徴を数値で表そう その1 → 代表値（平均値、中央値、最頻値）、値の広がり、能力テストと到達度テスト 5. データの特徴を数値で表そう その2 → 正規分布、散布度（標準偏差）、歪度、尖度、標準得点、偏差値 6. データを採点しよう（これまでのまとめ） → 表計算ソフトによる採点・集計 7. テストを見直す → 信頼性係数、項目分析、ロジスティック回帰分析 8. 偶然か、特殊能力か？ → 記述統計と推測統計、仮説（帰無仮説、対立仮説） 9. 学習時間と成績には関係があるか？ → 相関散布図、相関係数、回帰直線、欠損値の推定、相関検定 10. あさがお観察日記 → 対応がない場合の t 検定、分散分析 11. ダイエット観察日記 → 対応がある場合の t 検定、プリテスト・ポストテスト、時系列分析 12. 出身地と種類の好みに関係はあるか？ → クロス集計、カイ二乗検定 13. 駅前出店計画 → 判別分析 14. おいしい料理のための食材分量 → 重回帰分析 15. 隠れた傾向を探り出す → 主成分分析、因子分析	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み：統計データ分析入門』（秀和システム, 2004）ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験 (80%)+ 平常授業におけるまとめ (20%)) x 出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語情報処理研究各論Ⅵ（コーパス言語学）	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語教育のための、コンピュータを使用した言語分析の方法をまなぶ。よってコンピュータはあくまで道具であり、それ自体が目的となるものではない。授業の目的は、基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。 なお、コンピュータについての専門的な知識はまったく必要ないが、日本語分析についての知識は、あるほうがのぞましい。 〔講義概要〕 授業は、教員が簡単なモデルを提示したあと、練習問題をだすので、それを受講生が実習するという形式を原則とする。さらに簡単なコーパスの設計と組み立て、それを利用した簡単な研究を課題としてあたえるので、履修者には、課題をこなして、発表することがもとめられる。		1. コンピュータとDOS 2. テキストファイル 3. コーパスの設計と構築 4. データのダウンロード 5. 正規表現 6. テキスト処理・GREP検索(1) 7. テキスト処理・GREP検索(2) 8. 形態素解析・茶筌(1) 9. 形態素解析・茶筌(2) 10. テキストマイニング・Kh-coder(1) 11. テキストマイニング・Kh-coder(2) 12. 最終発表(コーパスによる分析)(1) 13. 最終発表(コーパスによる分析)(2) 14. 最終発表(コーパスによる分析)(3) 15. 最終発表(コーパスによる分析)(4)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。参考文献は開講後指示する。		発表(60%)と出席(40%)で評価する。	

12 年度以前	多言語情報処理特殊研究 I（自然言語処理 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。		1. 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2. 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 3. 自然言語処理の予備知識 4. 形態素解析（1）形態素解析の原理と方法 5. 形態素解析（2）日本語と英語の形態素解析実験 6. 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 7. 構文解析（1） 文脈自由文法、句構造文法 8. 構文解析（2） 構文解析の原理と実験 9. 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10. コーパス、言語データベースの構造と使い方 11. 言語の統計処理技術 12. 言語処理とオントロジー 13. 総合演習 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（1） 最初の講義で指示します。 （2） 必要な資料を配布します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語情報処理特殊研究Ⅲ（プログラミング論 a）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic 2005 を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習します。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。		1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語とプログラム 3 開発ツールとしての Visual Basic の基本 4 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 5 Visual Basic の基本操作 6 簡単なプログラムの作成 7 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作 8 イベント駆動型プログラム 9 文字の表示と計算プログラム 10 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 11 選択構造をもつプログラム（1） 12 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 13 選択構造をもつプログラム（2） 14 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 15 繰り返しあるプログラムの作成（1） 16 回数指定による繰り返し 17 繰り返しあるプログラムの作成（2） 18 条件指定による繰り返し 19 アルゴリズムの原理と演習 20 総合練習、課題の作成 21 講義のまとめ 22 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業に説明します。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	多言語情報処理特殊研究VI（マルチメディア論）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
動画などは今やインターネットの世界では常識的なことになってきている。しかしそれは、ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人は少ない。その基本的原理は、最近話題のパラパラ漫画であるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、より一層の深化につなげられるものとしたい。基本的には自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。		1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作品制作 5. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 6. シンボルの制作、保存。レイヤーの利用 7. 作品の制作① 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 写真の利用 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

12 年度以前	卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際教養学部では、全在学期間を通して学んだ集大成として、卒業研究を必修にしています。形式は、卒業論文や卒業制作などですが、各自、所属する演習の担当教員と相談してください。そこで指導をうけながら、卒業研究の進め方を決めていってください。		各担当教員による	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。	

12 年度以前	卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照			
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス	担当者	松原 裕 依田 珠江 和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。 講義概要 この授業用に指定クラスを編成し、各クラスが3人の教員の授業をローテーションで受講します。 詳細は第1週のガイダンスで説明します。		1. ガイダンスと写真付受講票の作成 2—5、6—10、11—15週でローテーションの予定。 松原担当は硬式テニス・フットサル・ソフトボール・アルティメットなどを人工芝グラウンドで行う予定。 依田担当はボール・ラケット競技などをアリーナで行う予定。 和田担当はコミュニケーションゲーム（アイスブレイキング）・イニシアティブゲーム・ペタンク・アウトドアクッキング又はレクリエーションスポーツなどを行う予定。 注意：1回目の授業は指定の教室に顔写真1枚と筆記用具を持参し、この授業用の指定クラスを確認して集合してください。更衣する必要はありません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎回の出席、受講態度を総合して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度 12 年度以前	日本語 1 初級日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語初級後半から中級前半の日本語を学ぶ。動詞の活用形としては、マス形、ル形、ナイ形、テ形、タ形の学習は終了しているレベルからスタートする。本コースで初級前半の復習及び新たにバ形、意志形、敬語、受身・使役など、日本語能力試験の N3 レベル相当の文法・読解能力を習得することが目的となる。理解語彙数は約 2,000、漢字は理解のみのものを含め 400 字程度を学習する。本コース終了時には、基本的なコミュニケーション能力を身に付け、日常の生活に対応できるようになって欲しい。そのためには、予習・復習をきちんと行い、教室外でも積極的に日本語を使っていく態度が求められる。		1 4 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月、火、水、木 : 3 コマ (1 ~ 3 限) 金 : 2 コマ (1 ~ 2 限) 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本語初級『大地 2』 『日本語集中トレーニング』 『日本語を楽しく読む本・初中級』 漢字練習帳 (プリント) 単語練習帳 (プリント) 多読用教材 その他		毎回のチャプターテスト 会話テスト 期末テスト 出席 クラスへの参加度	

13 年度 12 年度以前	日本語 2 中級日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースでは日本語中級レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を習得することが目的になる。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、密度の濃い授業が行われる。予習・復習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。 このレベルでは、理解語彙数は 6,000 程度、理解／産出が求められる漢字数は 1,000 程度と急激に増える。特に読解文については、長文になり、構文も複雑になる一方、その内容を正確に理解し、要約する能力が求められる。一般的なコミュニケーション能力を身に付けることは当然ながら、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成など大学生として必要な技能も学んでいく。		1 4 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月、火、水、木 : 3 コマ (1～3 限) 金 : 2 コマ (1～2 限) 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『中級からまなぶ日本語』 2. 『会話に挑戦』 3. 『中級から学ぶ日本語ワークブック』 4. 同、練習帳 5. 同、聞き取り練習問題 6. 単語練習帳 7. 漢字リスト		1. 毎回のチャプターテスト 2. 会話テスト 3. プレゼンテーション 4. 期末テスト 5. 作文 6. 出席 7. クラスへの参加度	

13 年度 12 年度以前	日本語 2 中級日本語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースでは日本語中級レベルに相当する 4 技能の総合的な能力を習得することが目的になる。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、密度の濃い授業が行われる。予習・復習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。 このレベルでは、理解語彙数は 6,000 程度、理解／産出が求められる漢字数は 1,000 程度と急激に増える。特に読解文については、長文になり、構文も複雑になる一方、その内容を正確に理解し、要約する能力が求められる。一般的なコミュニケーション能力を身に付けることは当然ながら、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成など大学生として必要な技能も学んでいく。		1 4 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月、火、水、木 : 3 コマ (1～3 限) 金 : 2 コマ (1～2 限) 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『中級からまなぶ日本語』 2. 『会話に挑戦』 3. 『中級から学ぶ日本語ワークブック』 4. 同、練習帳 5. 同、聞き取り練習問題 6. 単語練習帳 7. 漢字リスト		1. 毎回のチャプターテスト 2. 会話テスト 3. プレゼンテーション 4. 期末テスト 5. 作文 6. 出席 7. クラスへの参加度	

13 年度 12 年度以前	日本語 3 上級日本語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースでは日本語上級レベル(日本語能力試験 N2~N1 レベル) に相当する 4 技能、大学における学習・研究の基礎として役立つような総合的な日本語能力を習得することが目的となる。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、より高度な内容の授業となる。予習・復習をしっかりと行うのは当然ながら、積極的に授業に参加するだけでなく、より自立的に学んで欲しい。 このレベルでは、理解語彙数は 10,000~10,200 語程度、理解／産出が求められる漢字数は 2,000 程度と急激に増える。読解文については、後半になると、様々な分野からの生教材を読むことになり、構文・内容ともにより複雑になる。その内容を正確に理解し、要約し、クラスで討論する能力を身に付けることも求められる。		1 4 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月、火、水、木 : 3 コマ (1~3 限) 金 : 2 コマ (1~2 限) 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『上級で学ぶ日本語』 2. 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』 3. 同、文法テキスト 4. 『日本語上級読解』 5. 『日本語上級話者への道』 6. プレゼンテーションテキスト		1. 毎回のチャプターテスト 2. 会話テスト 3. プレゼンテーション 4. 期末テスト 5. 作文 6. 出席 7. クラスへの参加度	

13 年度 12 年度以前	日本語 3 上級日本語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースでは日本語上級レベル(日本語能力試験 N2~N1 レベル) に相当する 4 技能、大学における学習・研究の基礎として役立つような総合的な日本語能力を習得することが目的となる。そのため、読解、会話、作文、聴解の全てにわたって、より高度な内容の授業となる。予習・復習をしっかりと行うのは当然ながら、積極的に授業に参加するだけでなく、より自立的に学んで欲しい。 このレベルでは、理解語彙数は 10,000~10,200 語程度、理解／産出が求められる漢字数は 2,000 程度と急激に増える。読解文については、後半になると、様々な分野からの生教材を読むことになり、構文・内容ともにより複雑になる。その内容を正確に理解し、要約し、クラスで討論する能力を身に付けることも求められる。		1 4 単位のコースで以下のクラスの全てに参加することになる。 月、火、水、木 : 3 コマ (1~3 限) 金 : 2 コマ (1~2 限) 詳しい授業予定は、オリエンテーションで配布	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『上級で学ぶ日本語』 2. 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』 3. 同、文法テキスト 4. 『日本語上級読解』 5. 『日本語上級話者への道』 6. プレゼンテーションテキスト		1. 毎回のチャプターテスト 2. 会話テスト 3. プレゼンテーション 4. 期末テスト 5. 作文 6. 出席 7. クラスへの参加度	

13 年度 12 年度以前	専門日本語 上級日本語Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースは、日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修に当たって、必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は、日本社会の現状について理解を深める内容が中心となり、専門性の高いものになっている。4技能の高い能力（N1級レベル以上）を身につけることが求められるので、予習・復習を十分にしておいて授業に臨んで欲しい。また、日本語だけでなく、様々な社会問題にも意識を向け、日常から新聞などに目を通しておくこと。 <u>授業内容</u> 1. プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中、少なくとも2回のプレゼンテーションをする。 2. 読解：トピックに関連した内容の記事を様々な本、雑誌、新聞、インターネットなどより収集し、精読、速読、スキミング、スキニングなど異なる読解法を学ぶ。 3. 作文：基本的には授業内で作文をする。要約、引用、レポート作成など、豊かな表現力を身に付ける。 4. 討論・意見交換：読解内容について互いに意見や考えを交換しあい、内容についてだけではなく相手への理解を深める。 5. 聴解：読解のトピックに関連するテレビレポート、ニュースなどを見ながら、聴解力を養うとともに、理解を深める。		読解教材： クラス内で配布、但し変更の可能性もある。 単位数： 10単位 以下の曜日に、2コマの計10コマを1週間に履修する 月、火、水、木 金： 1限、3限 内容にもよるが、1トピックを大体6～8コマで終了し各トピック終了時にテストを行う。 1. 異文化コミュニケーション 2. 日本文学 3. 少子高齢化 4. 起業 5. ポップカルチャー 6. 国際社会 7. 日本を知る 8. 若者のライフスタイル 9. 医療と健康 10. 情報社会 11. 就職・企業・人材 12. 食文化・食生活 13. 宗教・社会 14. 科学技術	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. プリント 2. 参考文献はクラスで紹介する。		1. テスト結果 2. 作文（宿題） 3. プレゼンテーション 4. 出席 5. クラスへの参加度	

13 年度 12 年度以前	専門日本語 上級日本語Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本コースは、日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修に当たって、必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は、日本社会の現状について理解を深める内容が中心となり、専門性の高いものになっている。4技能の高い能力（N1級レベル以上）を身につけることが求められるので、予習・復習を十分にしておいて授業に臨んで欲しい。また、日本語だけでなく、様々な社会問題にも意識を向け、日常から新聞などに目を通しておくこと。 <u>授業内容</u> 1. プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中、少なくとも2回のプレゼンテーションをする。 2. 読解：トピックに関連した内容の記事を様々な本、雑誌、新聞、インターネットなどより収集し、精読、速読、スキミング、スキニングなど異なる読解法を学ぶ。 3. 作文：基本的には授業内で作文をする。要約、引用、レポート作成など、豊かな表現力を身に付ける。 4. 討論・意見交換：読解内容について互いに意見や考えを交換しあい、内容についてだけではなく相手への理解を深める。 5. 聴解：読解のトピックに関連するテレビレポート、ニュースなどを見ながら、聴解力を養うとともに、理解を深める。		読解教材： クラス内で配布、但し変更の可能性もある。 単位数： 10単位 以下の曜日に、2コマの計10コマを1週間に履修する 月、火、水、木 金： 1限、3限 内容にもよるが、1トピックを大体6～8コマで終了し各トピック終了時にテストを行う。 1. 異文化コミュニケーション 2. 日本文学 3. 少子高齢化 4. 起業 5. ポップカルチャー 6. 国際社会 7. 日本を知る 8. 若者のライフスタイル 9. 医療と健康 10. 情報社会 11. 就職・企業・人材 12. 食文化・食生活 13. 宗教・社会 14. 科学技術	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. プリント 2. 参考文献はクラスで紹介する。		1. テスト結果 2. 作文（宿題） 3. プレゼンテーション 4. 出席 5. クラスへの参加度	

シラバス 言語文化学科

2013 年 4 月 1 日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1664



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	